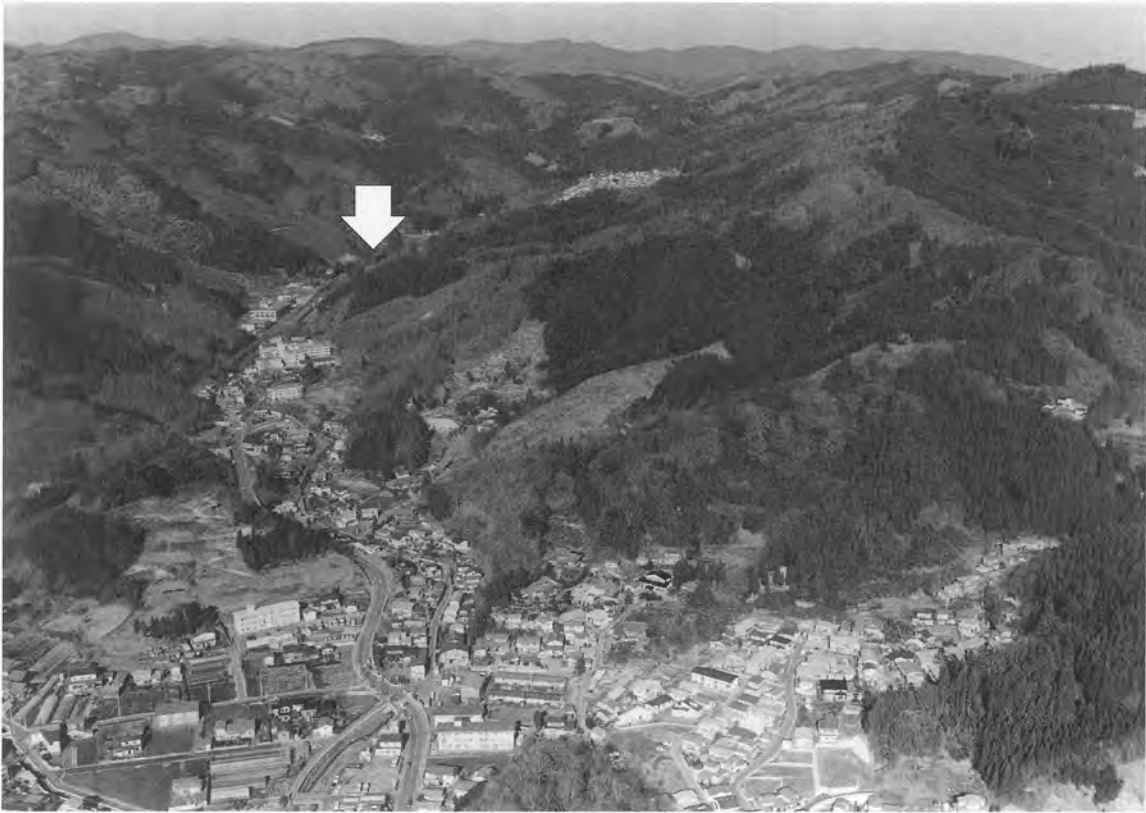
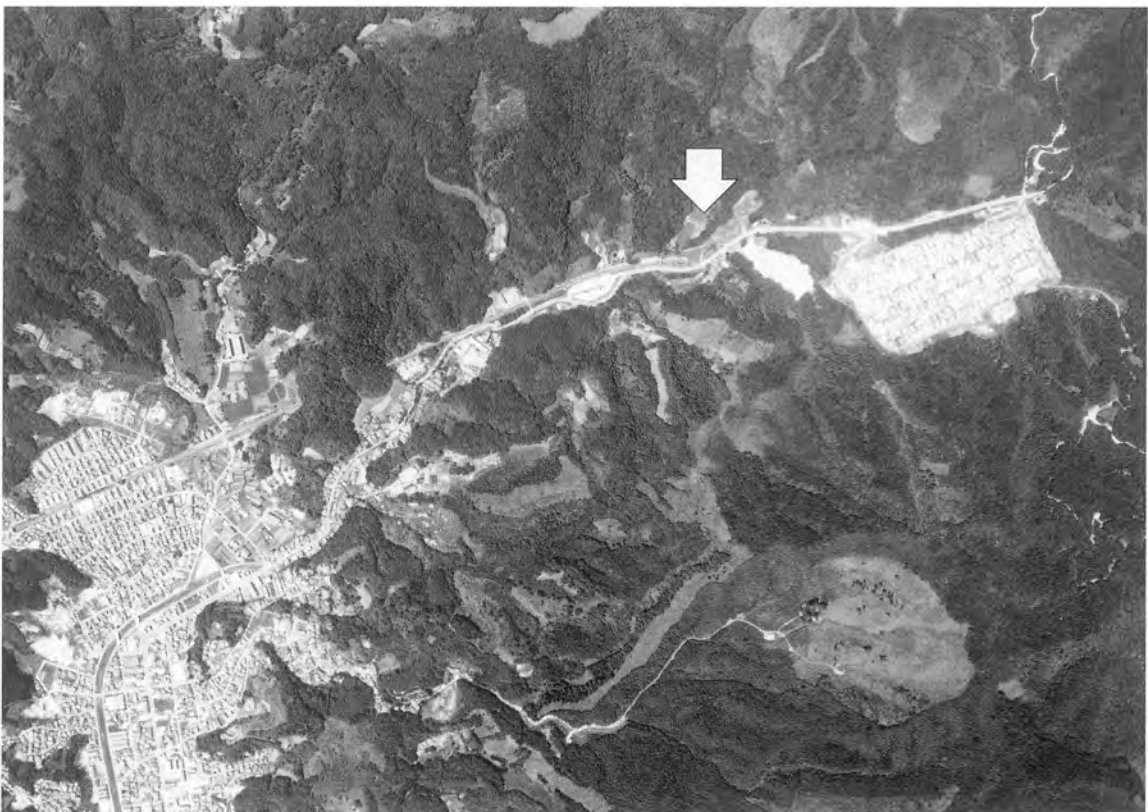


写真図版



1. 牛沢遺跡 航空写真 (南→)



2. 牛沢遺跡 航空写真 (昭和54年) (東→)



3. 牛沢遺跡 遠景（南→）



4. 調査前状況（東→）



5. 牛沢遺跡 全景 (東→)



6. 遺構検出状況 (西→)



7. 調査区南壁深掘セクション（東→）



8. 調査区南壁深掘セクション（北西→）



9. 調査区南壁深掘セクション（北→）



10. 調査区南壁深掘セクション（北→）



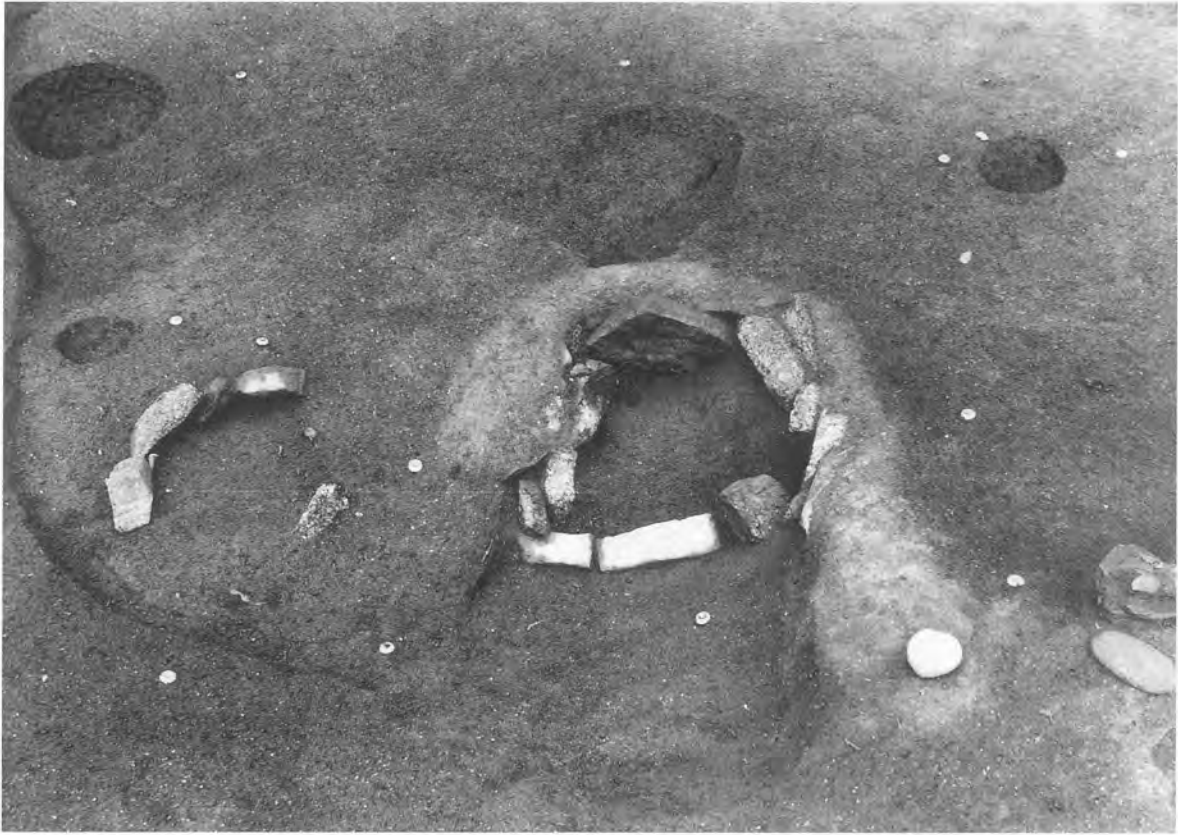
11. 調査区西壁深掘セクション（南→）



12. 第1号竖穴住居跡 完掘状況 (南→)



13. 第1号竖穴住居跡 遺物出土状況 (南→)



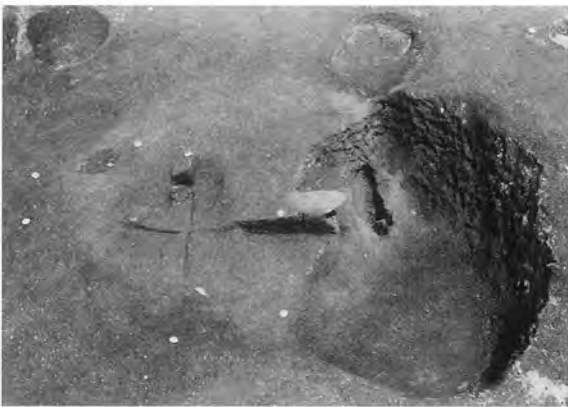
14. 第1号竖穴住居跡 炉跡検出状況 (南→)



15. 第1号竖穴住居跡 1号炉跡セクション (西→)



16. 第1号竖穴住居跡 2号炉跡セクション (南→)



17. 第1号竖穴住居跡 炉跡掘方検出状況 (南→)



18. 第1号竖穴住居跡 堆積状況 (南→)



19. 第2号竖穴住居跡 完掘状況（北→）



20. 第2号竖穴住居跡 炉跡検出状況（北→）



21. 第2号竖穴住居跡 炉跡セクション（東→）



22. 第2号竖穴住居跡 堆積状況（東→）



23. 第2号竖穴住居跡 遺物出土状況（南→）



24. 第3号竖穴住居跡 完掘状況 (南西→)



25. 第3号竖穴住居跡 検出状況 (南東→)



26. 第3号竖穴住居跡 遺物出土状況 (南西→)



27. 第3号竖穴住居跡 遺物出土状況 (北→)



28. 第4号竖穴住居跡 完掘状況 (北→)



29. 第4号竖穴住居跡 遺物出土状況（北→）



30. 第4号竖穴住居跡 堆積状況（東→）



31. 第4号竖穴住居跡 遺物出土状況（北→）



32. 第4号竖穴住居跡 1号炉跡検出状況（南→）



33. 第4号竖穴住居跡 2号炉跡検出状況（南→）



34. 第5号竖穴住居跡 完掘状況 (南→)



35. 第5号竖穴住居跡 炉跡セクション (東→)



36. 第6号竖穴住居跡 完掘状況 (西→)



37. 第6号竖穴住居跡 堆積状況 (東→)



38. 第6号竖穴住居跡 堆積状況 (南東→)



39. 第6号竖穴住居跡 炉跡検出状況 (南→)



40. 第6号竖穴住居跡 炉跡セクション (東→)



41. 第6号竖穴住居跡 炉跡掘方検出状況 (東→)



42. 第6号竖穴住居跡 柱穴配置 (北→)



43. 第1号土坑 完掘状況 (南→)



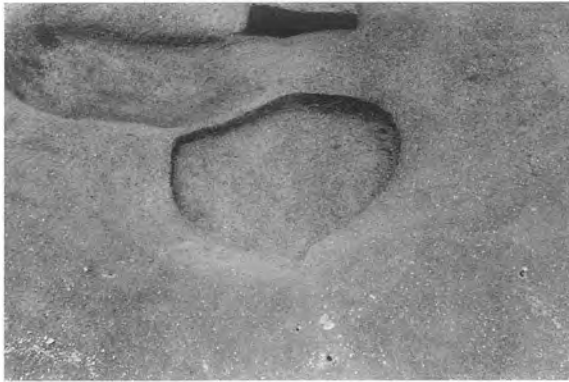
44. 第1号土坑 遺物出土状況 (東→)



45. 第2号土坑 完掘状況 (南→)



46. 第3号土坑 完掘状況 (北→)



47. 第4号土坑 完掘状况 (北→)



48. 第5号土坑 完掘状况 (东→)



49. 第5号土坑 堆積状况 (南东→)



50. 第5号土坑 遺物出土状况 (南→)



51. 第6号土坑 完掘状况 (南→)



52. 第6号土坑 堆積状况 (南→)



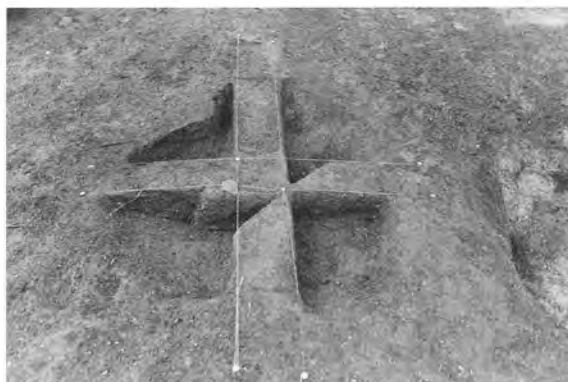
53. 第7号土坑 完掘状况 (北→)



54. 第7号土坑 遺物出土状况 (北→)



55. 第1号焼土遺構 完掘状況 (南→)



56. 第1号焼土遺構 セクション (南→)



57. 第2号焼土遺構 完掘状況 (南→)



58. 第2号焼土遺構 セクション (南→)



59. 遺物包含層 堆積状況 (南東→)



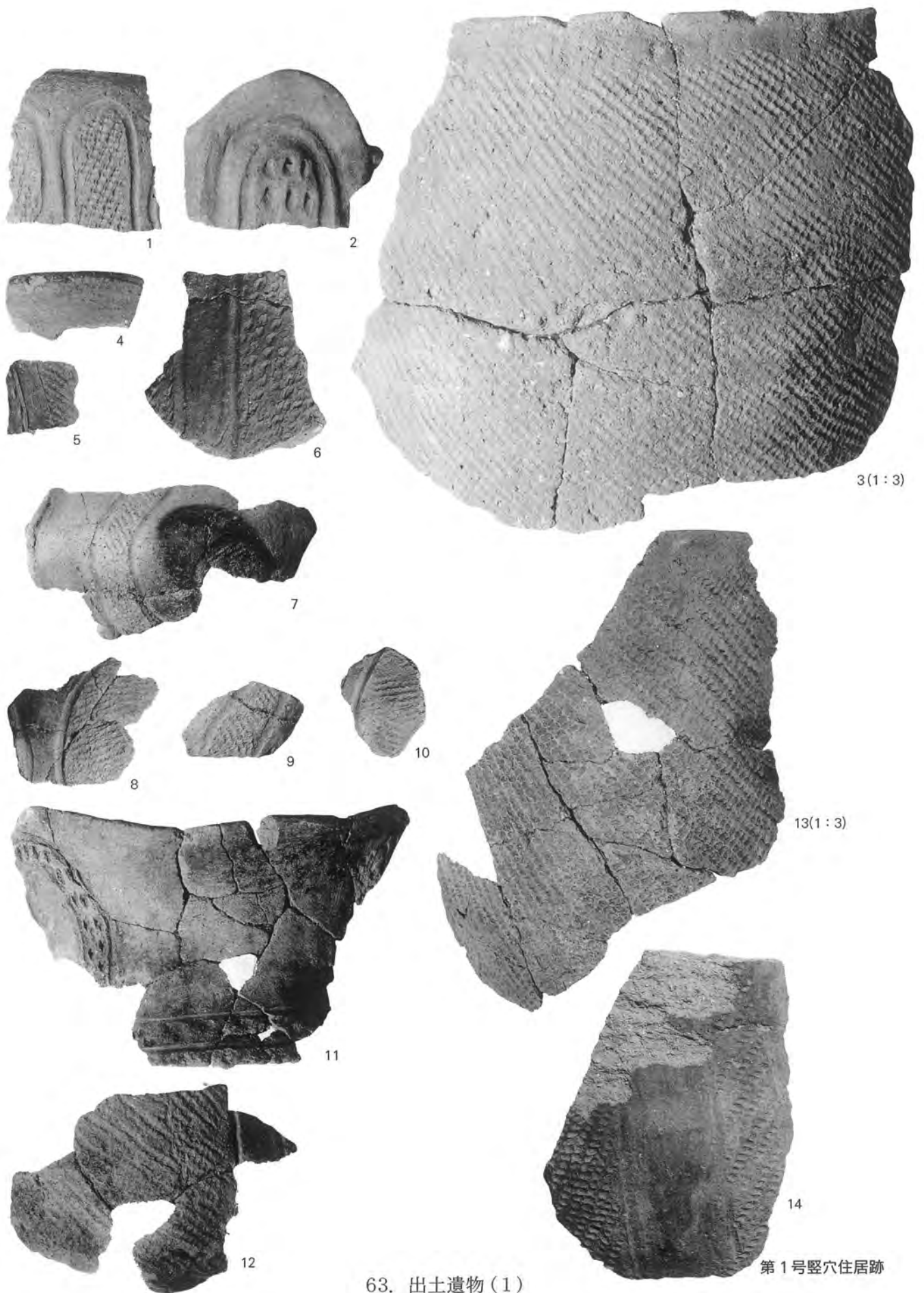
60. 遺物包含層 遺物出土状況 (南東→)



61. 第1号ピット群周辺 完掘状況 (南→)



62. 調査風景 (西→)



63. 出土遺物(1)

第1号竖穴住居跡



15(1:3)



17



18



16(1:3)



19



20



21



22



23



24



27(1:3)



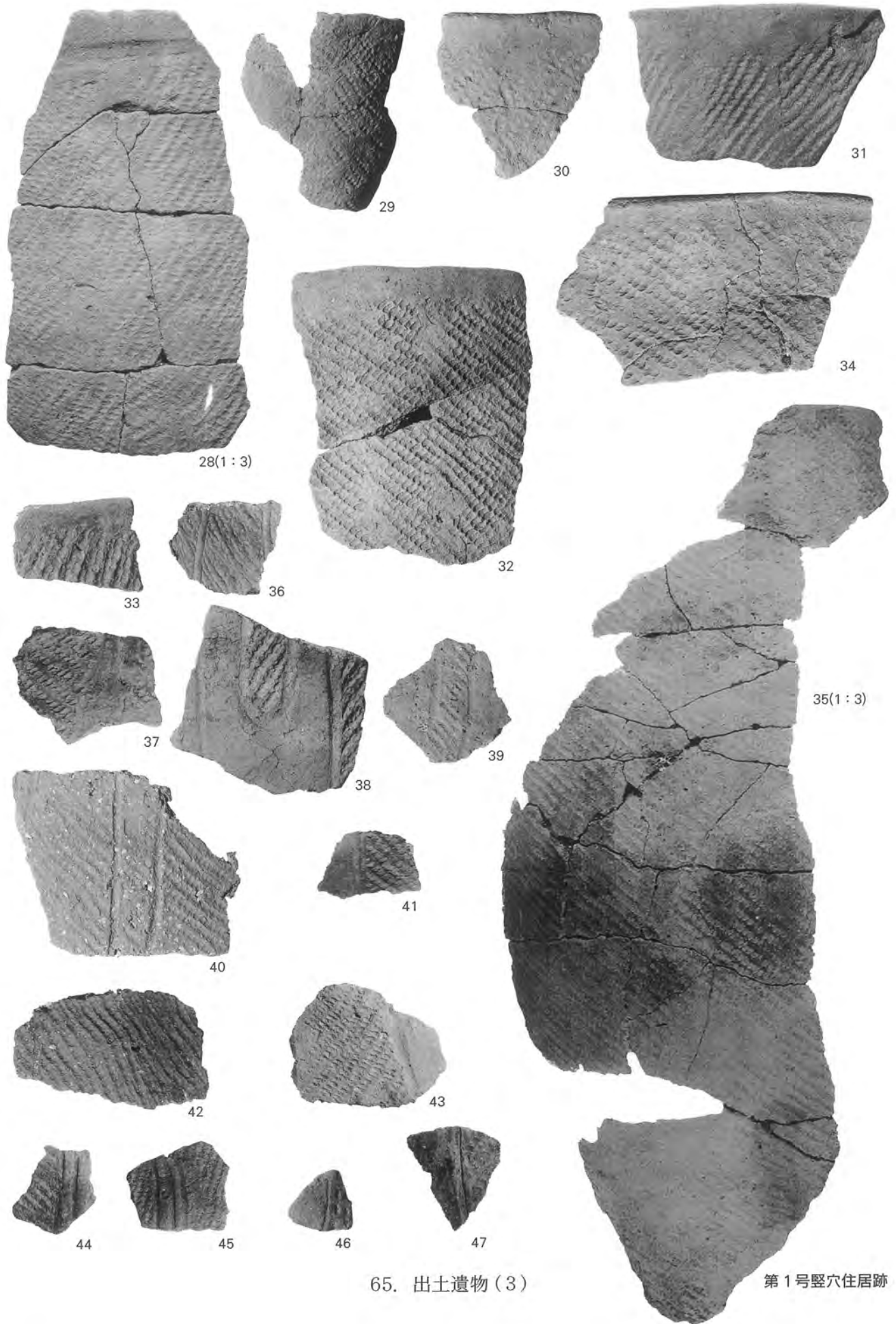
25

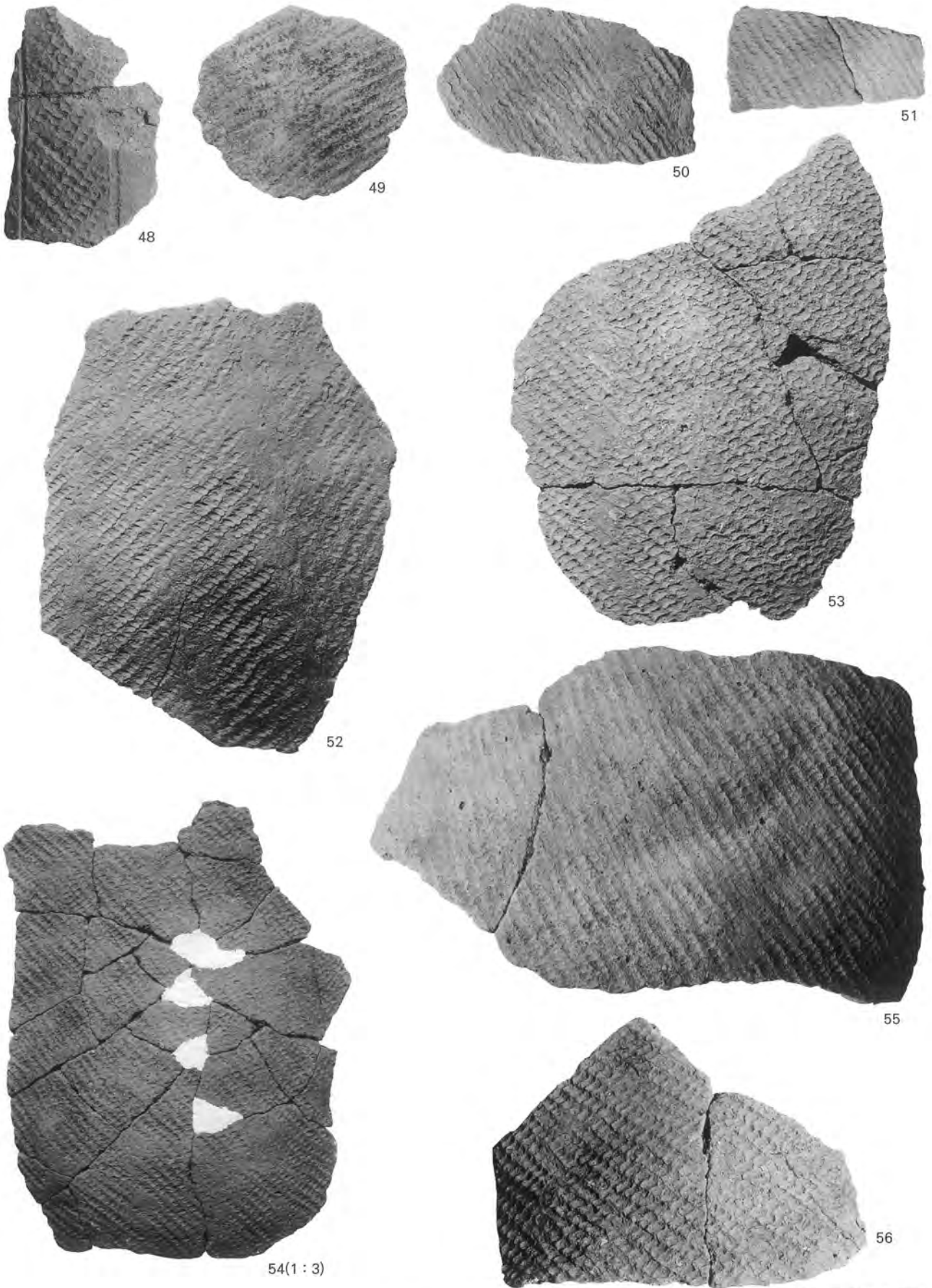


26

64. 出土遺物(2)

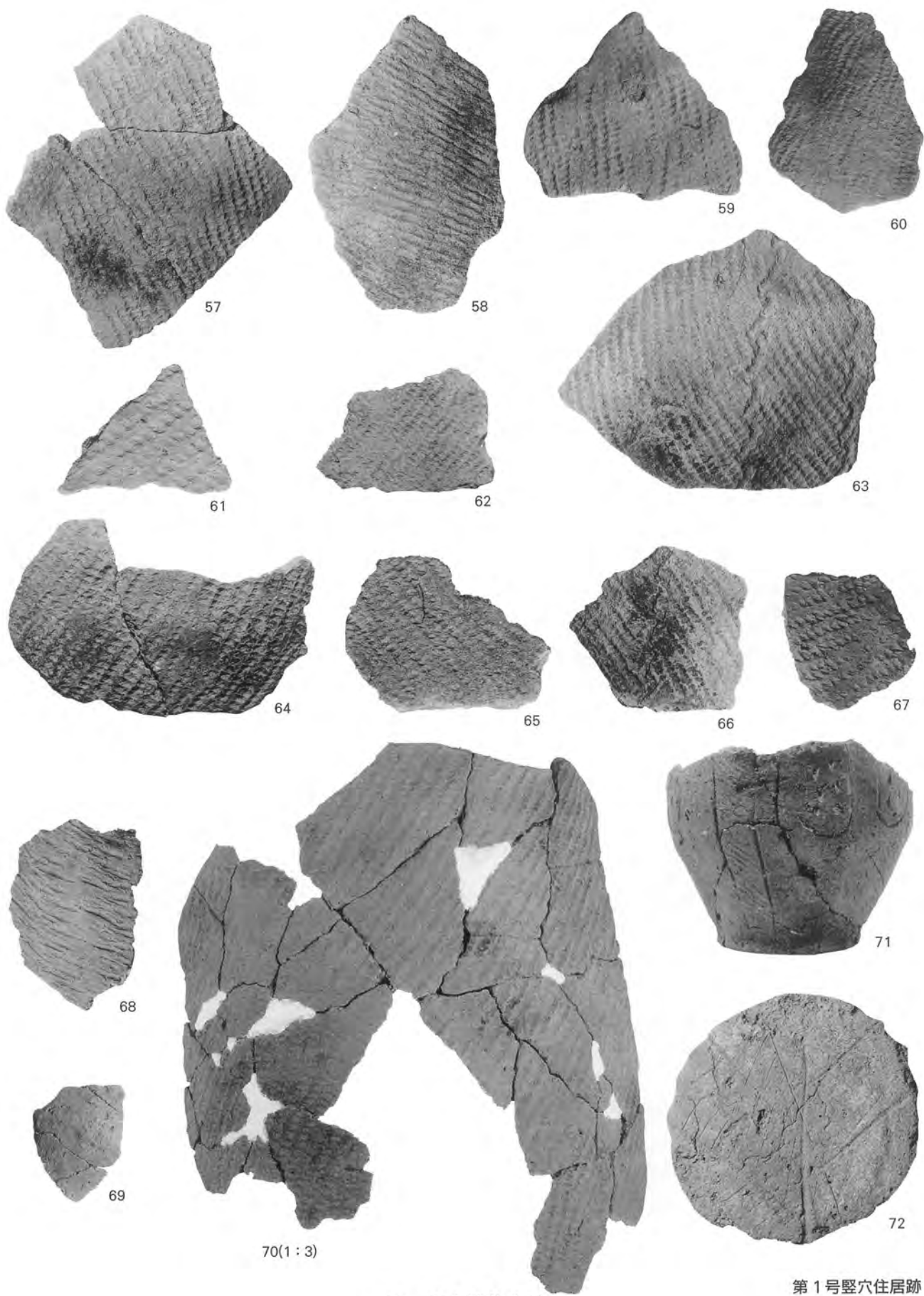
第1号竖穴住居跡





66. 出土遺物(4)

第1号竖穴住居跡



67. 出土遺物(5)

第1号竖穴住居跡



73



74



75



76(1:3)



84(1:6)



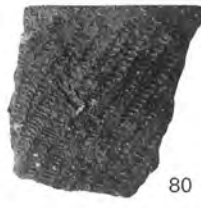
77



78



79



80



81



83



85



86



87



88



82



89



90



91



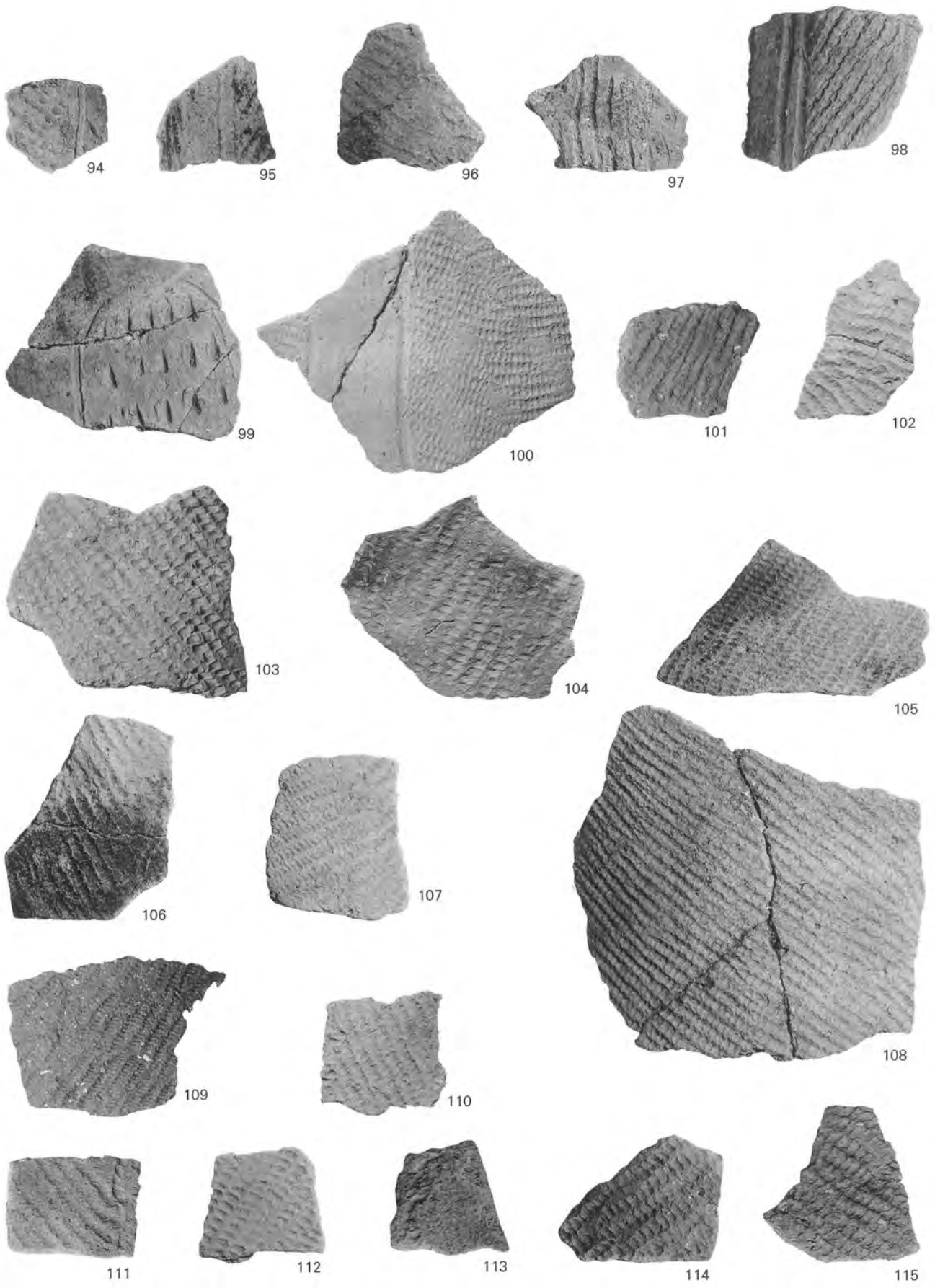
92



93

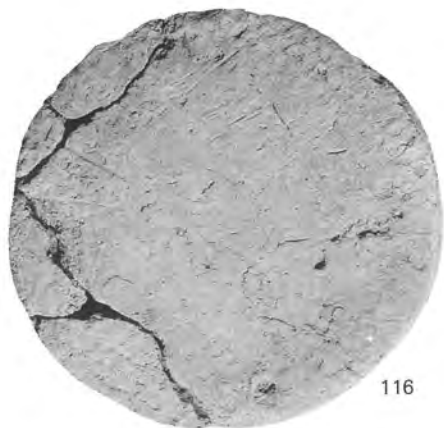
68. 出土遺物(6)

第1号竖穴住居跡

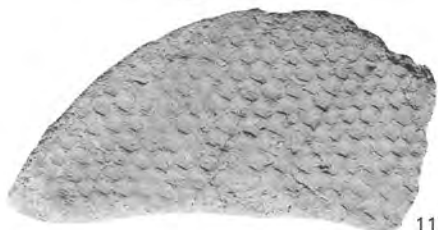


69. 出土遺物(7)

第1号竖穴住居跡

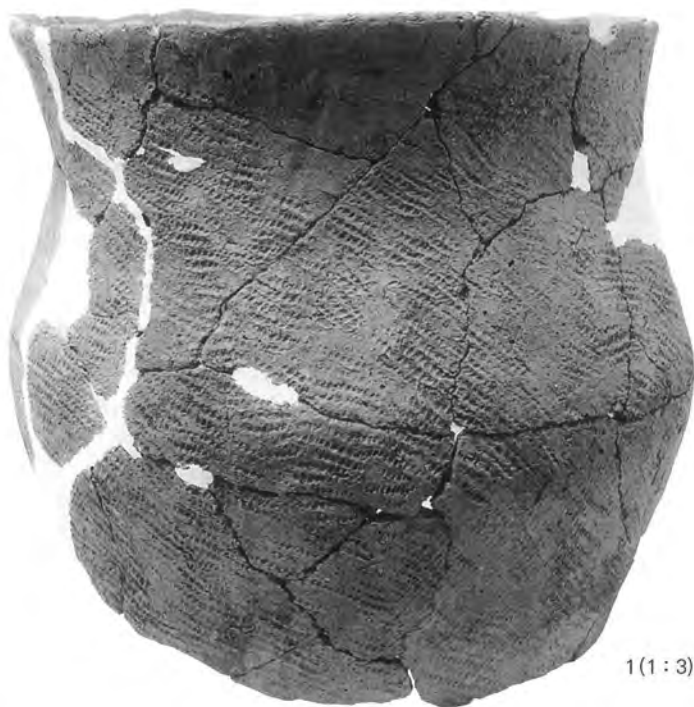


116



117

第1号竖穴住居跡



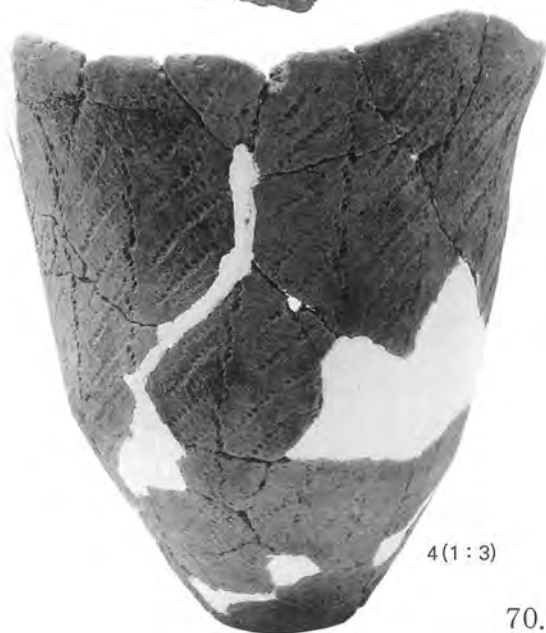
1(1:3)



2(1:3)



3(1:3)



4(1:3)



5

70. 出土遺物(8)

第2号竖穴住居跡



6



7



8



9



10



11



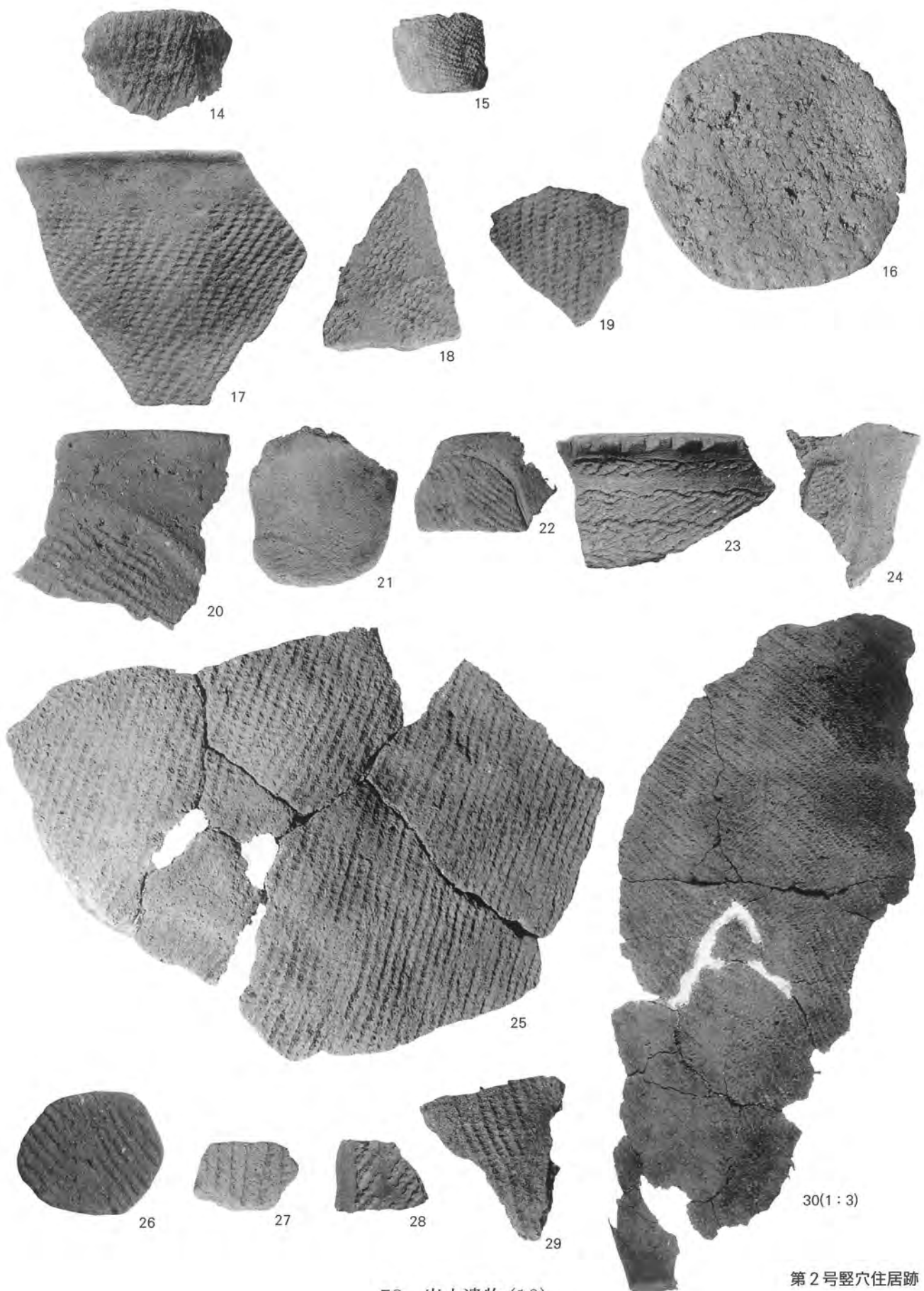
12



13

71. 出土遺物(9)

第2号竖穴住居跡



72. 出土遺物(10)

第2号竖穴住居跡



1(1:3)



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12

73. 出土遺物(11)

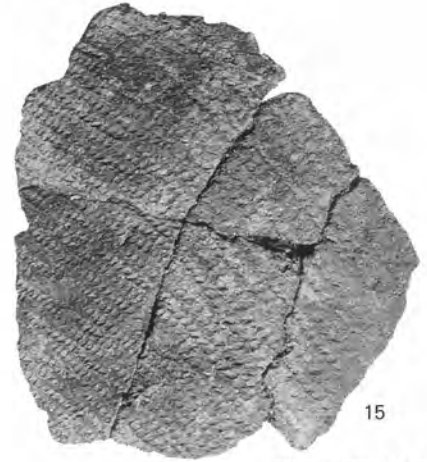
第3号竖穴住居跡



13



14



15

第3号竖穴住居跡



1



2



3



4



5



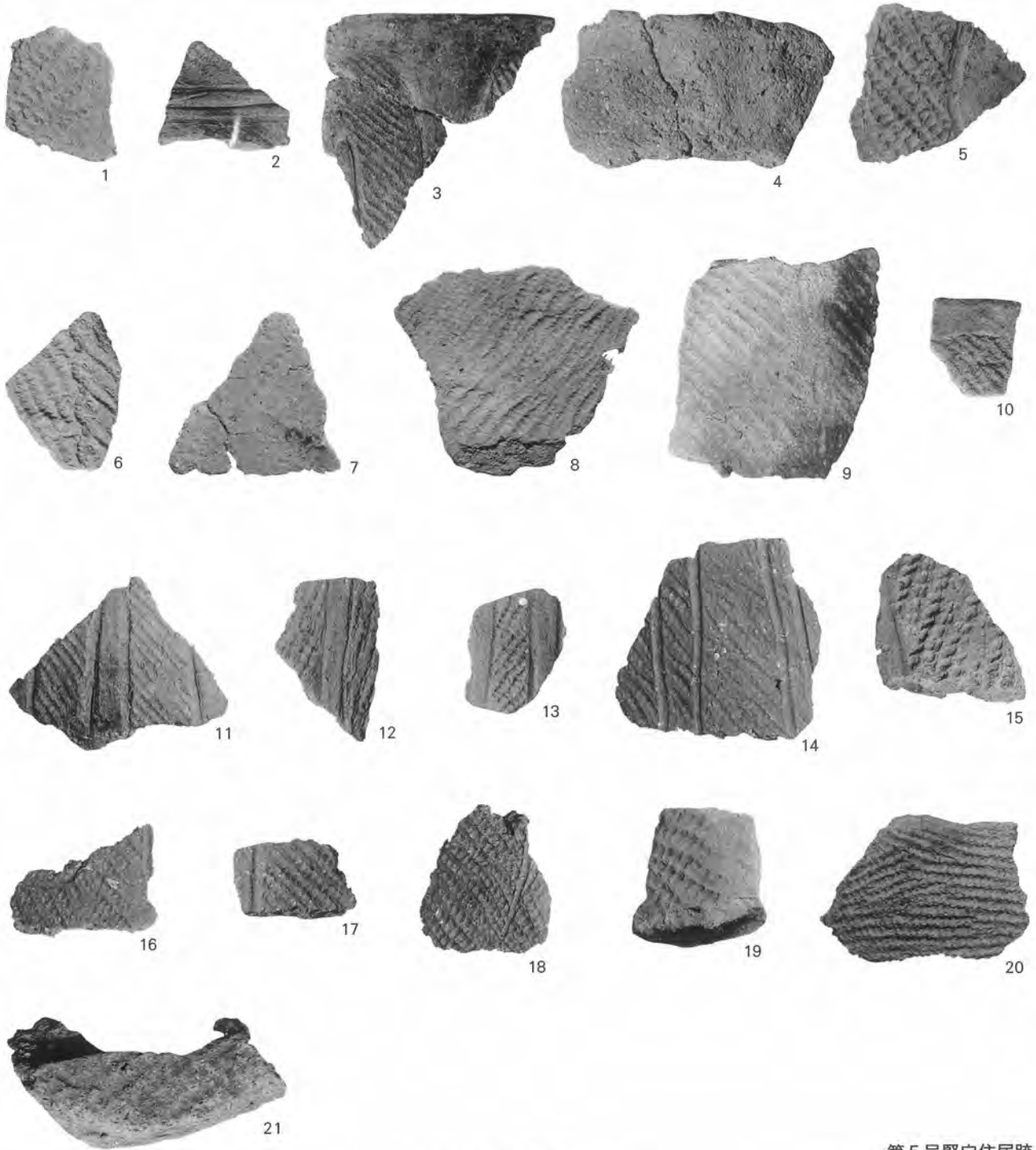
6

74. 出土遺物(12)

第4号竖穴住居跡

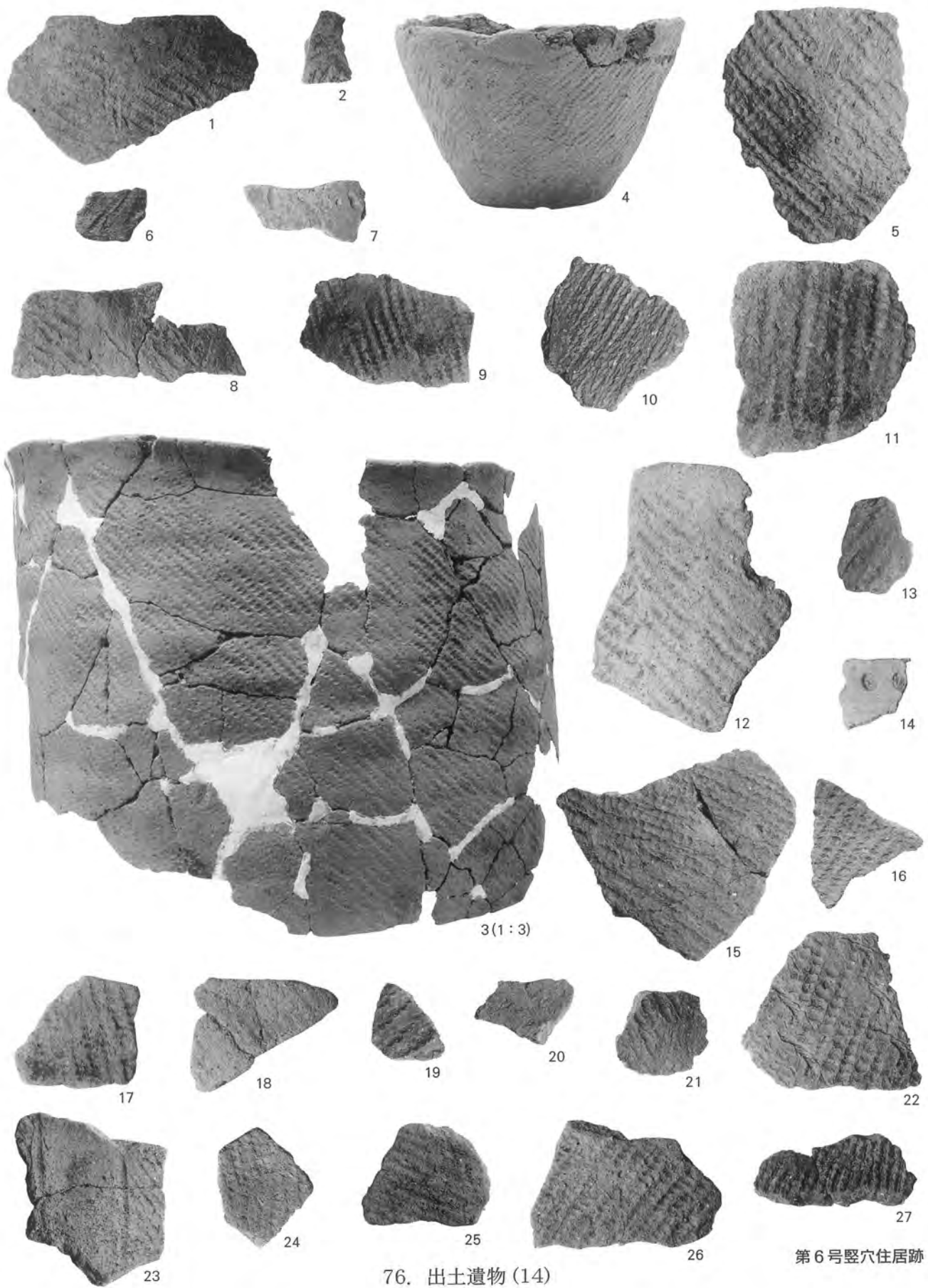


第4号竖穴住居跡



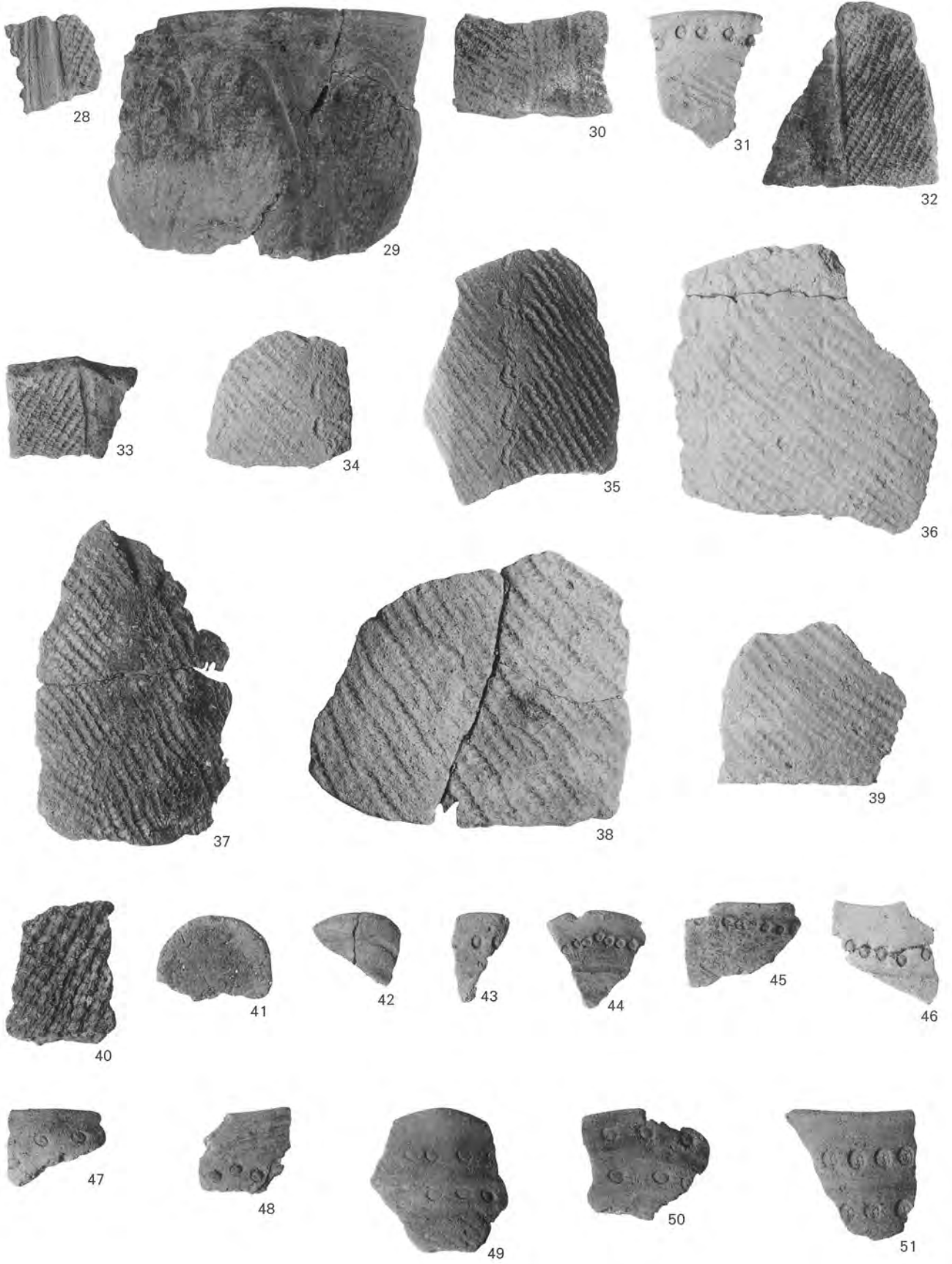
75. 出土遺物(13)

第5号竖穴住居跡



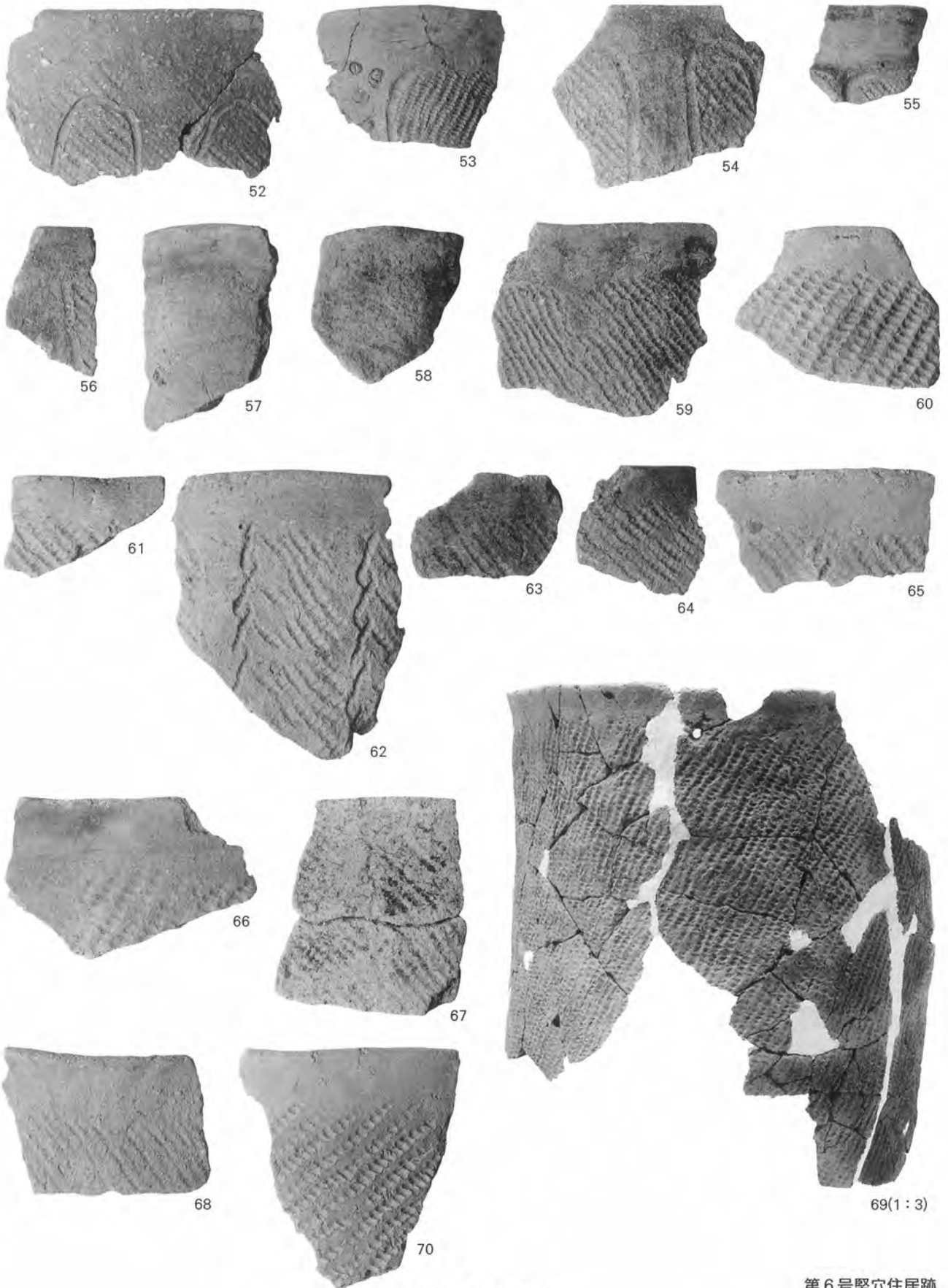
76. 出土遺物(14)

第6号竖穴住居跡



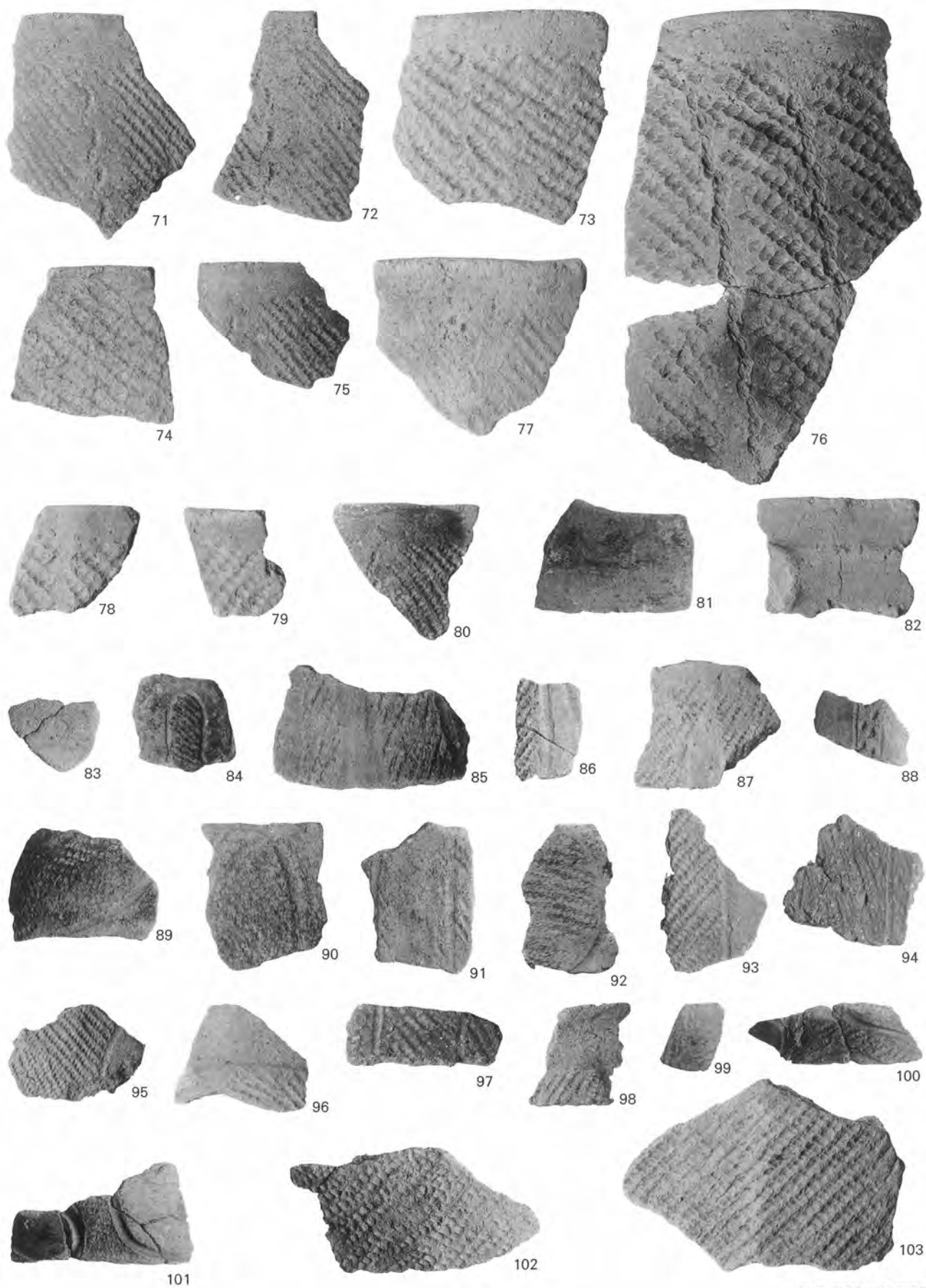
77. 出土遺物 (15)

第6号竖穴住居跡



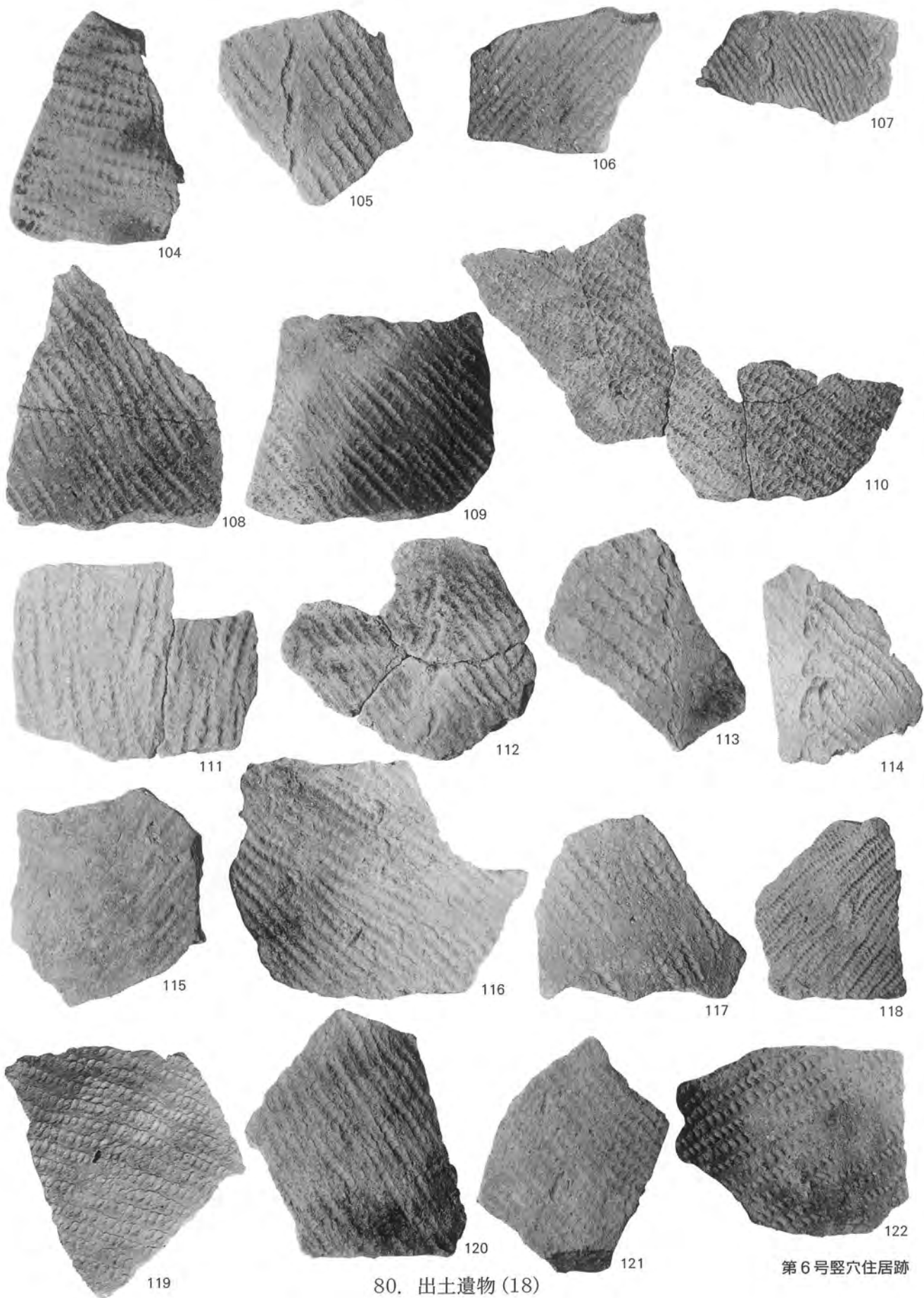
78. 出土遺物 (16)

第6号竖穴住居跡



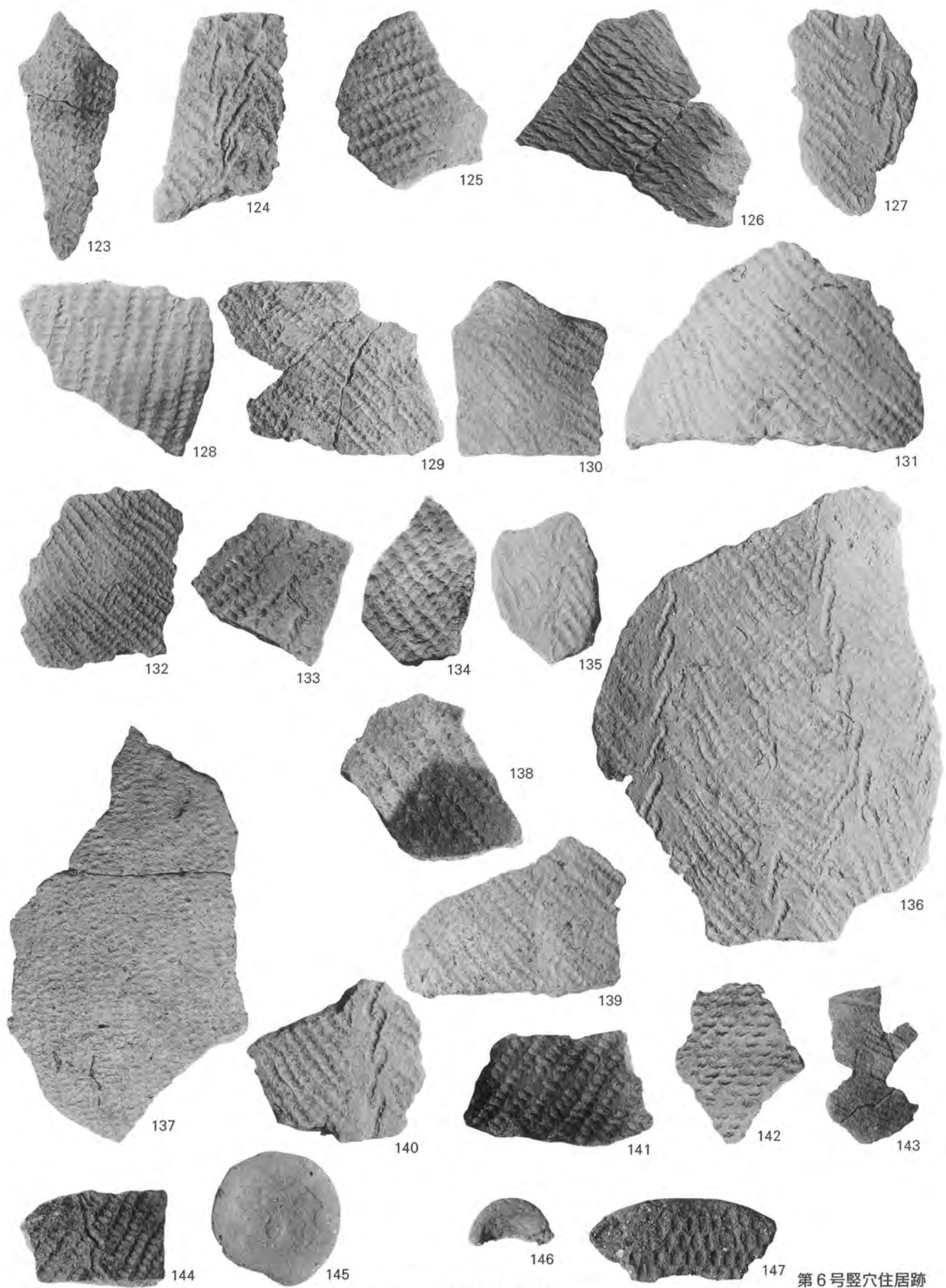
79. 出土遺物 (17)

第6号竖穴住居跡



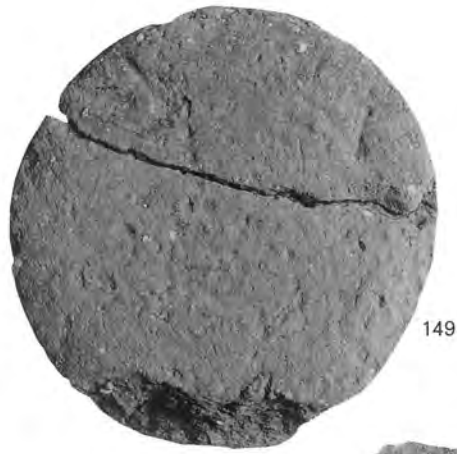
80. 出土遺物(18)

第6号竖穴住居跡

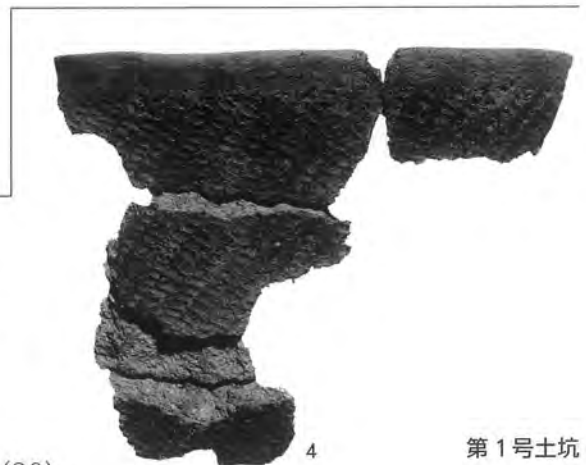


81. 出土遺物(19)

第6号竖穴住居跡



第6号竖穴住居跡

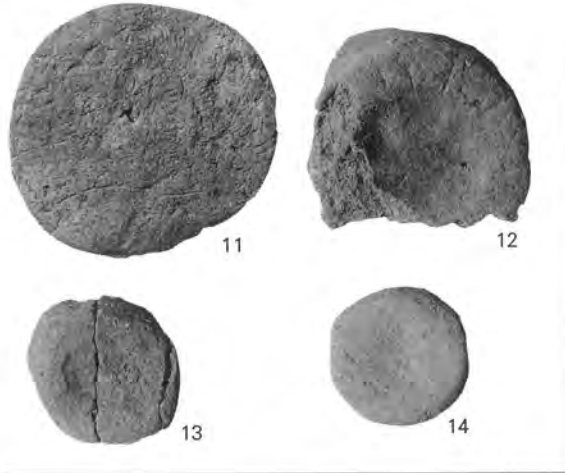


82. 出土遺物 (20)

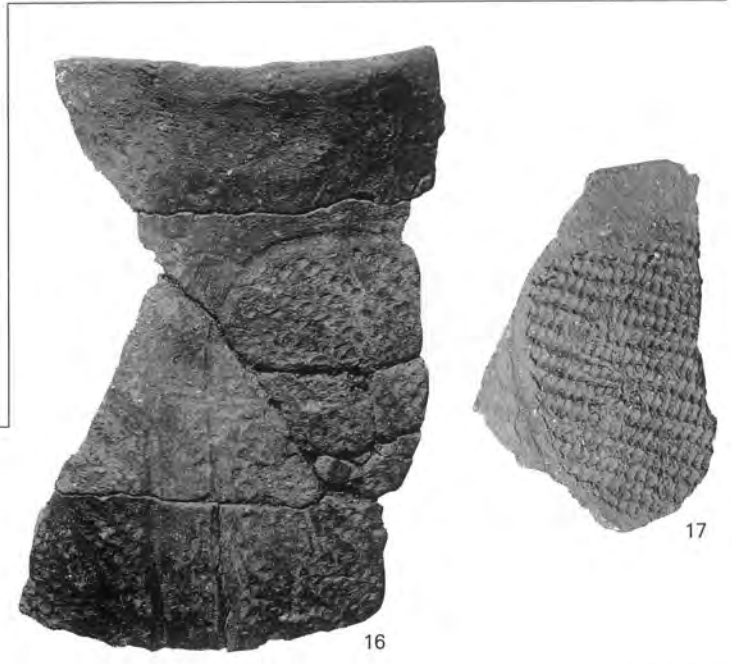
第1号土坑



第 1 号土坑



第 2 号土坑

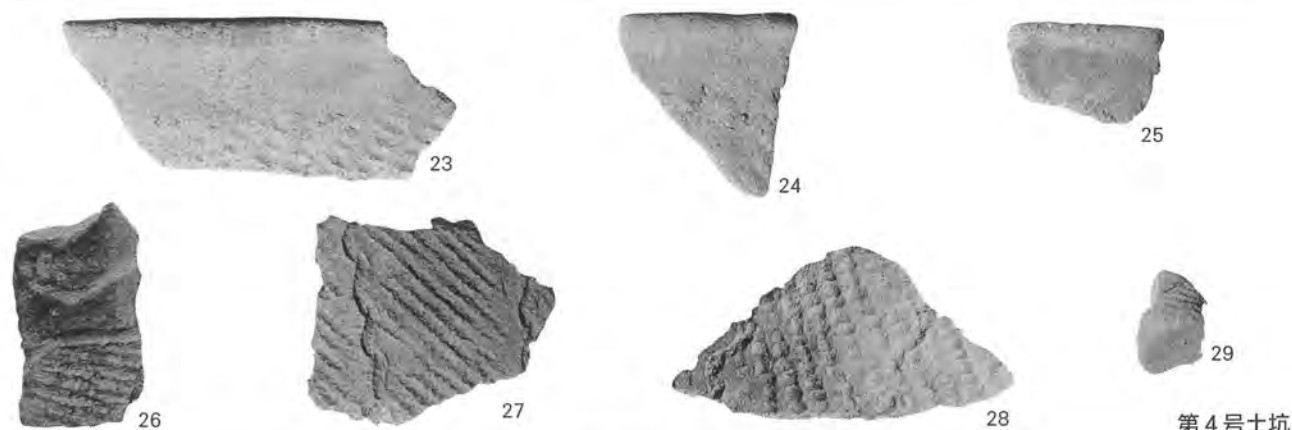


第 3 号土坑

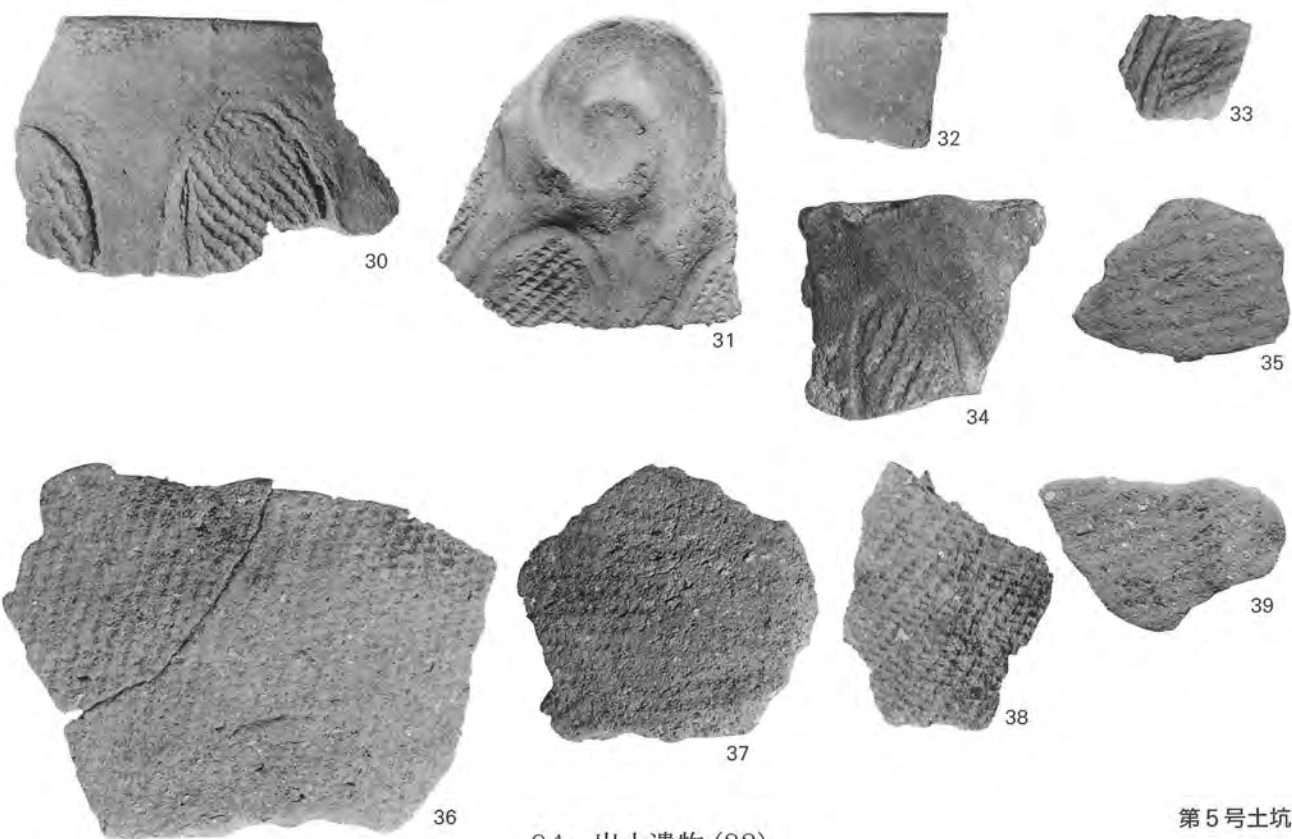
83. 出土遺物 (21)



第3号土坑



第4号土坑



84. 出土遺物 (22)

第5号土坑



40(1:3)



41(1:3)



42



43



44



45



46



47



48

第5号土坑



55



56



57



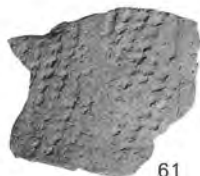
58



59



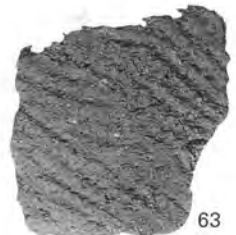
60



61



62



63

第6号土坑

85. 出土遺物 (23)



第7号土坑



86. 出土遺物 (24)

遺物包含層



6(1:5)



8(1:3)



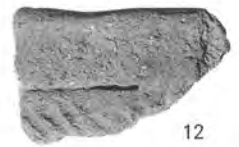
9



10



11



12



13



14



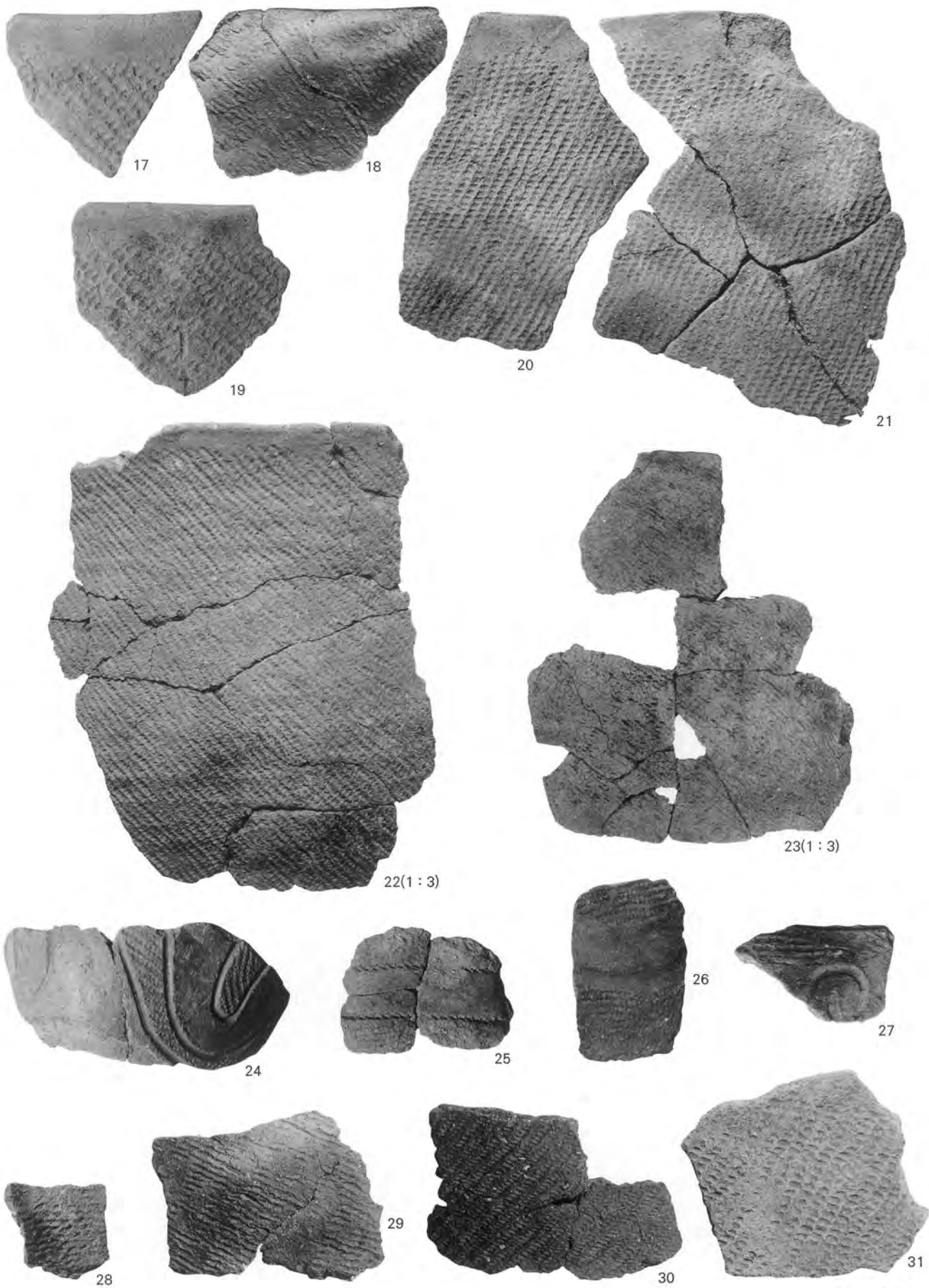
15



16

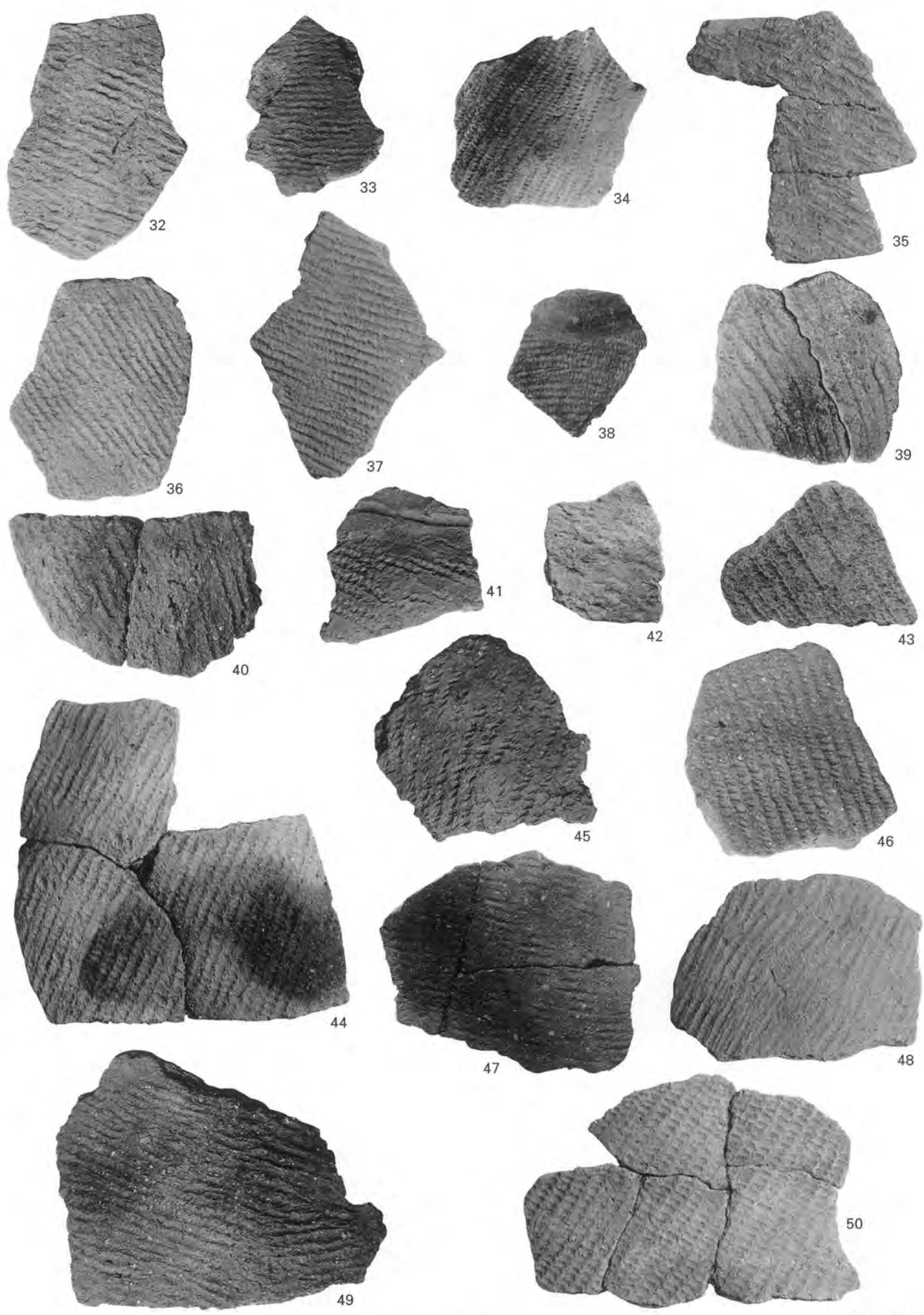
87. 出土遺物 (25)

遺物包含層



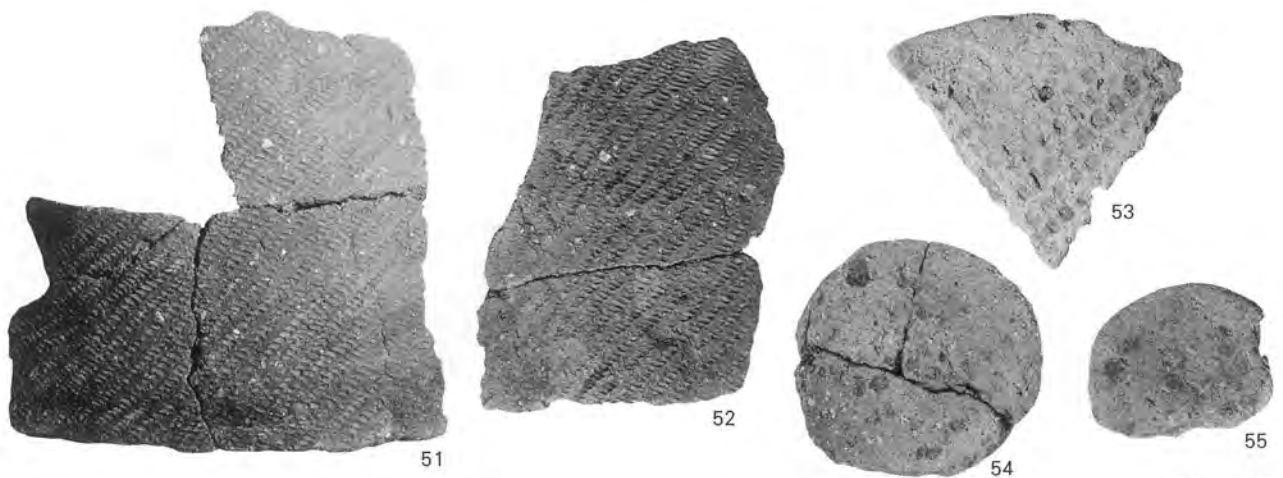
88. 出土遺物 (26)

遺物包含層

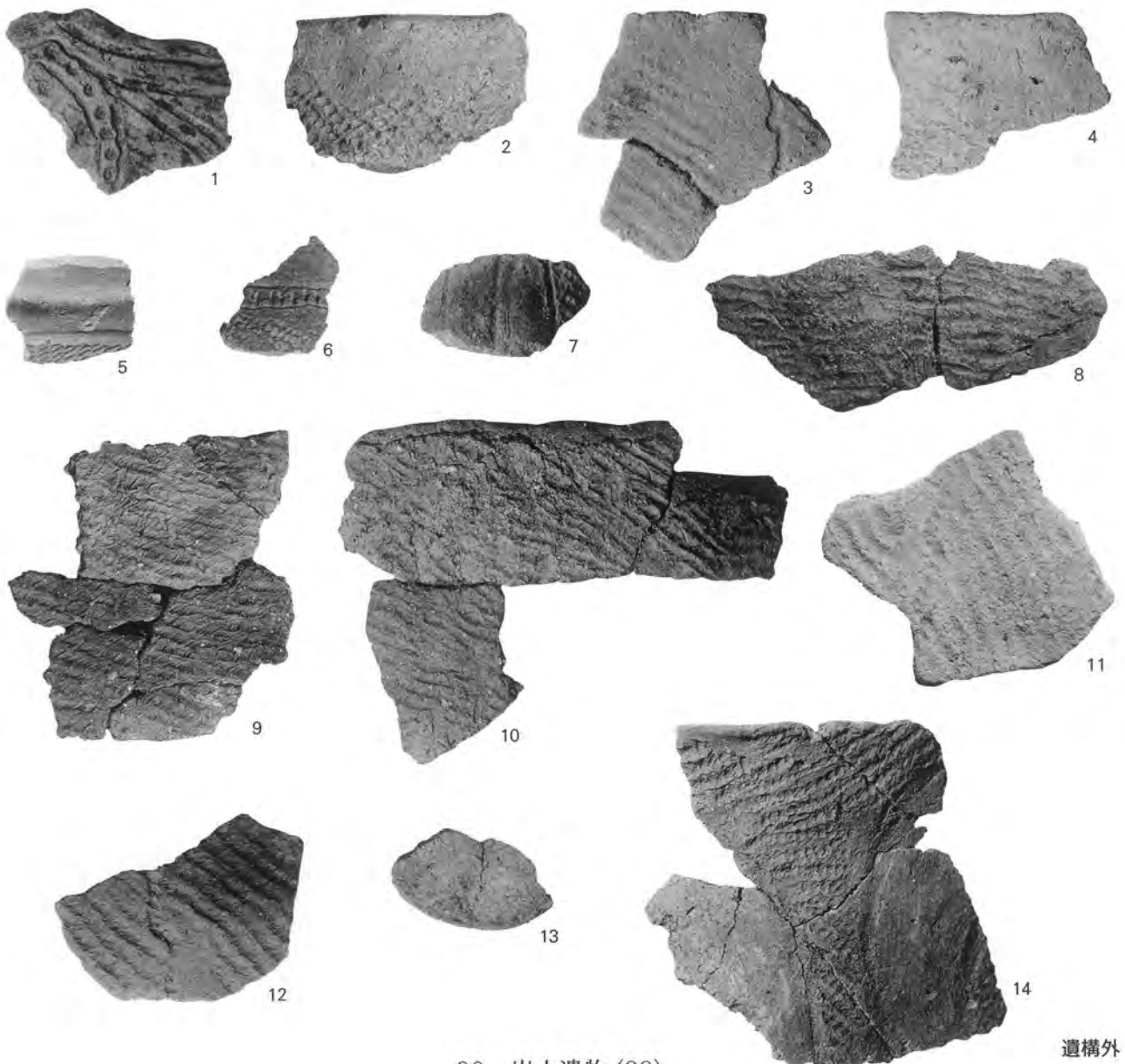


89. 出土遺物 (27)

遺物包含層

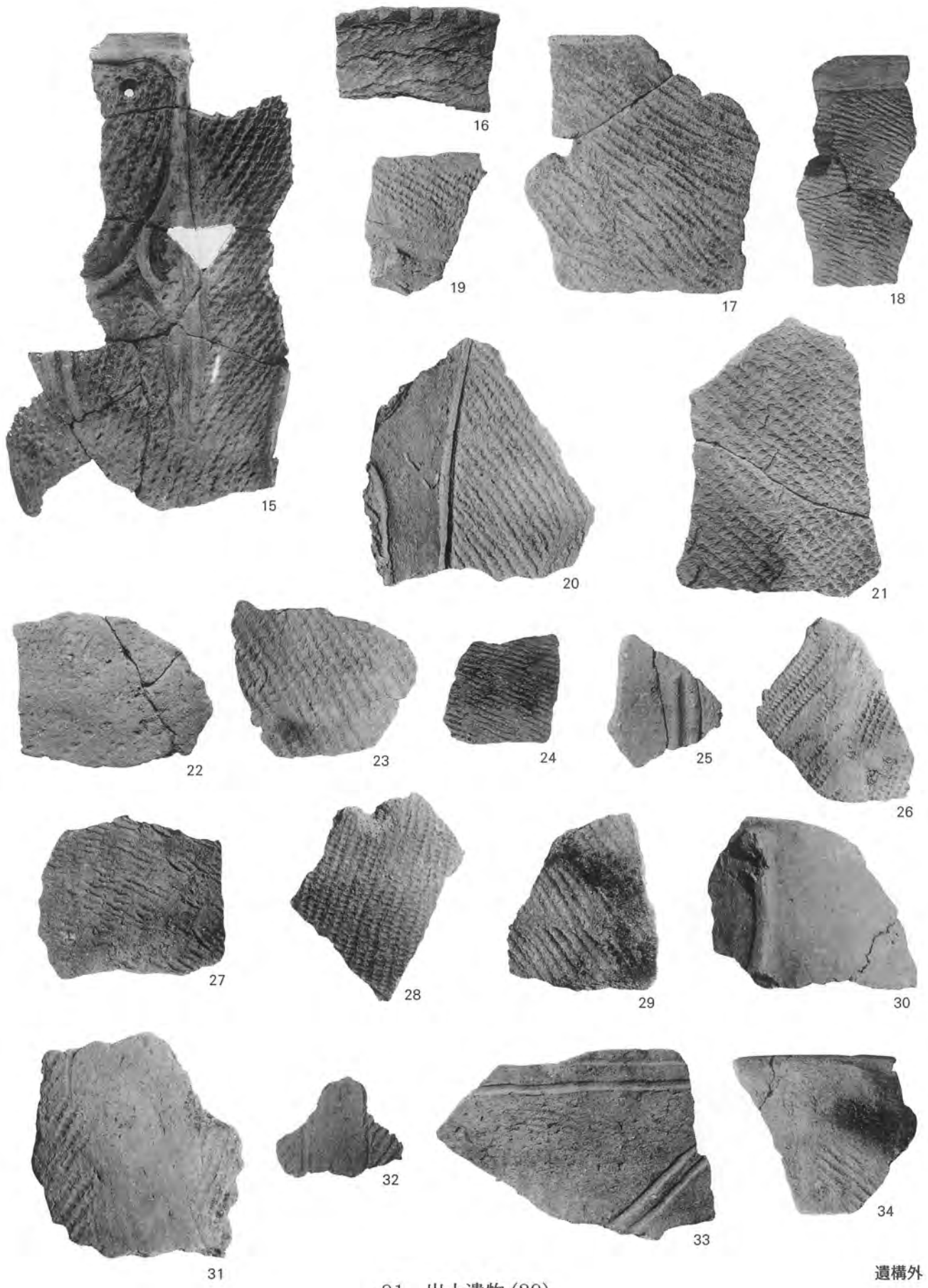


遺物包含層



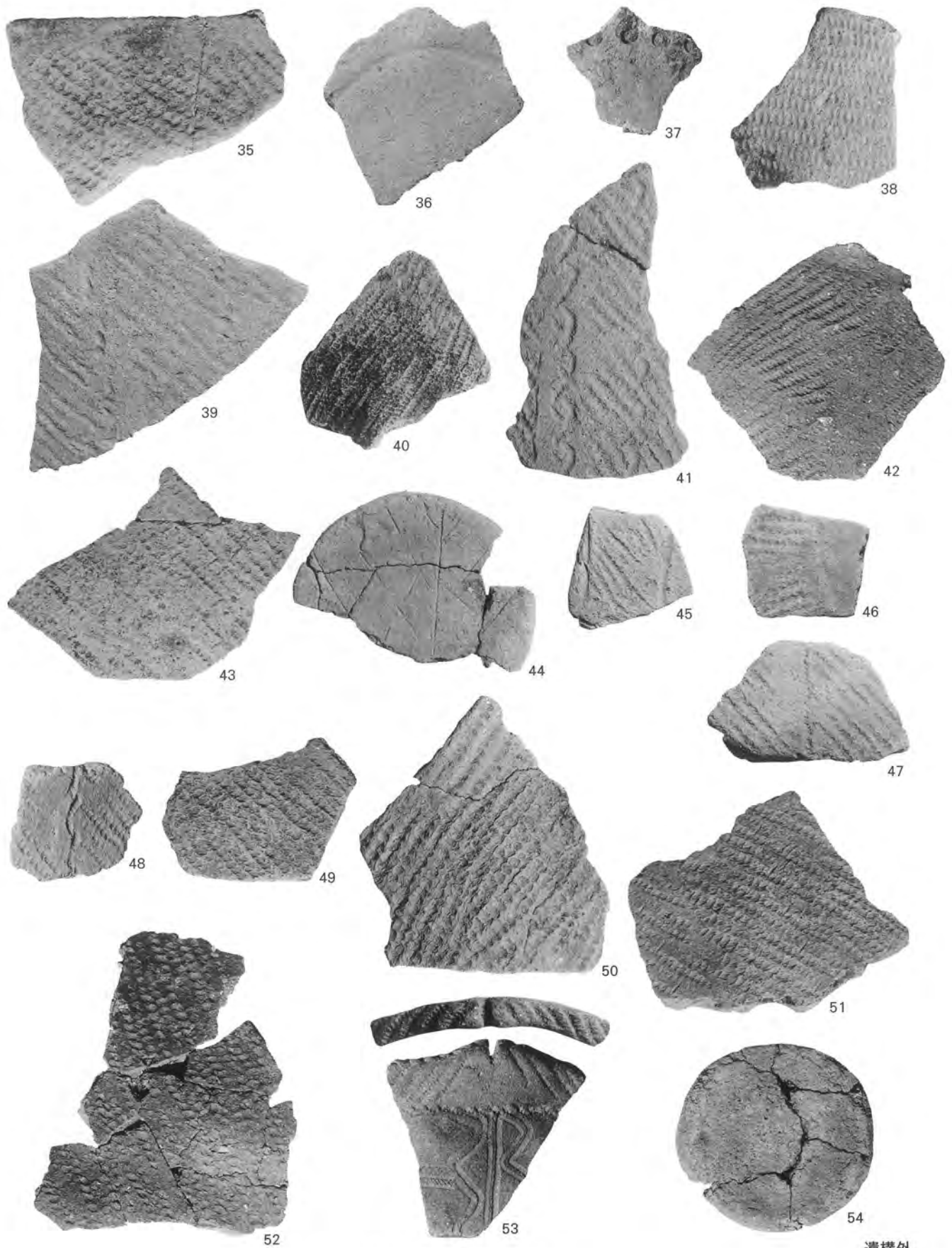
90. 出土遺物 (28)

遺構外



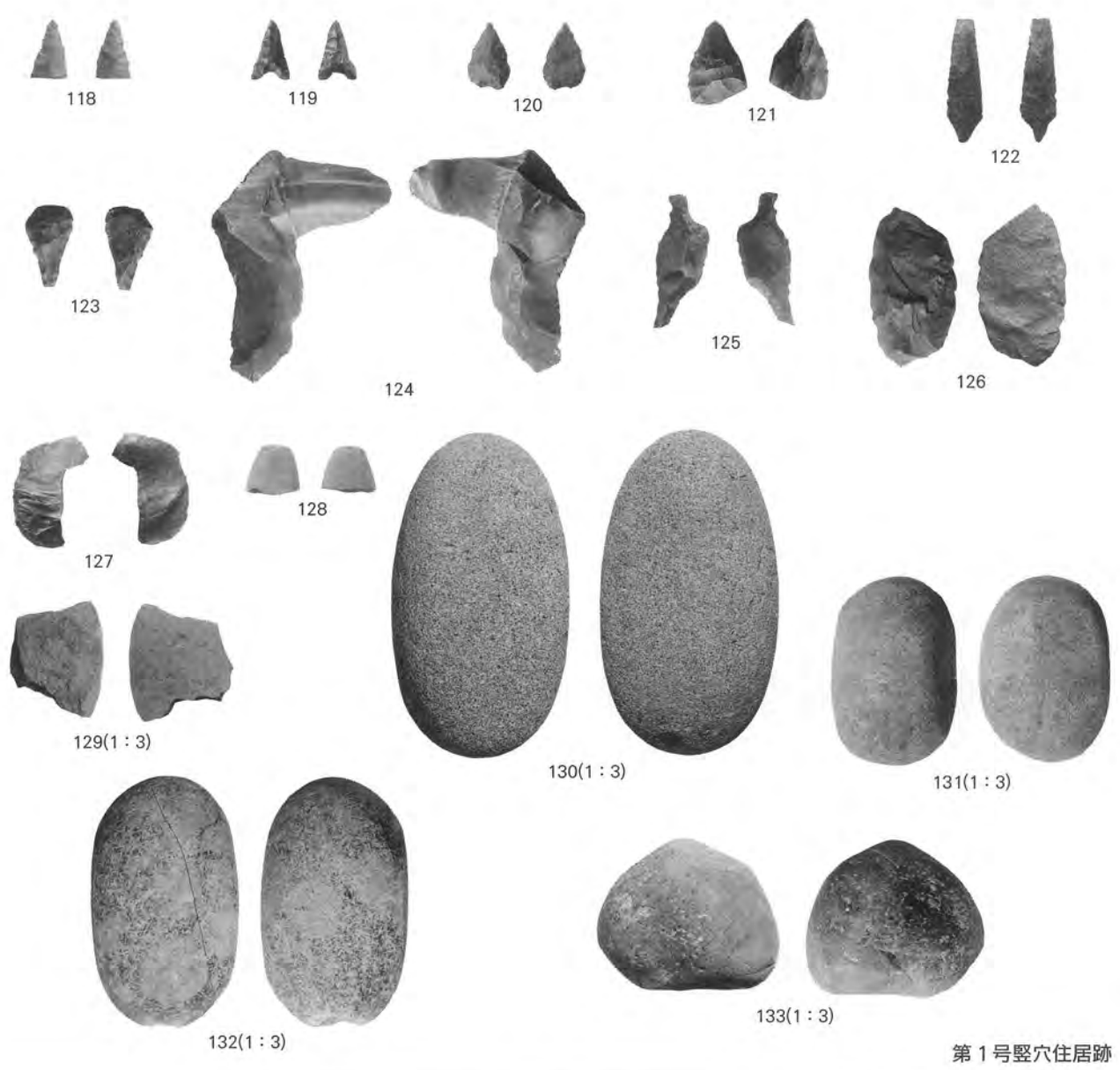
91. 出土遺物 (29)

遺構外



92. 出土遺物 (30)

遺構外



第1号竖穴住居跡



第2号竖穴住居跡

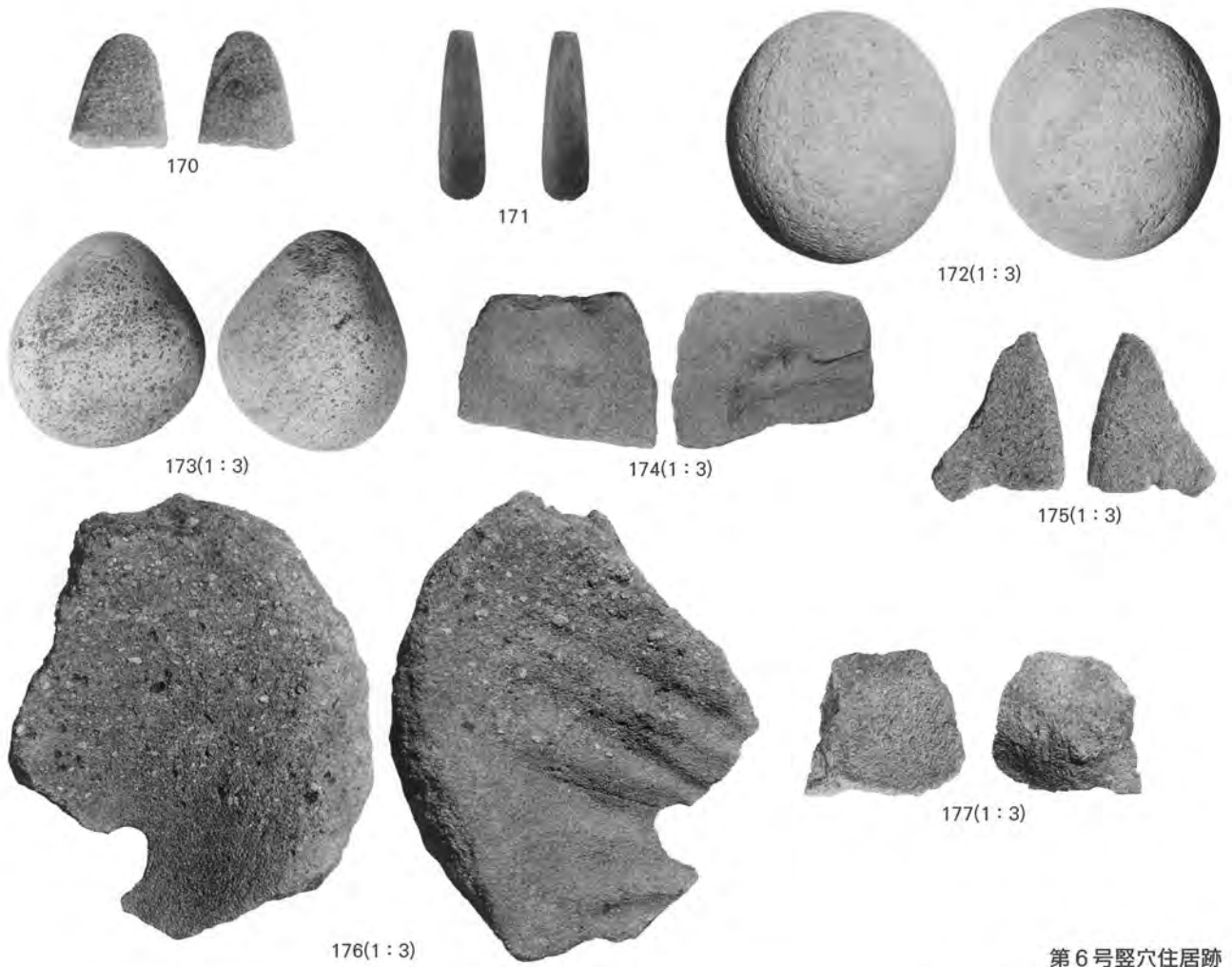


第4号竖穴住居跡

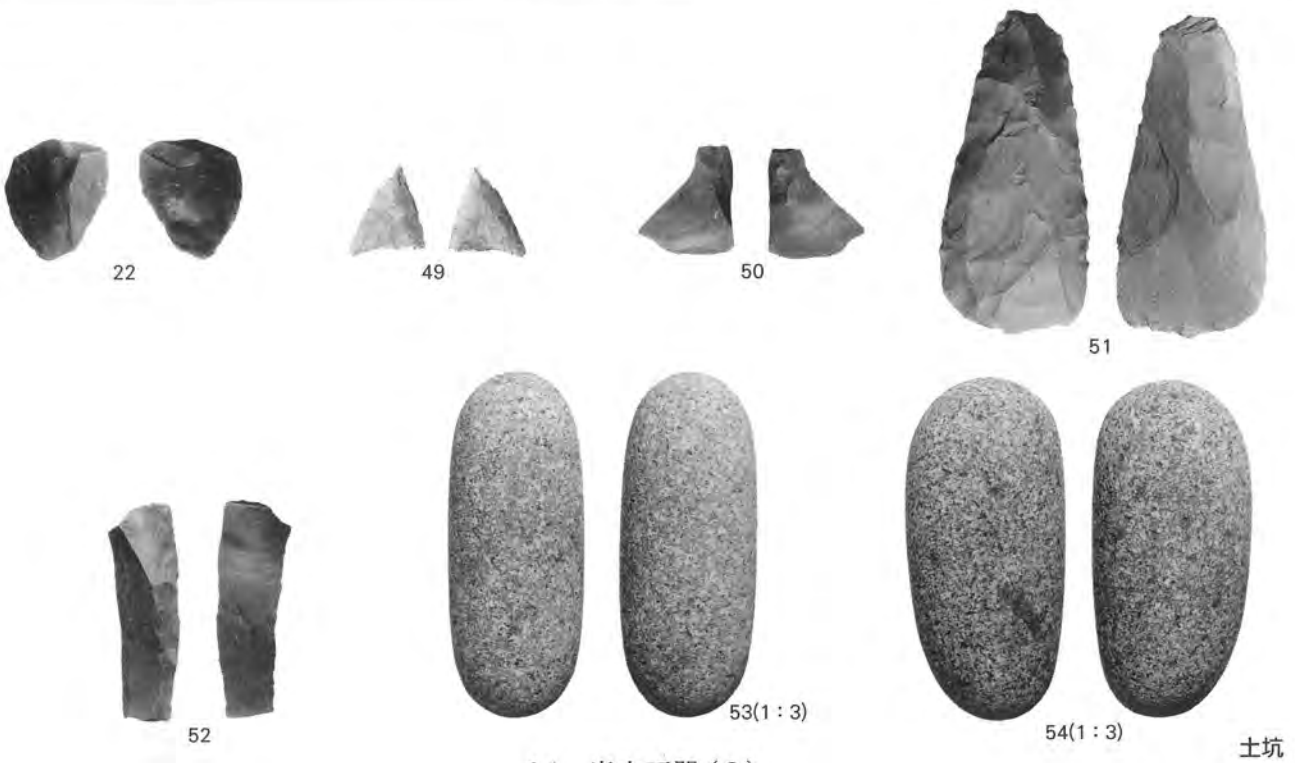


第6号竖穴住居跡

93. 出土石器(1)

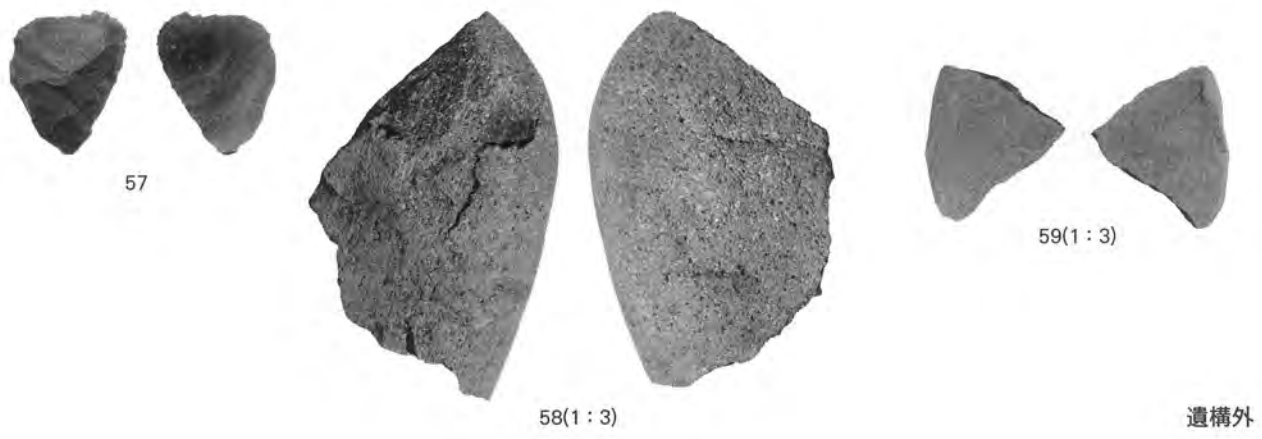
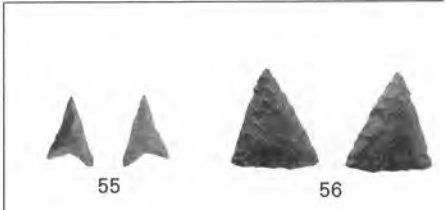
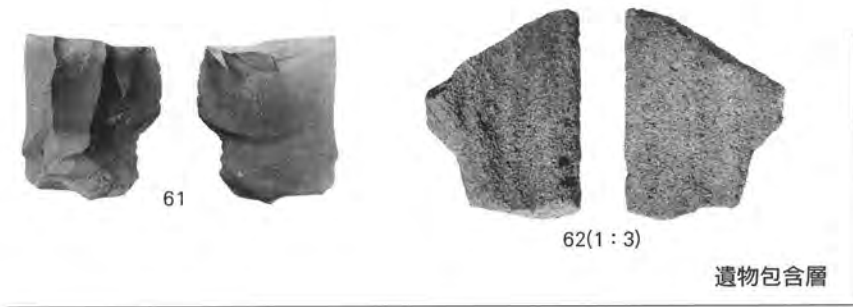
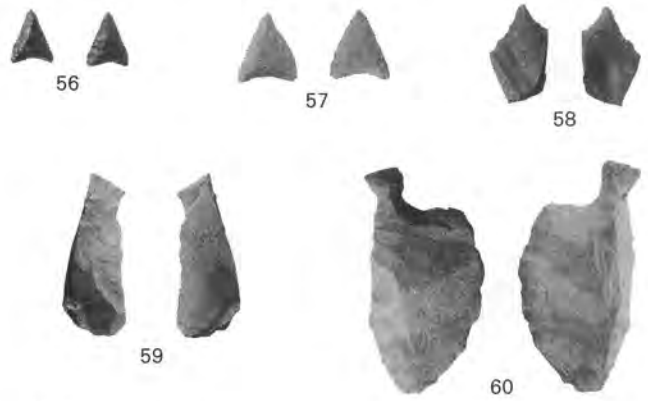
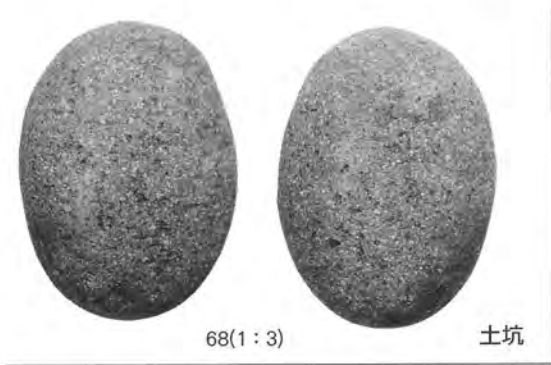


第6号竖穴住居跡



94. 出土石器(2)

土坑



95. 出土石器(3)

おおづけ
大付遺跡 第11次調査

第3章 大付遺跡第11次調査

第1節 調査に至る経過

大付遺跡第11次調査は崎山地区大付において実施された個人住宅建築関係の緊急調査である。宮古市教育委員会（以下、市教委）は平成15年4月、住宅と市道崎山大付線から宅地を結ぶ取り付け道路を工事の目的とした住宅建築の計画を地権者との協議の際に知ることとなった。同年12月、まず道路部分の場所が確定した。市教委が照会地点の現地確認を行った結果当該地は林地で、周知の遺跡内であることから事前に発掘調査が必要であると地権者に回答した。翌年の2月に再度現地の状況を確認し、調査体制が決定次第に試掘調査を実施することになり、平成16年7月、第10次調査として市費で実施することになった。

試掘調査終了後の平成16年8月、場所が確定した宅地部分の工事の概要について双方で協議を行った。道路部分は上部が削平されていたが、宅地部分は周辺で遺構・遺物が確認されていることから遺構・遺物が検出される可能性があるため、工事に着手する前には発掘調査が必要である事を地権者に伝え、加えて宅地予定範囲の縮小など埋蔵文化財の保存を配慮されたい旨も伝えた。翌平成17年5月には宅地部分の工事図面が地権者から提出されて調査範囲が決まり、市教委は大付遺跡第11次調査としての発掘（本）調査を6月から実施するに至った。

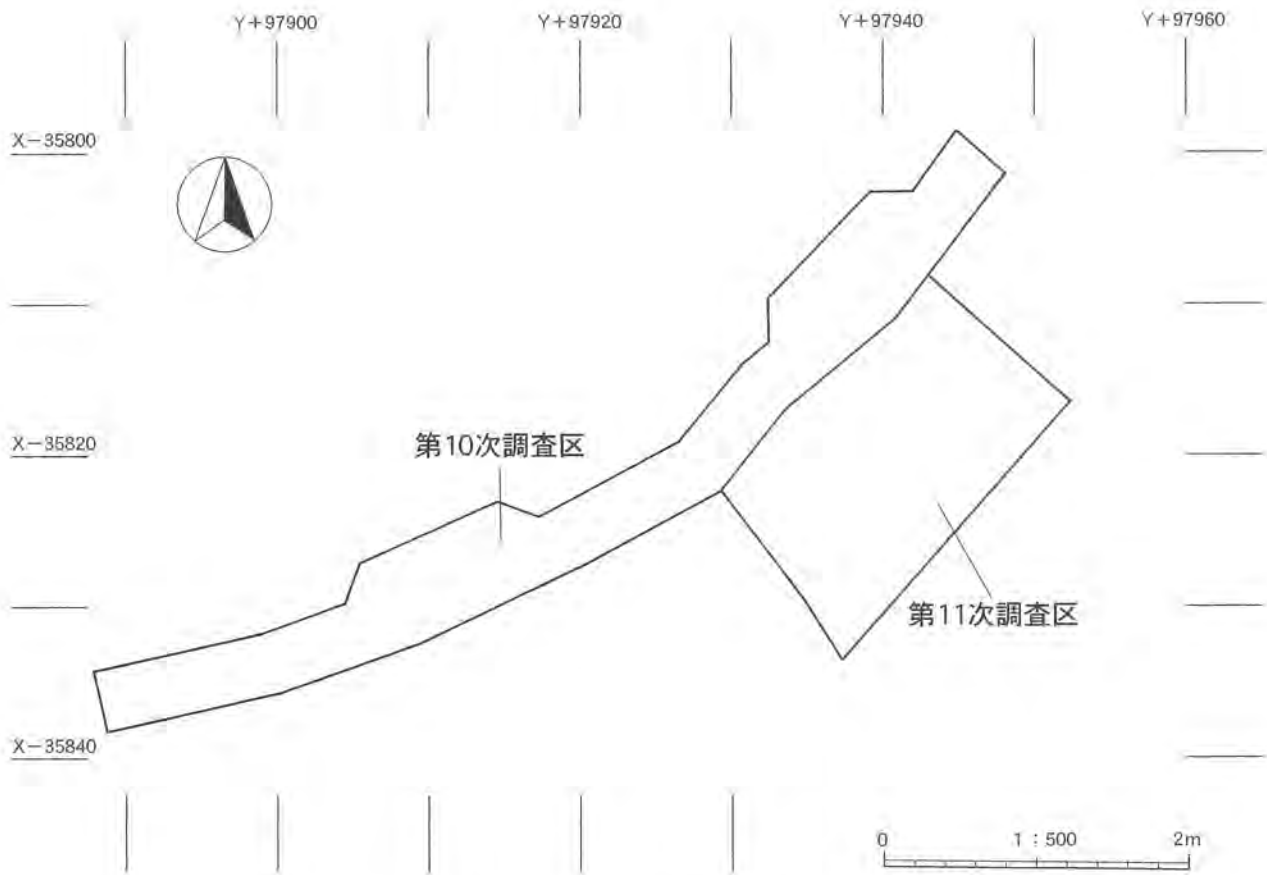
市教委には調査前に地権者から平成17年5月30日付けで文化財保護法第93条第1項の規定による埋蔵文化財発掘届出書が提出され、市教委は6月3日付けで岩手県教育委員会に進達している。これに対して、県教育委員会からは地権者に工事着手前に発掘調査する旨を通知し市教委は地権者にこれを伝達している。また調査着手後、市教委は文化財保護法第99条第1項の規定により当調査の実施を県教育委員会へ報告している。なお、調査は平成17年度の遺跡発掘調査事業の中で実施している。また、調査体制は牛沢遺跡と同様である。

第2節 調査の経過とこれまでの調査概要（第59図～第61図）

第11次調査区は大字崎ヶ崎第14地割8-3内にある。調査対象範囲の面積は275.21m²である。大付遺跡西部から続く台地上に立地し、調査前の状況はなだらかに傾斜した原野であったが、地権者によると以前は畑として利用されていたということであった。また、隣接地の第10次調査地区は旧地形が大きく改変され主にアカマツが植えられていた。

発掘調査は6月7日から着手した。調査区内に土層観察用のベルトを「キ」の字形に設定しベルトによりできた6区画を人力で掘り下げた。表土除去後、各区画内で遺構確認、座標用の杭打ちを行う。表土から遺構確認面までは30～50cm程しかなく、遺構確認は予定よりも早く行うことができた。また、旧地形は東西方向に若干傾斜しているものの、調査前と同様ほぼ平坦であった。遺構確認が終了した区画では攪乱または新しい時期に掘り込まれた落ち込みの覆土を除去する。調査区の西側では直径50～80cm程、深さ20cm前後の円形の落ち込みが集中していた。調査区北西壁付近では板材で作られた木箱が埋め込まれた第1号攪乱、楕円形の第2号攪乱を検出した。ともにビニール袋の切れ端などが見つかったが、第1号攪乱からは十銭硬貨と寛永通宝が、第2号攪乱からは土器が出土した。畑として利用されていたことから、その当時に掘り込まれたものと考えられる。

6月30日から遺構精査に入る。最初に調査区西端から検出された第22号土坑の精査に入り埋土を掘り下げた。中から縄文時代晩期の土器が集中して出土したため出土状況・出土層位に注意を払いながら埋土を除去した。埋土除去後は土器の微細図を作成した。7月に入り遺構精査と併行して調査区内の土層断面図、地山面での地形測量、調査区全域の写真撮影を行う。その後、地山面直上から石核、



第59図 大付遺跡第11次調査範囲図（1：500）

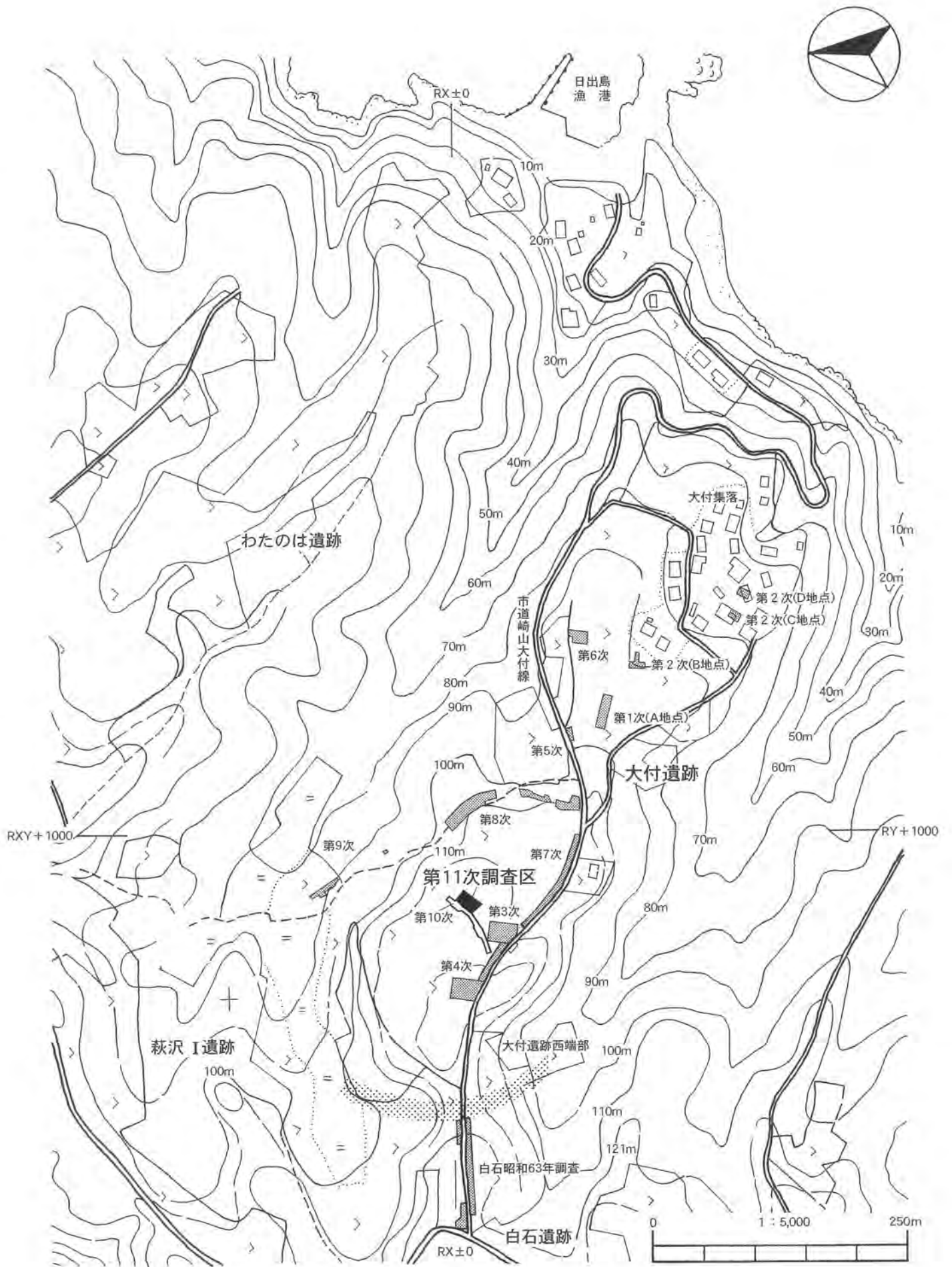
フレイクが出土していたことから地山を掘り下げ遺物の有無を確認した。7月下旬、フラスコ形土坑の第23号土坑を精査する。第22号土坑同様調査区外へ続き、土坑の間口が小さく埋土を掘り進めることが困難となった。このため上部の平面図を記録した後に土坑周辺も掘り下げることになった。

8月に入り、初旬には第22号、23号土坑の精査は図面を作成し終了した。土坑精査以外では5ヶ所に深掘りを入れ、土層堆積状況を記録した。第22号土坑に関しては、調査部分の掘削工事を控えることになり、地権者の同意の得、保存する形をとった。8月11日、第10次調査区の工事中に焼土と土器片が確認された。土地の地境にのみ旧地形が残されていたため、緊急にこの部分を調査した。第1号炉跡と第19号土坑を検出し早急に精査した。そして第1号炉跡の精査が終了した8月18日、野外調査が終了した。

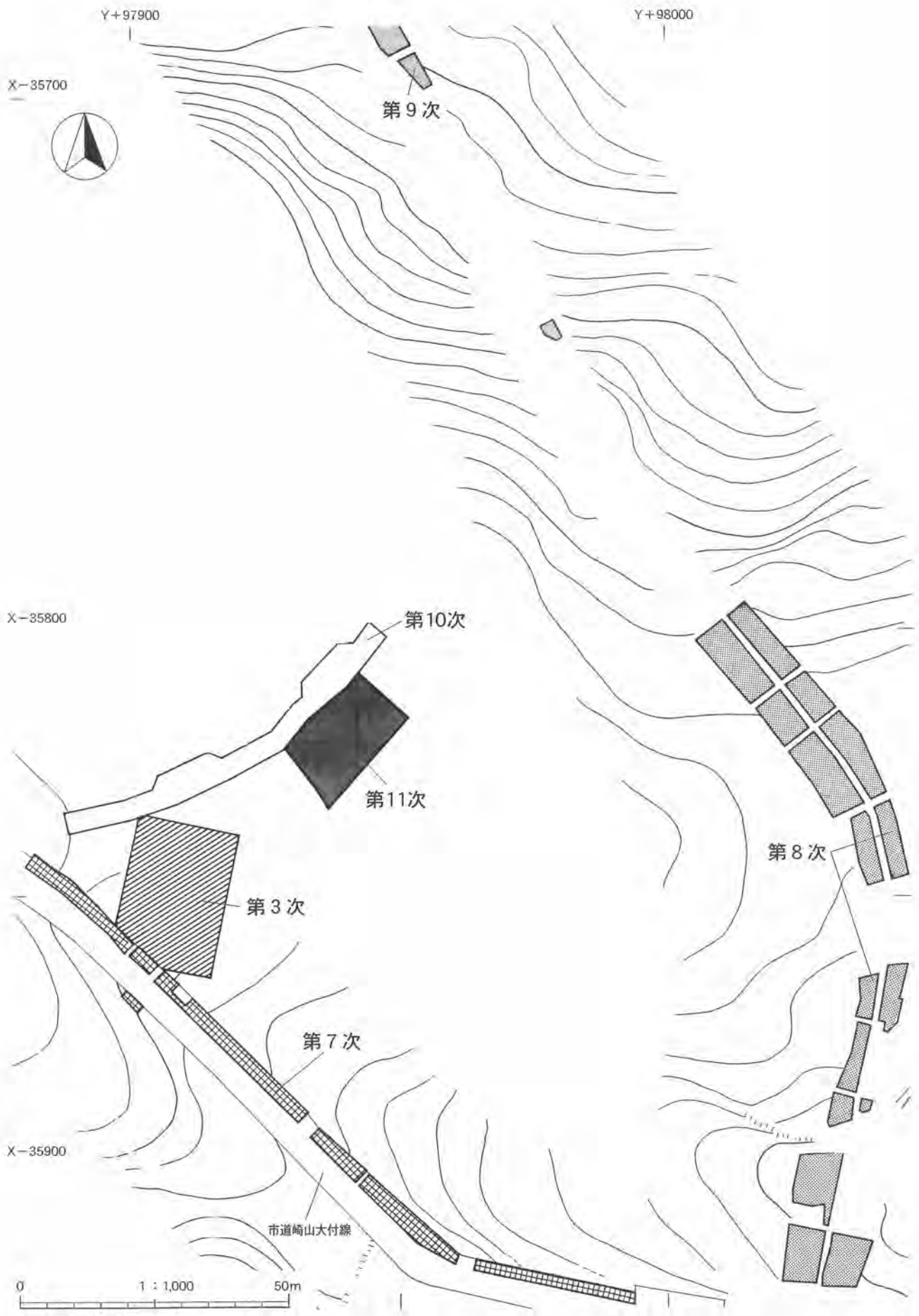
資料整理作業は10月から始まり、17年度は断続的に行った。17年度中は遺物の洗浄、注記、接合、土器の断面実測、土器の拓本作成、記録した遺構図面の2次原図作成、写真整理を行う。18年度は石器の実測、図面修正、図面のトレースを行い、報告書作成にあたった。

大付遺跡は明治末期に発見された市内でも古くから周知されている遺跡の1つである。近年は住宅建築、道路改良工事に伴う発掘調査が9次にわたり行われ、縄文時代、弥生時代を中心とした集落遺跡として市の内外に広く知られている。

明治末期には貝塚の存在が知られていた大付遺跡では当時から骨角器や動物遺存体が出土することがあり、東京帝国大学農科大学教授であった岸上鎌吉は著書『Prehisitoric Fishing in Japan』の中で大付遺跡出土の動物遺存体について記述している。なお、当遺跡内の貝塚は現在の大付集落に広がっていたとされるが、宅地化が進んだため現在は貝塚の範囲を把握できていない。大正13年には



第60図 大付遺跡周辺地形図 (1 : 5,000)



第61図 大付遺跡第3次・第7～11次調査位置図 (1 : 1,000)

当時内務省の考査員であった柴田常恵らによる貝塚の発掘調査が行われているが、出土遺物や発掘地点については不明である。

昭和53年から平成6年の間、9回の発掘調査が行われている。大付遺跡第1次調査は個人住宅建築に伴い調査され、遺跡の中央やや東寄り、第11次調査区から南東約150m先のところで行われている。第1次調査は晩期前葉の屈葬人骨が出土したことで知られ、人骨の傍らからは鹿角と大洞B式の鉢形土器が出土している。この他、時期は不明であるが、縄文時代の竪穴住居跡が屈葬人骨の近くで検出されている。続く第2次調査は第1次調査終了後間もなく行われ、第1次調査区から南東に移動し3地点で調査が行われた。遺構は検出されなかったが、後期中葉から晩期中葉の土器が出土している。

第3次調査、第4次調査は遺跡の西部で個人住宅建築に伴い調査された。第3次調査は第11次調査区に隣接し、未報告であるが、縄文時代中期のフラスコ形土坑が検出されている。第4次調査は第3次調査から西約50m先で行われ、14基のピット群が検出されたが、縄文時代前期前葉の繊維土器が出土している。

第5次調査は第1次調査の近くで個人用倉庫の建築に伴い調査された。複雑に重複した土坑の他、ピットが8基検出された。遺物は縄文時代晩期前葉から中葉の土器が出土している。

第6次調査も第1次調査の近くで個人住宅建築に伴い調査され、縄文時代後期後葉の土器や礫を伴う長軸1m弱の土坑が検出されている。

第7次調査は遺跡の中央やや東寄り、第11次調査区の近くで市道の拡幅工事に伴い調査された。竪穴住居跡1棟、竪穴跡2棟、土坑、ピットが検出され、縄文時代後期前葉の土器が出土している。

第8次調査、第9次調査は遺跡の中央を通る市道建設に伴う調査で、第8次調査は第11次調査区から東約100m先にあり、一部は同じ台地上で調査されている。台地と谷で調査され、台地縁辺部で縄文時代中期の竪穴住居跡が1棟検出された他、遺跡内で初めて弥生時代前期砂沢式期の竪穴住居跡1棟と後期の土坑が検出されている。第9次調査は第8次調査から150m程北のところにあり、縄文時代前期初頭、大木1式期の竪穴住居跡が1棟、中期後半の竪穴住居跡が1棟検出されている。

以上、第1次から第9次までの調査では遺跡東部で縄文時代後晩期の遺構・遺物が主に検出され、西部で縄文時代前期・中期・後期、弥生時代前期・後期の遺構・遺物が検出されていることが報告されている。

第3節 調査内容 (第62図、第63図、写真図版13～24)

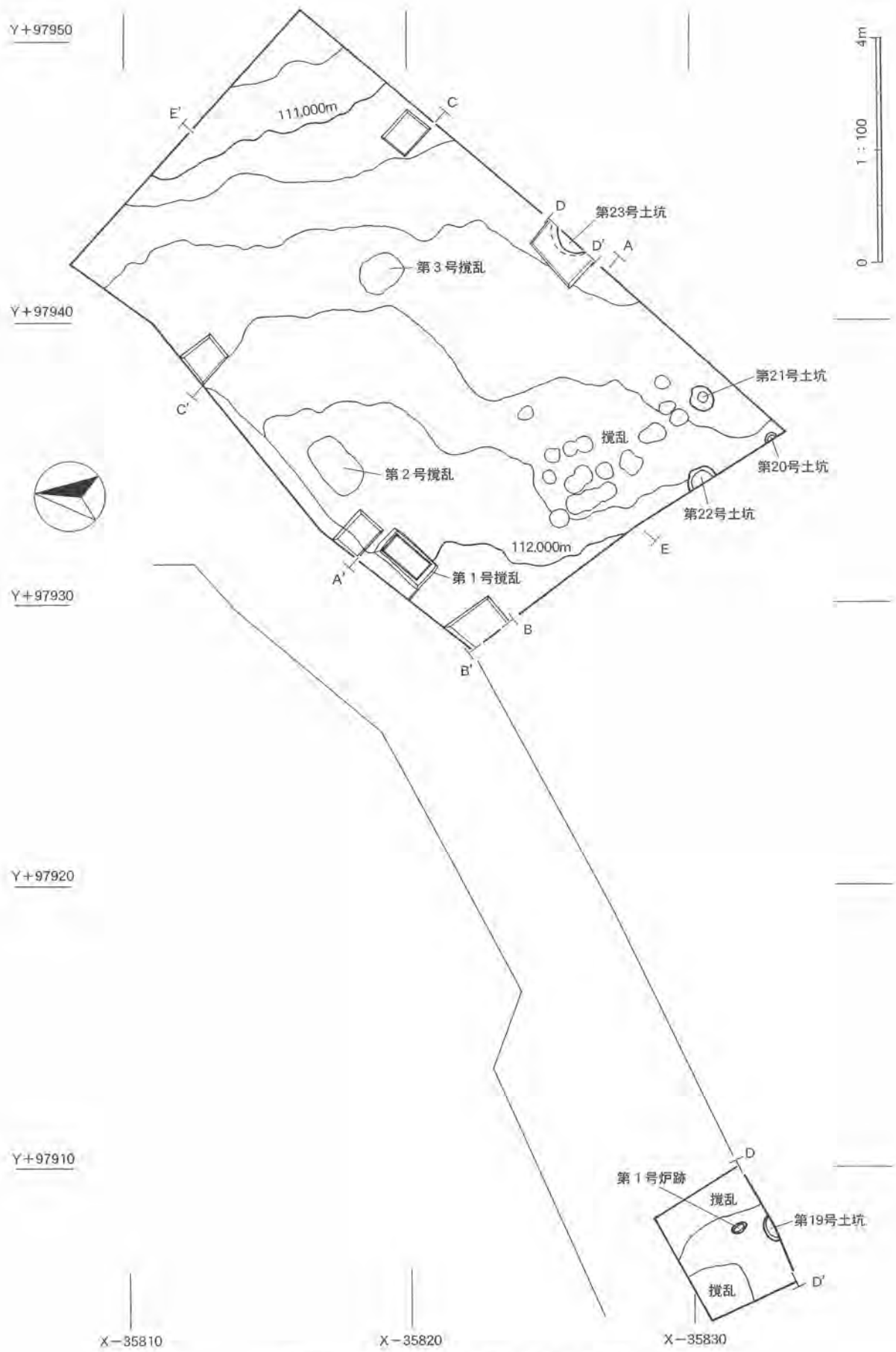
・基本土層

調査区内の堆積土の層序・土層観察は平行した南北のベルトとこれに直交した東西のベルトで行っている。また、地山以下の土層を観察するため、5ヶ所に深掘り地点を設けた。以下、基本土層について記述する。

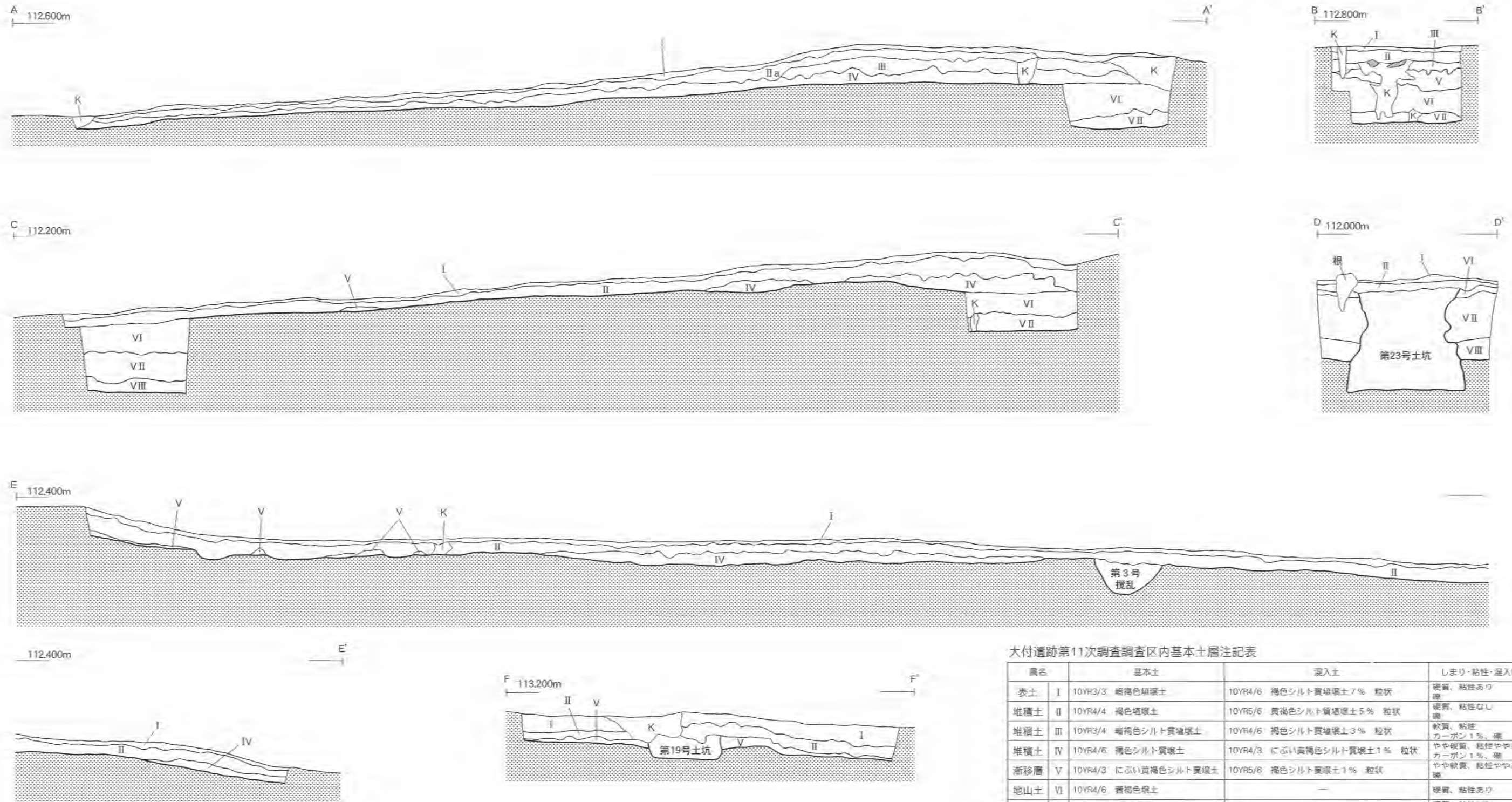
I層 表土層である。暗褐色埴壤土(10YR 3/5)を基本土とし、褐色シルト質埴壤土を混入している。層厚は10cm程で遺物は出土しなかった。

II層 褐色埴壤土(10YR 4/4)を基本土とし、黄褐色シルト質埴壤土(ローム)を混入している。耕作利用後に堆積した土層と考えられ調査区全域に堆積している。調査区西部に集中する掘り込みの浅い落ち込みはII層の土に覆われていた。調査区東部ではII層を除去すると地山となる。縄文土器、石器が出土するものの数は少ない。層厚は20～30cm程である。

III層 暗褐色シルト質埴壤土(10YR 3/4)を基本土とし、褐色シルト質埴壤土を混入している。調査区西部端と北西部の一部にしか堆積しておらず、恐らくは耕作により削り取られたものと考えられる。調査区西部端では縄文土器片が出土した。層厚は10～20cm程である。



第62図 大付遺跡第11次調査全体図



大付遺跡第11次調査調査区内基本土層注記表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
表土 I	10YR3/3 暗褐色壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土7% 粒状	硬質、粘性あり
堆積土 II	10YR4/4 褐色壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土5% 粒状	硬質、粘性なし
堆積土 III	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土3% 粒状	軟質、粘性 カーボン1%、礫
堆積土 IV	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR4/3 に近い黄褐色シルト質壤土1% 粒状	やや硬質、粘性ややあり カーボン1%、礫
漸移層 V	10YR4/3 に近い黄褐色シルト質壤土	10YR5/6 褐色シルト質壤土1% 粒状	やや軟質、粘性ややあり
地山土 VI	10YR4/6 黄褐色壤土	—	硬質、粘性あり
VII	10YR4/6 黄褐色壤土	—	硬質、粘性なし 赤色・黒色粒子1%
VIII	10YR5/8 明褐色壤土	—	硬質、粘性なし 赤色・黒色粒5%

第63図 大付遺跡第11次調査土層断面図

IV層 褐色シルト質壤土(10YR 4/6)を基本土とし、にぶい黄褐色シルト質壤土を混入している。IV層上面は遺構検出面で、第20～22号土坑はこの層を掘り込んでいる。III層よりも残りは良く、調査区西部から中央部にかけて堆積している。縄文土器の他、石器、石核、フレイクが出土した。層厚は10～20cm程である。

V層 にぶい黄褐色シルト質壤土(10YR 4/3)を基本土とし、褐色シルト質壤土を混入している。次のVI層に漸移する層で、南西部の一部でしか確認されていない。層厚は10cm未満である。

VI層 地山層である。黄褐色土で粘り気が強いのが特徴的である。第23号土坑は地山から掘り込まれている。なお、第10次調査区ではこの層のほとんどが削平され、残っているところから炉跡と第19号土坑が検出された。VI層中からは遺物は出土していない。

VII層 色調はVI層に近似するが径1mm以下の赤色・黒色粒子を含んでいる。

VIII層 VI・VII層よりも赤みがある層(明褐色土)である。ひじょうに硬く締まりがある。

第4節 遺構と遺物

第11次調査で検出した遺構は炉跡1基、土坑5基である。遺構番号は第9次調査から通した番号である。ただし、単独の炉跡は遺跡内では検出されていないため、新たに番号を付し第1号炉跡とした。

・炉跡

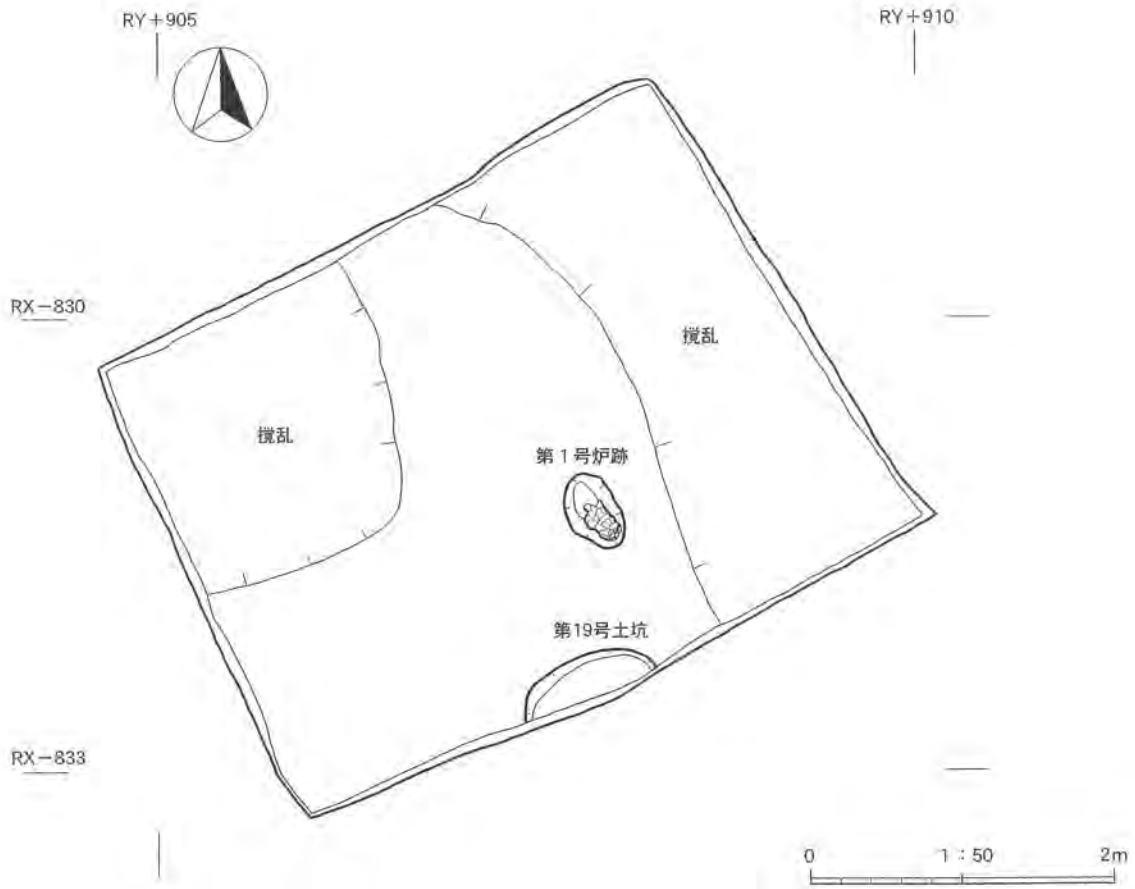
第1号炉跡(第64図～第66図、写真図版3～6、29～35、52)

第10次調査区内にて検出された。遺構確認面はVI層である。I層及びII層掘削後焼土塊が確認され、精査した結果炉跡であることが分かった。周辺においてピットや竪穴住居跡の貼床、壁または立ち上がりの有無を調べたが、全て確認できなかったため単独の屋外炉として報告する。

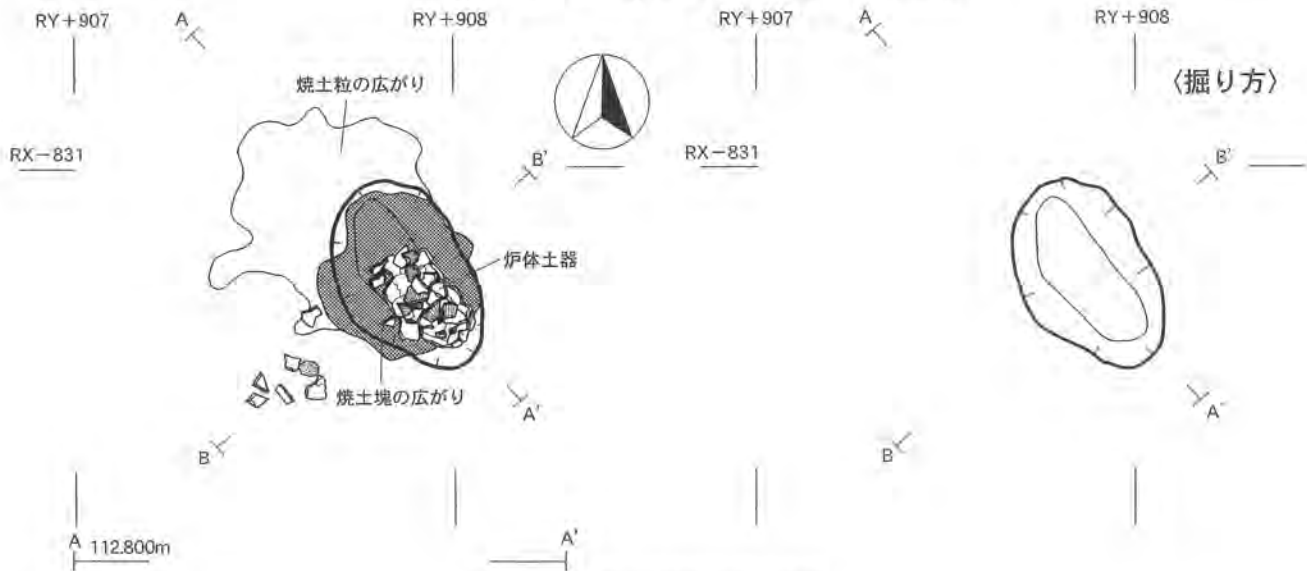
炉跡上面は焼土塊、縄文土器が濃密に分布し、周辺は焼土粒、縄文土器片が集中していた。焼土塊、縄文土器が濃密に分布した所が炉の本体で、炉は土坑状に掘り込まれ、縦に半裁された炉体土器が斜位に埋められた「斜位土器埋設炉」である。炉体土器は炉の中央から南東端の焼土上面に出土している。焼土範囲は長軸86cm、短軸80cm前後の不整楕円形を呈し、炉の全体に焼土が広がっている。また、炉周辺には焼土粒の集中が炉から北西方向へ延びるように分布している。炉の規模は長径が1.1m、短径が0.6m、深さが18cmを測り、平面形は長楕円形を呈する。

炉跡の埋土は5層からなる。A1層は炉周辺の焼土粒が集中した埋土である。明褐色シルト質埴壤土(7.5YR 5/6)を基本土とし、にぶい黄褐色シルト質埴壤土を少量混入している。B層は炉体土器内部に堆積している埋土で2層に分層することができる。B1層は土器の前方、胴部上半部に堆積した埋土で、にぶい赤褐色シルト質埴壤土(5YR 4/4)を基本土としている。B2層は土器の底部内に堆積している埋土で、赤褐色シルト質埴壤土(7.5YR 4/4)を基本土としている。B1層よりB2層のほうが焼土塊・粒の密度が濃い。C1層は燃焼部である焼土層で、焼成を受け締まっている。最も赤みがあり、明赤褐色シルト質埴壤土(5YR 5/6)を基本土とする。C1層の下は厚さ5cm程地山が被熱していた。D1層は土器埋設時に埋められた構築土で、底部付近にのみ埋められている。にぶい黄褐色シルト質埴壤土を(10YR 4/3)を基本土とし、黄褐色シルト質埴壤土を混入している。焼土粒はあまり混入していない。

炉体土器は頸部から底部までの粗製土器である(第67図1)。胴径が小さく細身で胴長の器形である。頸部を有し、緩やかに括れている。現存する器高は32cmで、底径は11cmである。器面に複節RLR

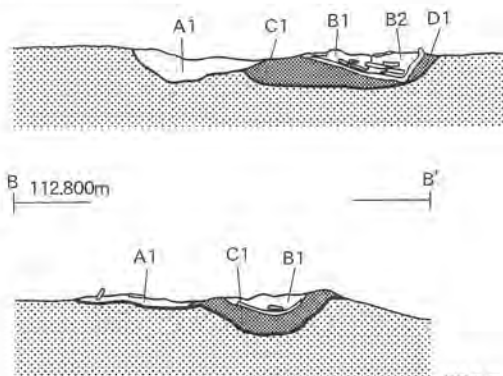


第64図 第1号炉跡、第19号土坑平面図

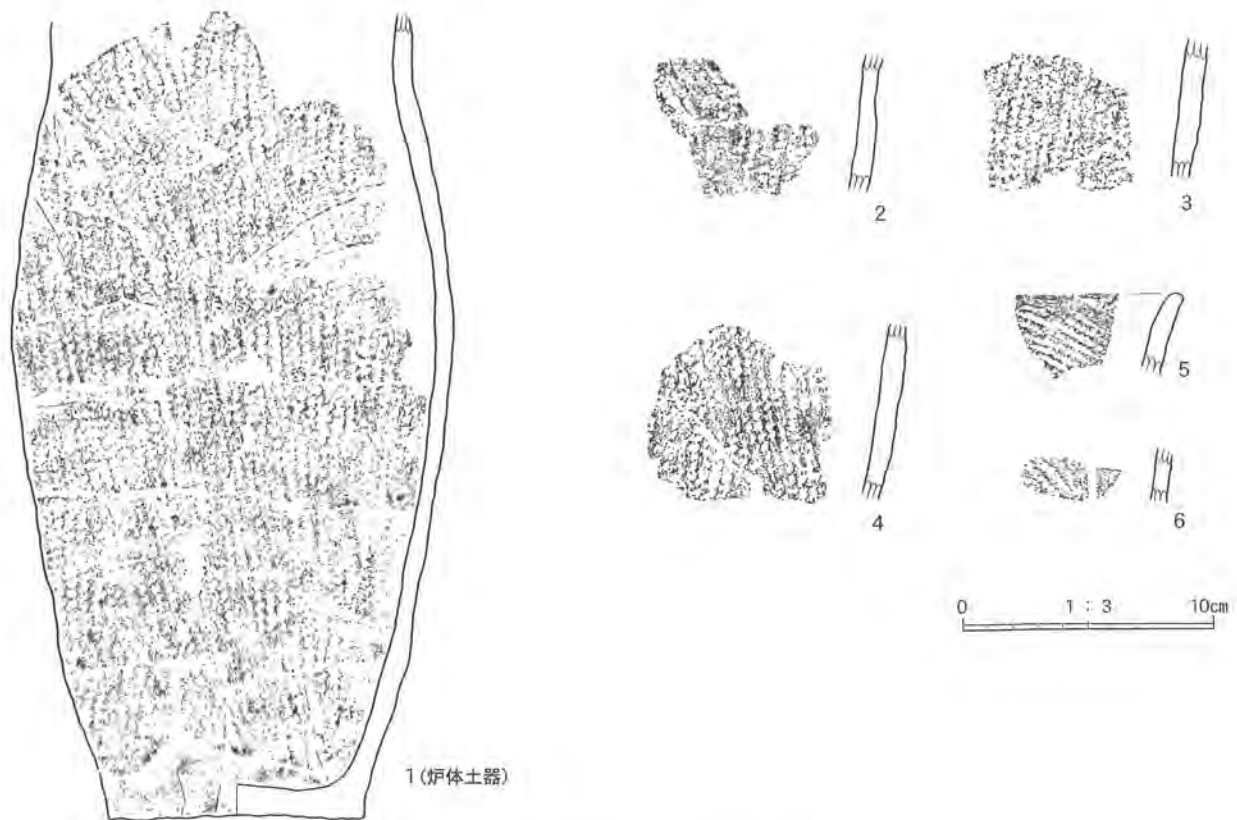


第1号炉跡土層注記表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
焼土粒 集中	A1 7.5YR5/6 明褐色シルト質堆積土	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質堆積土1% 塊状	硬質。粘性なし 焼土粒7%、焼土塊3% カーボン2%
土器内 堆積土	B1 5YR4/4 にぶい赤褐色シルト質堆積土	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質堆積土1% 塊状	硬質。粘性ややなし 焼土粒3%、焼土塊3% カーボン1%
土器内 堆積土	B2 7.5YR4/6 赤褐色シルト質堆積土	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質堆積土3% 塊状	硬質。粘性ややなし 焼土粒7%、焼土塊7% カーボン1%
焼土層	C1 5YR5/8 明赤褐色シルト質堆積土	—	硬質。粘性ややあり
土器 掘り方	D1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質堆積土	10YR6/6 褐色シルト質堆積土3% 塊状	硬質。粘性なし 焼土粒2%



第65図 第1号炉跡平面図・断面図



第11表 第1号炉跡出土土器観察表

神図番号	番号	層位	器種・部位	文様	器面調整	胎土	備考
66	1	—	深鉢形	RLR縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	埋設土器、受熱 底径11.0cm 最大径17.6cm
			胴部～底部				
66	2	B 2	胴部	RLR縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	1と同一個体
66	3	B 2	胴部	RLR縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	1と同一個体
66	4	A 1	胴部	RLR縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	1と同一個体
66	5	B 2	口縁部	LR縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫	埋設土器内で出土
66	6	B 1	胴部	LR縄文、沈線	内面ナデ	砂粒、石英	

第66図 第1号炉跡出土土器

縄文を斜位に施しており節が縦走している。外面は熱を受け赤くなっている。時期は不明である。第67図2～4は炉体土器の同一個体である。5と6は炉体土器内部に混在していた破片である。5は口縁部片でRL縄文を横位に施している。6は胴部片で縄文地に縦位の沈線を引いている。縄文時代中期後半から後期前葉に見られる文様であろう。

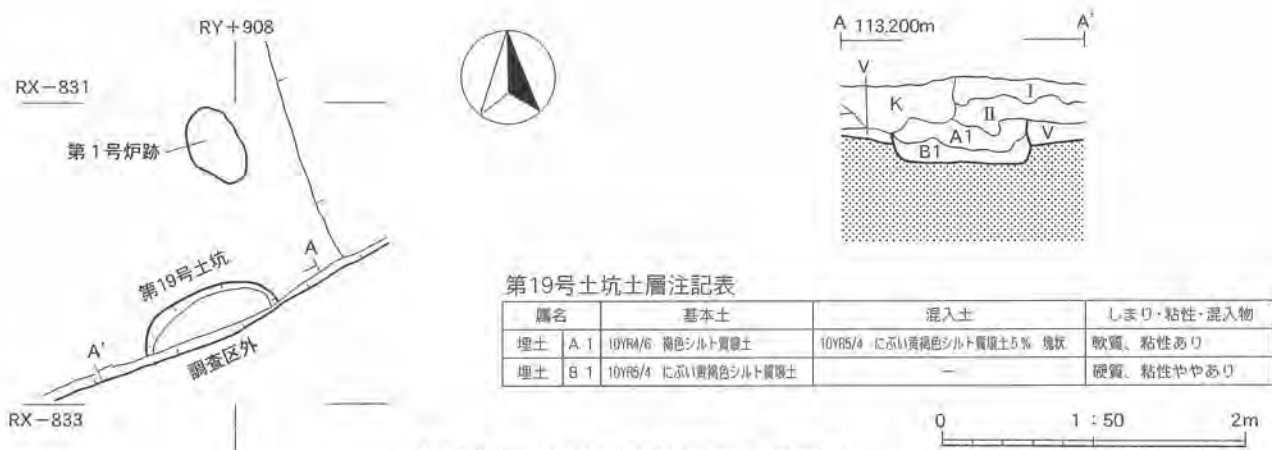
炉跡の時期は炉体土器からでは不明であるが、概ね縄文時代中期後葉から後期前葉頃と考えられる。

・土坑

第19号土坑（第64図、第67図、第68図、写真図版36、52）

第1号炉跡の南、調査区壁付近で検出された。土坑のほとんどは調査区外へ続いているため、全容は不明である。調査分の土坑開口部の最大長は92cmで、深さは30cmを測る。基本土層VI層を掘り込んでいるが上部は攪乱、削平されている。土坑の断面は不詳であるが残存部は袋状を呈している。底面は平坦でほぼ直に立ち上がる。

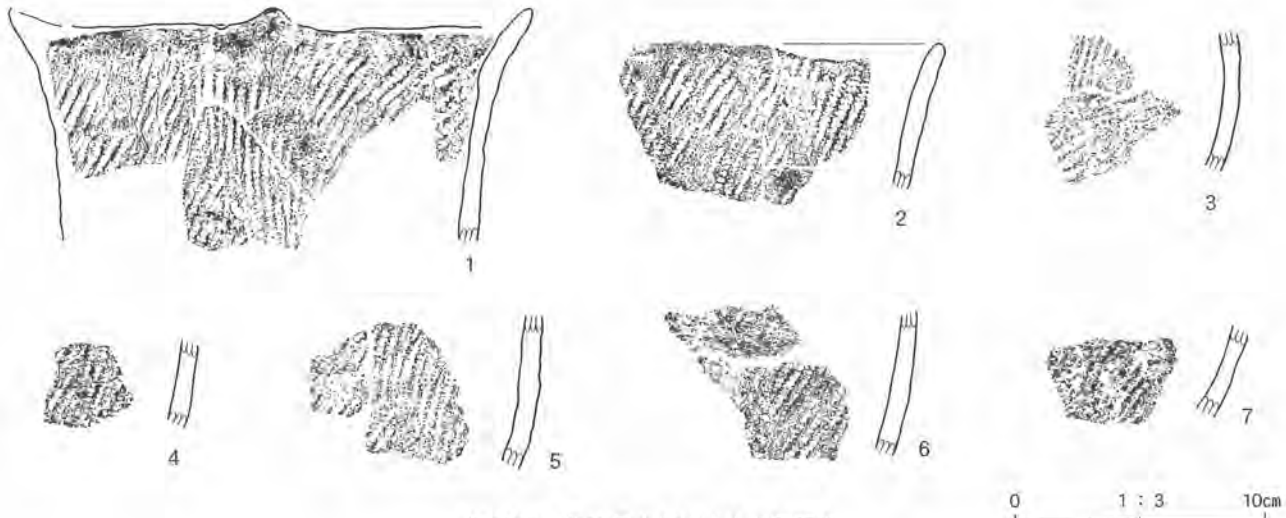
埋土は2層からなる。A1層は褐色シルト質壤土（10YR 4/6）を基本土とし、にぶい黄褐色シルト質壤土を混入している。締まりがなく軟らかい。B1層はにぶい黄褐色シルト質壤土（10YR 5/4）を基本土としている。A1層と異なり硬く締まっている。



第19号土坑土層注記表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
埋土 A 1	10YR4/6 褐色シルト質壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質壤土 5%	塊状 軟質、粘性あり
埋土 B 1	10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質壤土	—	硬質、粘性ややあり

第67図 第19号土坑平面・断面図



第12表 第19号土坑出土土器観察表

挿図番号	番号	層位	器種・部位	文様	器面調整	胎土	備考
68	1	B 1	口縁部～胴部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	口径20.8cm
68	2	B 1	口縁部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	1と同一個体
68	3	B 1	胴部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫	5と同一個体か
68	4	A 1	胴部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫	6・7と同一個体か
68	5	A 1	胴部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫	3と同一個体か
68	6	B 1	胴部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫	4と同一個体か
68	7	B 1	胴部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫	4・6と同一個体か

第68図 第19号土坑出土土器

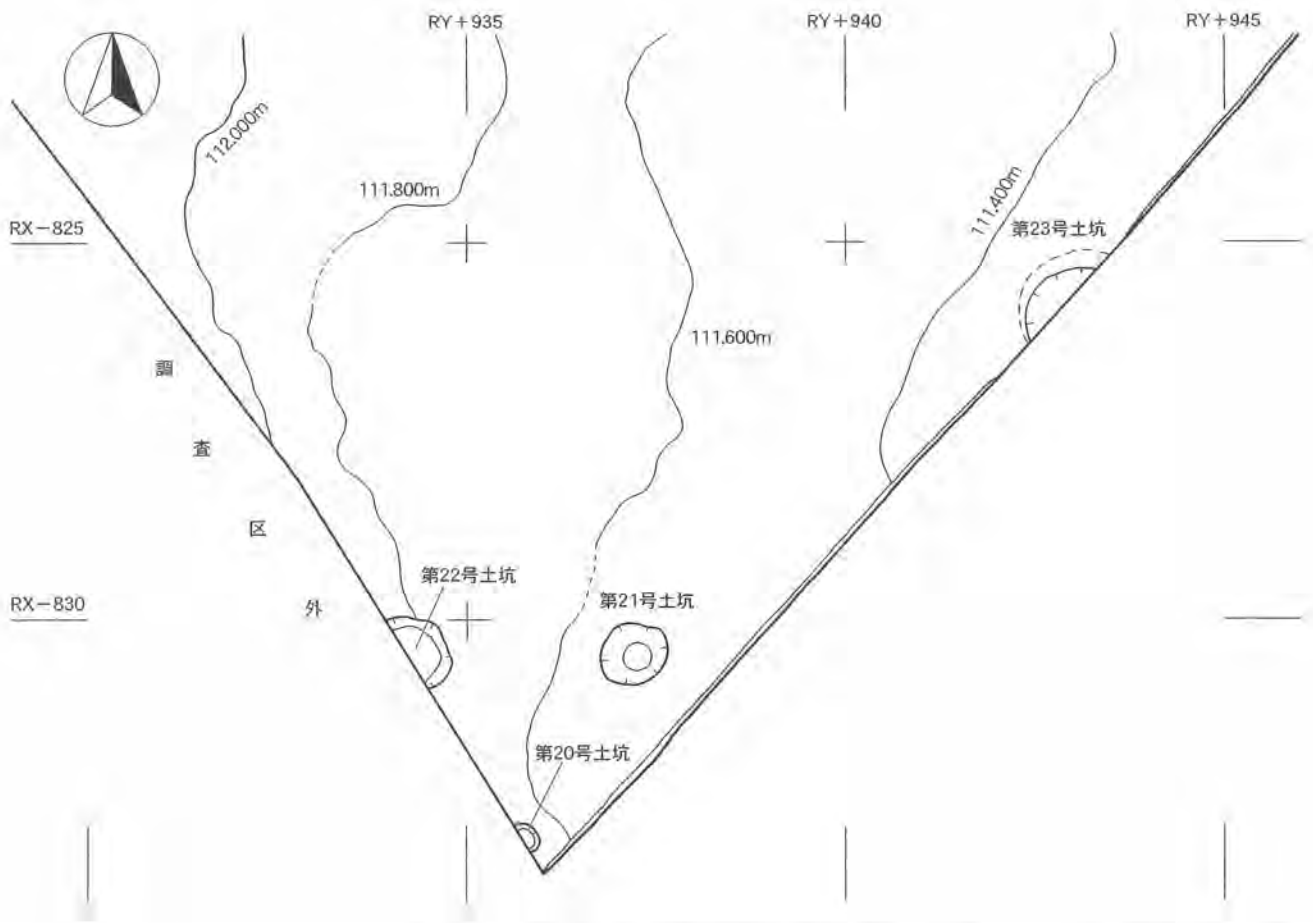
遺物はA 1層、B 1層から出土している。なかでもA 1層で多く出土した。全て縄文を施した破片である。第69図1、2は同一個体である。1は口縁部に山状の突起を有する土器である。R L 縄文を縦位・斜位に施している。3～7は胴部片で、R L 縄文を縦位に施している。

縄文時代の土坑であるが、性格・時期は不明である。

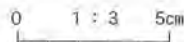
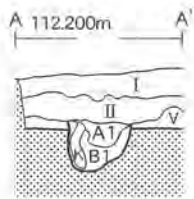
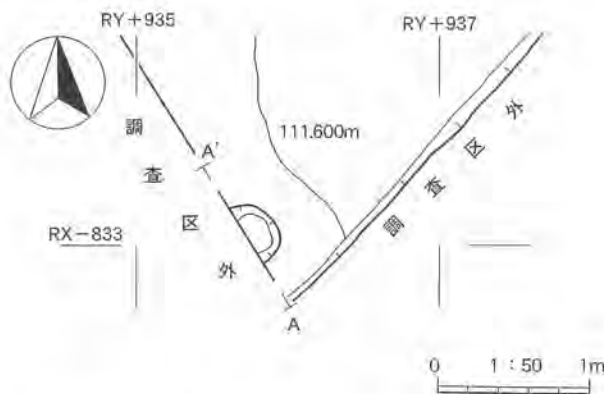
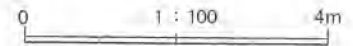
第20号土坑 (第69図、第70図、写真図版37、53)

第11次調査区の南西端の調査区壁付近で検出された土坑で調査区外へ続いている。調査分の土坑開口部の最大長は42cmで、深さは35cmを測り、基本土層IV層を掘り込んでいます。断面は逆台形を呈し軸は斜めに傾いている。

埋土は2層からなり自然堆積と考えられる。A 1層はにぶい黄褐色シルト質壤土 (10YR 4 / 3) を基本土とする。締まりはなくやや軟らかい。B 1層は褐色シルト質壤土 (10YR 4 / 6) を基本土とし、A 1層より硬く締まっている。



第69図 第20号～第23号土坑平面図

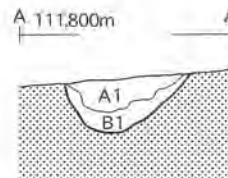
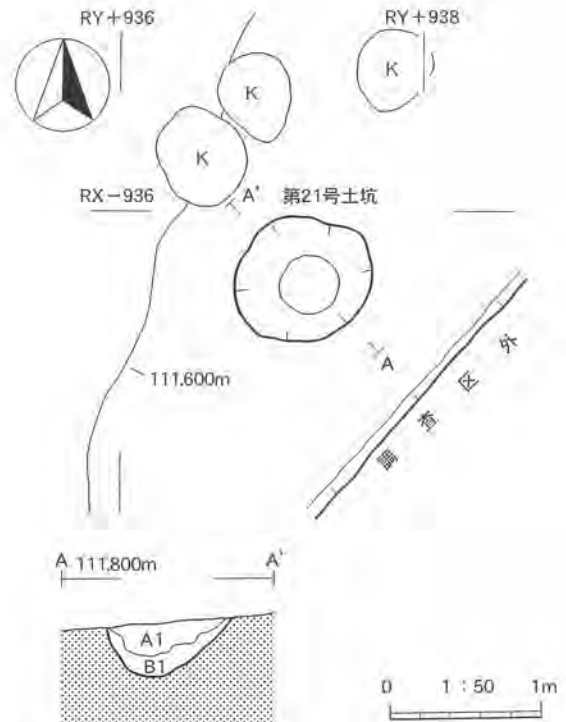


第20号土坑土層注記表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
埋土 A 1	10YR4/3 灰色黄褐色シルト質硬土	10YR4/4 褐色シルト質硬土1% 腐炭	やや軟質、粘性ややあり
埋土 B 1	10YR4/6 褐色シルト質硬土	10YR4/4 褐色シルト質硬土1% 腐炭	やや硬質、粘性ややあり

第13表 第20号土坑出土土器観察表

押回番号	番号	層位	器種・部位	文様	器面調整	胎土	備考
70	1	B 1	底部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、炭、金雲母	煤付着、網代痕



第21号土坑土層注記表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
埋土 A 1	10YR4/6 褐色シルト質硬土	10YR5/6 黄褐色シルト質硬土1% 腐炭	硬質、粘性ややなし
埋土 B 1	10YR5/4 灰色黄褐色シルト質硬土	10YR5/6 黄褐色シルト質硬土2% 腐炭	硬質、粘性あり

第70図 第20号、第21号土坑平面図・断面図、第20号土坑出土土器

遺物は縄文土器片が出土している。底部片で底面に網代痕が残っている。

縄文時代の土坑と考えられるが、性格・時期は不明である。

第21号土坑（第69図、第70図、写真図版38）

調査区の南西端で検出された。平面形は楕円形で長径は93cm、短径は83cm、深さは35cmを測る。断面形はすり鉢形で底面は狭く、緩やかに立ち上がっている。

埋土は2層からなり自然堆積と考えられる。A1層は褐色シルト質埴土（10YR 4/6）を基本土とし、B1層はにぶい黄褐色シルト質埴土（10YR 5/4）を基本土としている。

埋土から遺物は出土しなかった。このため、土坑の性格・時期は不明である。

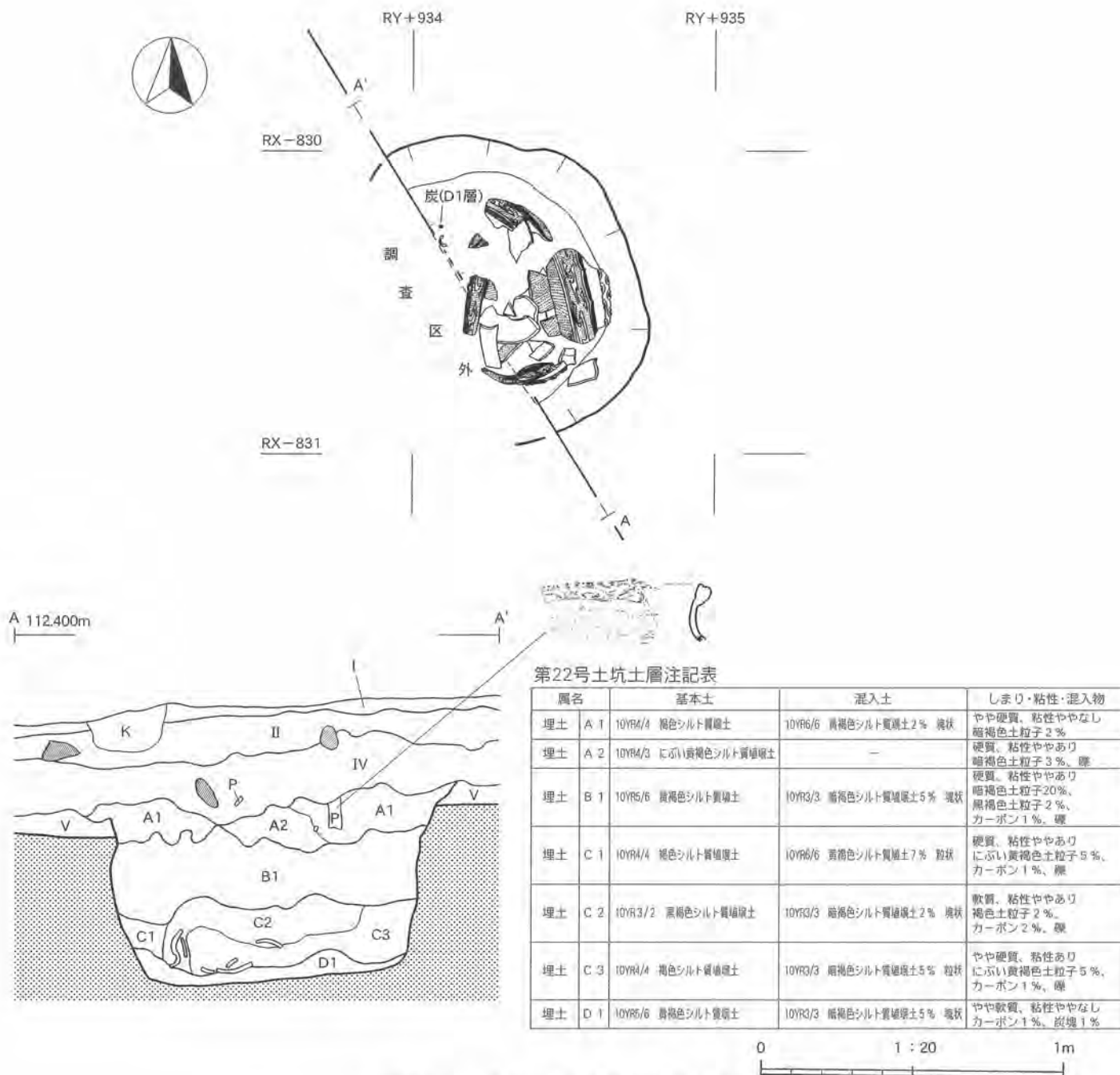
第22号土坑（第71図～第73図、写真図版8～12、39～47、53）

調査区南西端、調査区壁付近で検出され、調査区外へ続いている。調査分の土坑開口部の最大径は2.15mで、平面形は円形と考えられる。基本土層IV層を掘り込み、深さは1.23m、断面は袋形を呈している。底面は平坦で、壁は若干膨らみながら立ち上がる。

埋土は4層に大別される。A層は土坑上部に帯状に堆積する層で2層に分層される。A1層は土坑脇に見られ、褐色シルト質埴土（10YR 4/4）を基本土とし、黄褐色シルト質埴土を少量混入している。A2層は土坑中央部に見られ、B1層はにぶい黄褐色シルト質埴土（10YR 4/3）を基本土としている。A1層より明るい土で締まりがなく軟らかい。B1層は層厚20～30cmを測りA層の真下を帯状に堆積している。黄褐色シルト質埴土（10YR 5/6）を基本土とし、A層で混入していた暗褐色土粒子を多く混入している。C層はB1層の真下を帯状に堆積し、色調、締まりから3層に分層される。C1層は土坑南端に見られ、C2・3層の脇を固めている。褐色シルト質埴土（10YR 4/4）を基本土とし、黄褐色シルト質埴土を混入している。C2層は中央部に見られ、黒暗褐色シルト質埴土（10YR 3/3）を基本土とし、B1層と同じ暗褐色シルト質埴土を混入している。C1・3層と異なり締まりがなく軟らかい。C3層は基本土がC1層と近似している。D1層は土坑底面に見られ、地山土が主体でやや軟らかく、粘性がある。炭塊が1点出土した。以上の点から、埋土は自然堆積の様相を呈しておらず、後述の土器の出土状況と合わせて判断すると人為堆積と考えられる。

土坑内で縄文時代晩期の土器が割れた状態で出土した。同一個体の破片がC2・3層で集中的に出土しているが、A2層でもC2・3層で出土した土器と同一の口縁部破片が直立の状態で見られる。C2・3層に集中して出土した土器は平面的には大略、口縁部から胴部上半部の破片が胴部下半から底部破片の周りで出土し、底部はほぼ中央で出土している。しかし、底部破片の下にも口縁部破片が出土している。周辺に出土した口縁部から胴部上半部の破片は正位、逆位に立っているものや伏せているものがある。なおA2層、C2・3層で出土した破片は微細の土器片を除き接合し一個体になった。

土器はほぼ完形で、土器の口径は35.5cm、器高は22.7cm、底径は6.8cm、胴部の最大径は38.7cmを測る。土器の胎土は密で、器面には黒色処理や漆等の付着物は見られない。鉢形土器で頸部は括れ胴部上半で大きく膨らみ底部へ大きく窄まっている。口縁部は断面が肥厚し、B突起を上下交互に、A突起を4ヶ所単位状に装飾している。内面には一条の沈線を巡らせ、突起間の口端には4ないし5個の押圧を施している。頸部は広い無文帯と頸部下半には双瘤状のものと小さい瘤を8単位貼付し、沈線間に刻目帯を2列巡らせている。胴部上半には地文を縄文とし、縄文を磨り消した弧状の意匠を中央に、三叉文とC字文を繋いだ形の意匠を上下に配置してX字文もしくは雲形文を横位に展開している。胴部下半とは3条の平行沈線で区切られ、下半にはLR縄文を横位に施している。縄文時代晩期中葉、大洞C₁式に比定される。この他埋土中からは微細の土器・石器片が出土している。また埋



第71図 第22号土坑平面図・断面図

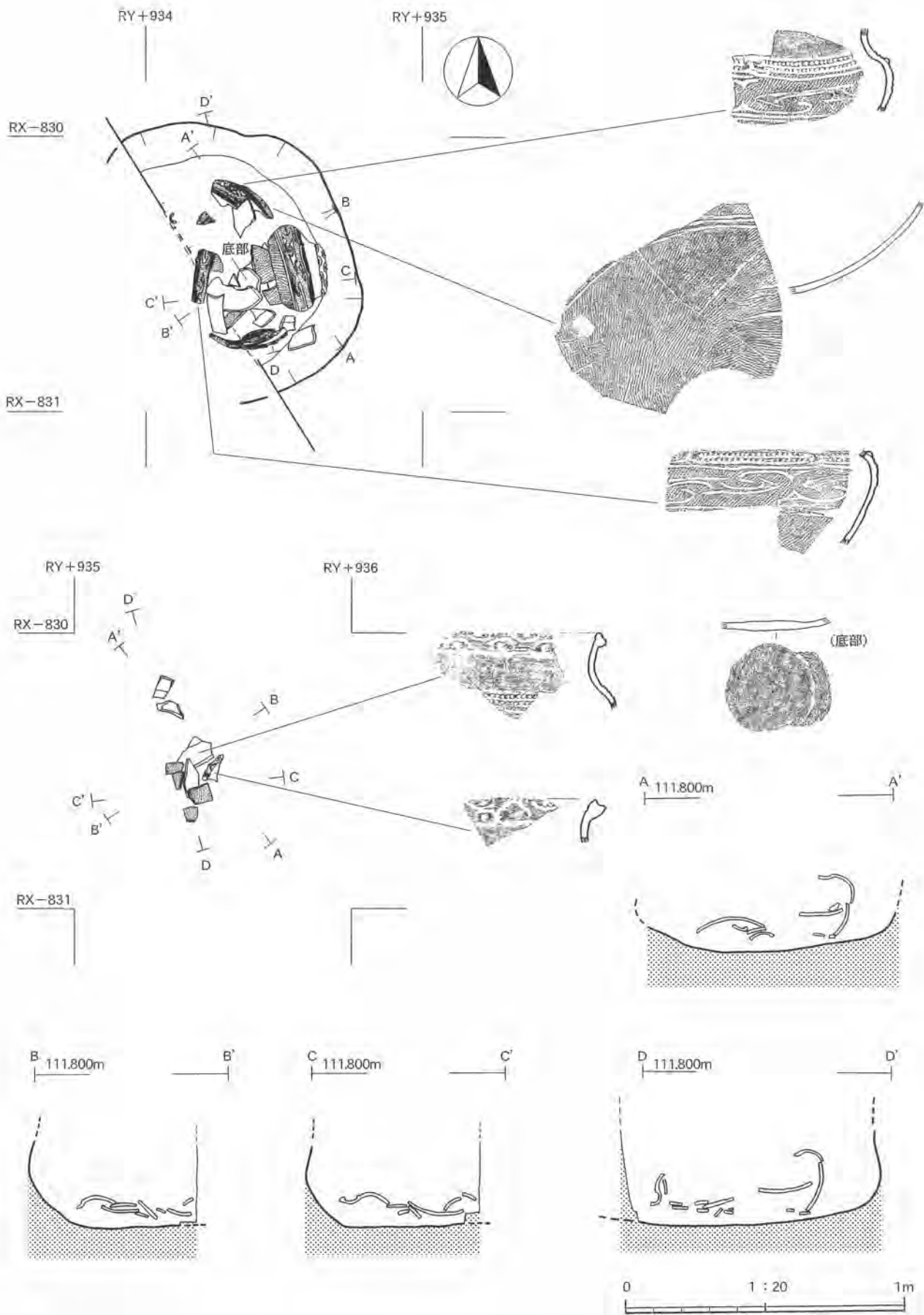
土を水洗により篩い分けしたが、微細土器片、炭片、礫以外は出土しなかった。

本土坑は意図的に土器を納め埋められたもので、縄文時代晩期中葉の土坑である。

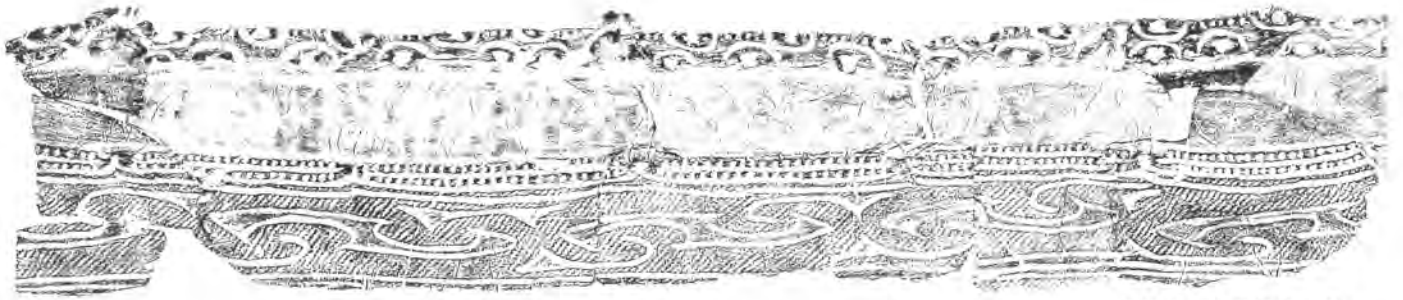
第23号土坑 (第74図、第75図、写真図版8、48、49、53)

調査区南西端、調査区壁付近で検出され、調査区外へ続いている。第2節の調査経過で前述したとおり調査区内において土坑開口部が狭く掘り下げるのが困難なほど深いため、土坑を半裁せざるを得なかった。調査分の土坑開口部の最大径は1.25mで、平面形は円形と考えられる。基本土層VI層を掘り込み、深さは1.22m、底面は平坦で最大径は1.62mを測る。断面はフラスコ形を呈している。

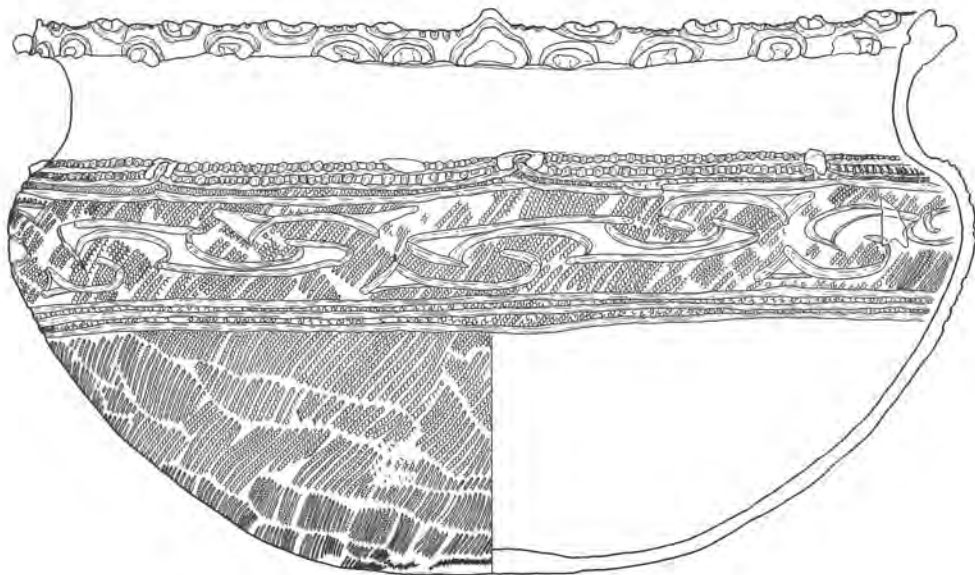
埋土は6層からなり、堆積状況から自然堆積と考えられる。A1層は土坑上部をレンズ状に堆積している。褐色シルト質埴土(10YR4/4)を基本土とし、暗褐色シルト質埴土を少量混入している他、カーボン・黄褐色土粒子を少量含んでいる。B層は2層に分けられる。B1層は黄褐色シル



第72图 第22号土坑土器出土状况图



口縁部～胴部拓本 (S=1/4)

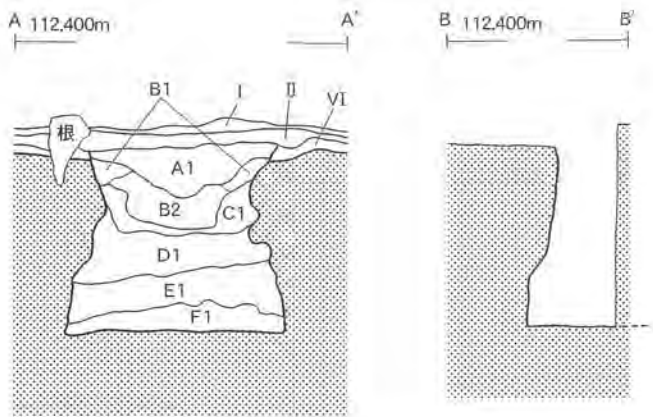
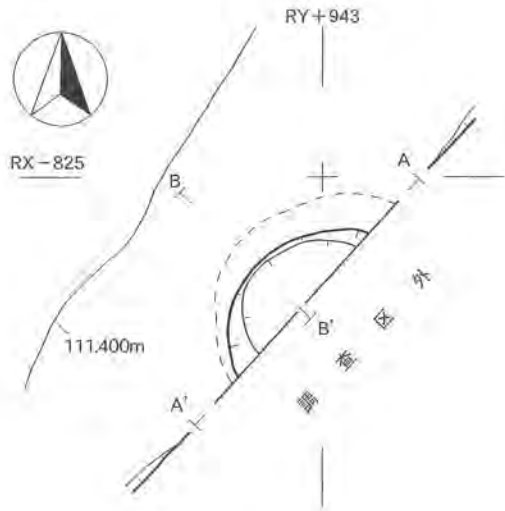


0 1 : 3 10cm

第14表 第22号土坑出土土器観察表

挿図 番号	番号	層位	器種・部位	文 様	器面調整	胎 土	備 考
73	1	A 1 C 2 C 3	鉢 形	L R 縄文 雲形文、C字文、X字文 口唇部に突起 口縁部の内面に沈線	内面ナデ	砂粒、石英、礫	器高22.7cm 口径35.5cm 最大径38.7cm 底径6.8cm

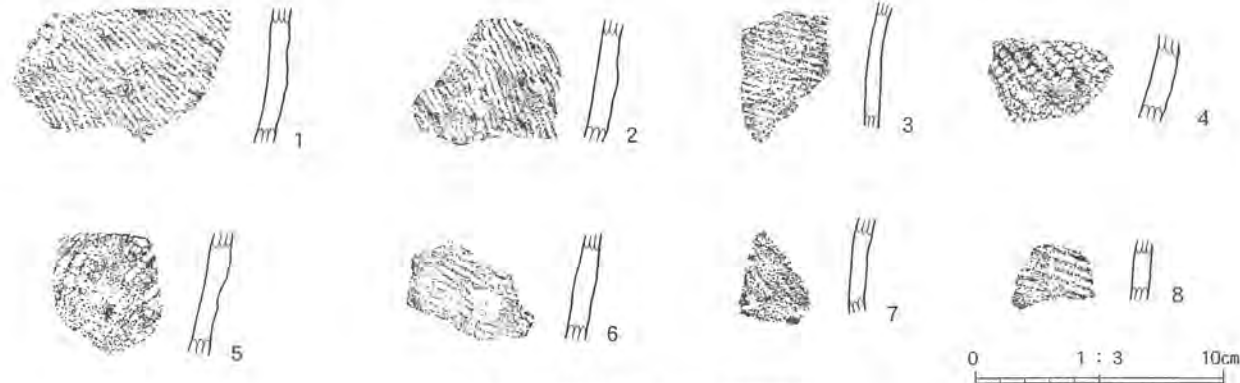
第73図 第22号土坑出土土器



第23号土坑土層注記表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
埋土 A 1	10YR4/4 暗褐色シルト質埴壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質埴壤土 2% 塊状	やや硬質、粘性なし 黄褐色土粒子 2%、カーボン 1%
埋土 B 1	10YR5/6 黄褐色シルト質埴壤土	—	やや硬質、粘性あり
埋土 B 2	10YR3/4 暗褐色シルト質埴壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質埴壤土 1% 塊状	硬質、粘性ややあり 黄褐色土粒子 5%、カーボン 1%
埋土 C 1	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質埴壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質埴壤土 3% 塊状	やや硬質、粘性あり 黄褐色土粒子 5%、カーボン 1%
埋土 D 1	10YR3/4 暗褐色シルト質埴壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質埴壤土 1% 塊状	やや軟質、粘性ややあり 黄褐色土粒子 7%、カーボン 2%
埋土 E 1	10YR3/2 黒褐色シルト質埴壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質埴壤土 1% 塊状	軟質、粘性あり 黄褐色土粒子 5%、カーボン 5%、 炭化種子 1%
埋土 F 1	10YR5/6 黄褐色シルト質埴壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質埴壤土 2% 塊状	やや硬質、粘性ややあり カーボン 1%

第74図 第23号土坑平面図・断面図



第15表 第23号土坑出土土器観察表

挿図番号	番号	層位	器種・部位	文様	器面調整	胎土	備考
	75 1	A 1	胴部	L縄文(結節)	内面ミガキ	砂粒、石英、礫	2と同一個体
	75 2	A 1	胴部	L縄文(結節)	内面ミガキ	砂粒、石英、礫	1と同一個体
	75 3	B 2	胴部	無節縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫	
	75 4	E 1	胴部	R L縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫	
	75 5	E 1	胴部	R L縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	
	75 6	E 1	胴部	R縄文	内面ミガキ	砂粒、石英、礫	
	75 7	E 1	胴部	條線文	内面ナデ	砂粒、石英、礫	
	75 8	E 1	胴部	R L縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	
	75 9	E 1	胴部	縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	
	75 10	E 1	胴部	R L縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	

第75図 第23号土坑出土土器

ト質壤土 (10YR 5/6) を基本土としている。地山土の崩落層である。B 2層は暗褐色シルト質埴壤土 (10YR 3/4) を基本土とし、A 1層と同じく暗褐色シルト質埴壤土を少量混入している他、カーボンを少量、黄褐色土粒子をA 1層より多く含んでいる。C 1層はにぶい黄褐色シルト質埴壤土 (10YR 4/3) を基本土とし、黄褐色シルト質埴壤土を混入している。D 1層は暗褐色シルト質埴壤土 (10YR 3/4) を基本土とし、にぶい黄褐色シルト質埴壤土を少量混入している他、カーボン・黄褐色土

粒子をC1層より多く含んでいる。E1層は最も暗く、黒褐色シルト質埴土(10YR3/2)を基本土とし、黄褐色シルト質埴土を少量混入している。カーボンを最も多く含み、締まりはなく軟らかい。F1層は底面直上層で、地山土に近い土である。

遺物は主にA1層とE1層から多く出土している。第76図1・2は同一個体でA1層から出土している。結節が縦に走り無節L縄文を縦位に施している。3～6、8～10は縄文を施した破片である。7は隆線を貼付している。また、E1層から半分に欠けたドングリと思われる炭化種子が出土し、E1層の土を水洗選別した。この結果、同定不能の炭化物が確認された。

本土坑はいわゆるフラスコ形土坑であるが、帰属時期は時期を断定できる遺物がなく不明である。

・遺構外出土遺物(第76図～第79図、写真図版54、55)

調査区内から出土した遺物は約500点を数える。

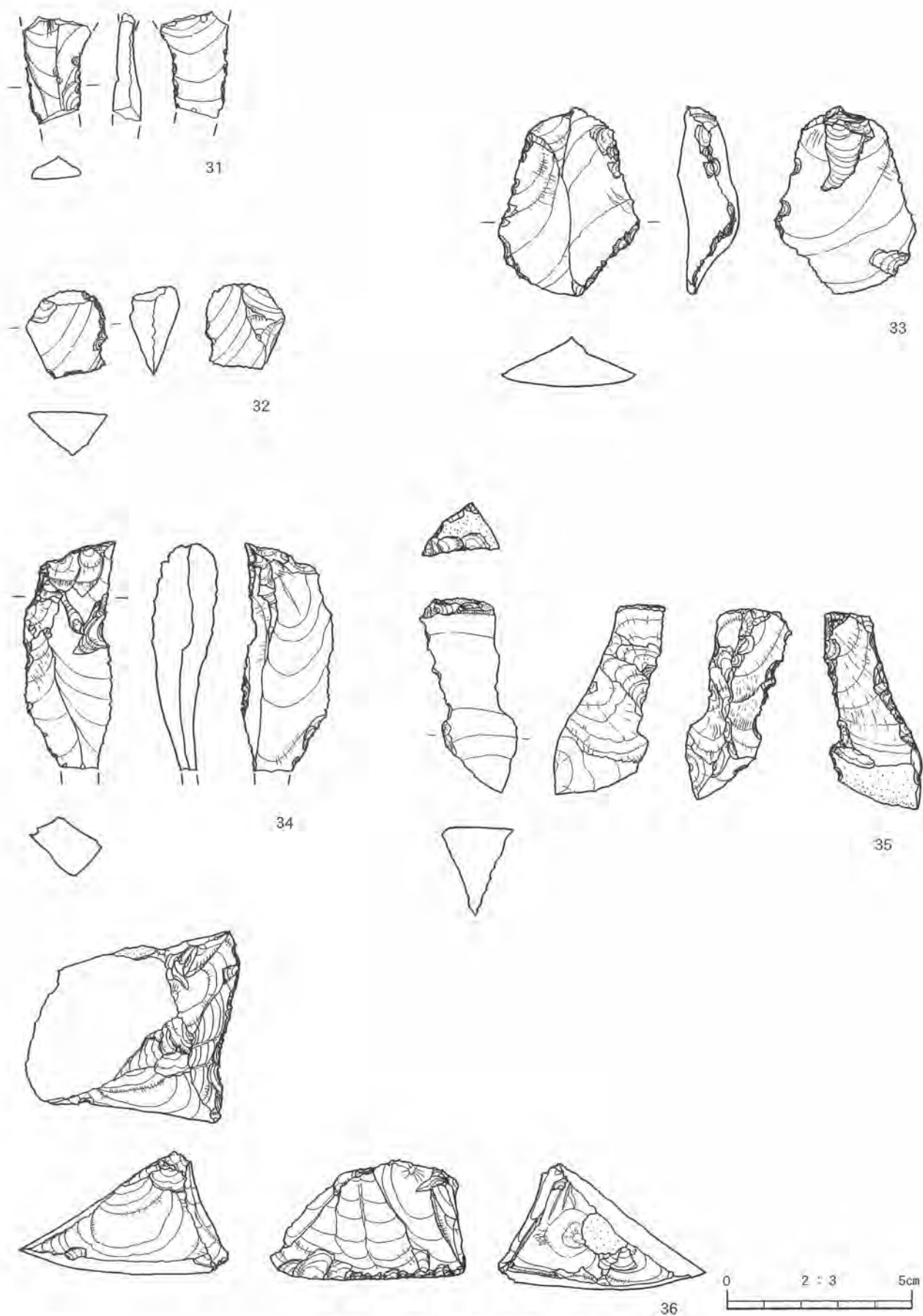
第77図1～7は第11次調査区の西部から集中して出土した縄文土器で、口縁部破片(1)と胴部破片(2～7)が出土した。RL縄文を縦位に施している。8～10は胎土に繊維を混入した縄文時代前期前半の土器である。8はS字状結節文を施している。9はLR縄文を横位に施している。10はRL縄文とLR縄文を横位に施した羽状縄文で縄文間に結束が見える。11～13は口縁部破片である。11は外反しRL縄文を横位に施している。12と13の口縁部は段を有し肥厚している。13は器面にRL縄文を縦位に施している。14～23は胴部破片である。14は縦位にLR縄文を施した後、平行沈線と蛇行沈線を縦に引いている。15は沈線と縦位に施したLR縄文からなる。16と17は同一個体で、2条の沈線を引いている。18～20は縄文を施している。21は無文である。22、23は節の細かい撚糸文、縄文を施している。ともに弥生土器であろう。24～27は底部破片である。24は尖底土器の底部で、胎土に繊維痕がみられる。器面に縄文を施している。25、27は底面に木葉痕が残されている。26は底面に網代痕が残されている。

28～42は石器である。各石器の規模を第18表に記載している。28は石錐またはスクレーパーで、先端は尖っている。腹面、背面の刃部側に調整を施し、腹面には片縁に剥離調整を施し、背面は腹面に比べやや粗く調整している。石材は黒色頁岩と思われる。29は周辺に調整を施し先端を尖らせている。石錐と考えられる。石材は頁岩である。30～34は細部加工を施した剥片である。30は片側に細長い剥離調整を施している。31は両面の側縁部に調整を施している。頁岩製である。32は台形状を呈し、片面の側縁に連続した調整を施している。33は断面が三角形を呈し、片面には細かい剥離調整を施している。34は一部が欠損し、嘴状の先端部を有する。色調は白色で石材は不明である。35は器種不明である。断面は正三角形に近く、一つの面には細部調整を施している。上下に自然面を残し、上端にも調整を施している。三方向から剥片を取った後細部調整を施したものと考えられる。36と37は石核と考えられ、二つ並んで出土した。36は大きく自然面を残し、主に上部から打撃を加えているが、下部に縦方向の連続した調整も施している。石材は黒色頁岩と考えられる。37は一部自然面が残るが、両面とも不規則に打撃を加えている。石材は頁岩と考えられる。38は打製石斧である。両面の両側縁を加工し、腹面の刃部には大きく調整を施している。石材は砂岩と考えられる。39は礫器と考えられる。片縁のほぼ同じ位置から両面に大きく打ち欠いている。上部の一部に磨り減っているところがあるが、機能面かどうかは不明である。40は磨石である。上部は欠損し、周縁部を磨面としている。石材は砂岩と考えられる。41は凹石で、欠損している。42は敲打磨石と思われるが、機能面は平滑である。研磨具としての用途も考えられる。

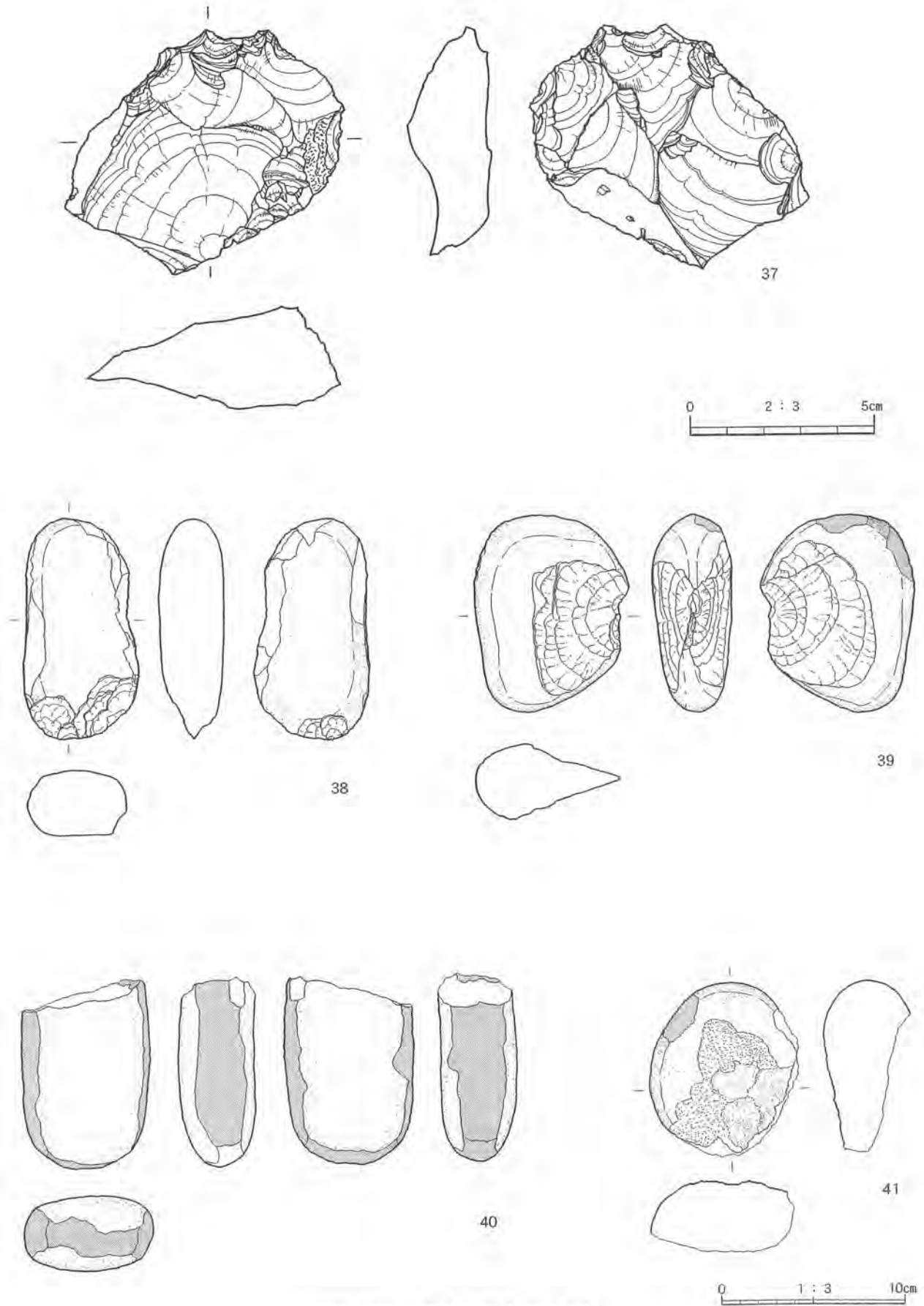
43と44は第1号攪乱から出土した銭貨で、43は寛永通宝、44は十銭硬貨である。



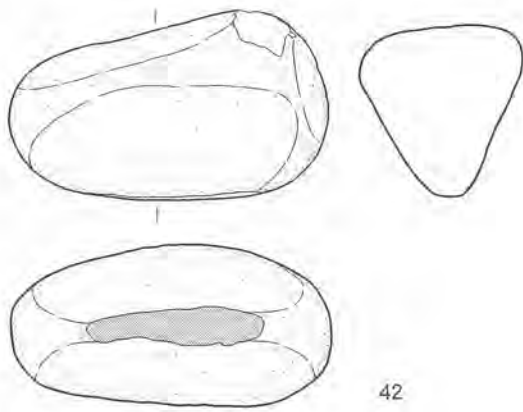
第76圖 遺構外出土遺物(1)



第77図 遺構外出土遺物(2)



第78図 遺構外出土遺物(3)



第79図 遺構外出土遺物(4)

第16表 遺構外出土土器観察表

挿図番号	番号	地点	層位	器種・部位	文様	器面調整	胎土	備考
76	1	西部	IV	口縁部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	4と同一個体
76	2	西部	IV	胴部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	
76	3	西部	IV	胴部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	
76	4	西部	IV	胴部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	1と同一個体
76	5	西部	IV	胴部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	
76	6	西部	IV	胴部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	
76	7	西部	IV	胴部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	
76	8	—	—	胴部	S字状結節文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、繊維	
76	9	北西部	II	胴部	L R 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、繊維	
76	10	南西部	II	胴部	R L 縄文、L R 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、繊維	
76	11	西部	IV	口縁部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫	
76	12	西部	II	口縁部	無文	内外面ナデ	砂粒、石英	
76	13	西部	II	口縁部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英	
76	14	西部	IV	胴部	LR縄文、縦走・蛇行状沈線	内面ミガキ	砂粒、石英	
76	15	南東部	IV	胴部	LR縄文、沈線	—	砂粒、石英	内面剥離
76	16	西部	II	胴部	沈線	内面ナデ	砂粒、石英、礫	17と同一個体
76	17	西部	II	胴部	沈線	内面ナデ	砂粒、石英、礫	18と同一個体
76	18	西部	II	胴部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	
76	19	攪乱	—	胴部	L R 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	
76	20	西部	II	胴部	無節縄文(羽状)	内面ナデ	砂粒、石英	
76	21	西部	III	胴部	無文	内面ナデ	砂粒、石英、礫	
76	22	南東部	II	胴部	擦糸文L	内面ナデ	砂粒、石英	
76	23	西部	II	胴部	R L 縄文(羽状)	内面ナデ	砂粒、石英	
76	24	西部	II	底部	L R 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、繊維	尖底土器片
76	25	西部	IV	底部	—	—	砂粒、石英、礫	木葉痕
76	26	西部	IV	底部	無文	内外面ナデ	砂粒、石英	網代痕
76	27	10次調査	IV	底部	R L 縄文	内面ナデ	砂粒、石英、礫、金雲母	木葉痕、受熱

第19表 遺構外出土石器観察表

挿図 番号	番号	地 点	層位	器 種	現存する規模 (cmまたはg)				備 考
					最大長	最大幅	最大厚	重 量	
76	28	西部	IV	石錐	3.2	1.1	0.6	2.7	
76	29	南東部	IV	石錐	1.9	1.3	0.3	1.0	上部欠損
76	30	10次調査	II	フレイク	1.6	1.5	0.6	1.4	加工を施している。
77	31	東部	IV	フレイク	2.8	1.8	0.5	2.4	上下欠損。加工を施している。
77	32	西部	IV	フレイク	2.2	2.1	1.2	4.1	加工を施している。
77	33	南西部	II	フレイク	5.0	3.3	1.4	17.5	加工を施している。
77	34	西部	II	フレイク	6.1	2.3	1.3	13.6	一部欠損、加工を施している。
77	35	南東部	II	器種不明	5.0	2.4	2.3	17.5	残核か。
77	36	西部	IV	石核	3.3	5.7	—	82.3	一部に剥離調整を施している。
78	37	西部	IV	石核	6.3	6.9	2.6	92.2	
78	38	北西部	II	打製石斧	11.9	6.2	3.6	462.8	
78	39	西部	II	礫器	10.6	6.4	3.6	515.1	
78	40	南西部	IV	磨石	9.7	7.1	4.1	554.1	欠損部の一部を加工している。
78	41	南西部	IV	凹石	9.5	8.2	3.6	496.8	欠損している。
79	42	南西部	II	磨石	12.7	7.4	6.7	823.9	

第18表 遺構外出土銭貨観察表

挿図 番号	番号	地 点	層位	器 種	現存する規模 (mm)				備 考
					外 径	穿 孔	外輪厚	外輪幅	
79	43	1号攪乱	—	寛永通宝	20.3	6.0	1.2	3.8	
79	44	1号攪乱	—	十銭硬貨	20.1	—	—	—	製造年不明、昭和10年代。

第5節 調査のまとめ (第80図)

今回の調査では縄文時代の土坑が5基、炉跡1基を検出し、遺物は主に縄文土器、石器が出土した。遺構は4基が調査区外へ続いているため、全容を把握するには至らないが、調査区の西隣にも遺構が検出されることが分かった。また、検出した遺構は調査区の西または南西に限られ、それより東側には遺構が検出されず空白であった。

第1号炉跡付近で検出された第19号土坑は断面がピーカー形の土坑で埋土から縄文土器が出土した。貯蔵用の土坑と考えられる。出土した土器は全て粗製土器であるが第69図1の山形口縁の土器から概ね縄文時代中期あるいは後期の所産であると考えられる。

第22号土坑は出土した土器から晩期中葉、大洞C₁式期の所産である。調査区外へ続いているため、平面形は不明であるが、円形あるいは楕円形であると考えられる。断面は袋状を呈しており、ピーカー形、フラスコ形の貯蔵穴とは一線を画すように思える。出土した土器はほぼ完形の一個体で破片が土坑内で集中しているが、同一個体の口縁部破片が土坑の上層からも直立の状態で出土している。土坑内の出土状況は底部がほぼ中央で出土し、口縁部のほとんどがその周りに出土していることから、土器を土坑内に納めた後に土圧で潰れたたものと考えられるが、意図的に土器を割った、または割った破片を並べたとも考えられる。しかし、その目的がいずれにせよ土坑の覆土上面から同一個体の破片が出土していることに注視しなければならず、破片が原位置にあったかそうでなかったかに拘らず完形であった一個体の土器は埋納する前に何等かの目的で口縁部破片の一欠けらを抜き取っていることが考えられる。土坑の最上層から出土していることから土を埋める行為の最後を意味するものや、墓坑の上面に見られる石の代わりとしたもの、墓標のような目印的なもの等が考えられるが、このような出土状態は特異であり、即断はせず今後の検出例に注目していくことが現時点では最善であろう。

今回は偶然にも調査区壁で土坑が検出されたことから以上の出土状態を図示することができたが、本土坑と同じ検出例を今後増やすためには、土坑上面での出土状況に十分注意する必要がある。

第22号土坑で出土した土器は口縁部に突起を有し、口縁部、頸部下半、胴部に文様帯をもつ。口縁部の装飾突起、頸部下半の前型式の名残り、胴部上半の雲形文は大洞C₁式の特徴とされる。しかし、胴部文様の平面的なモチーフや双瘤状の貼付は次の大洞C₂式への過渡的な様相を窺い知ることができる。市内では近内地区で類似した土器が出土しているが、ほぼ完形のもの

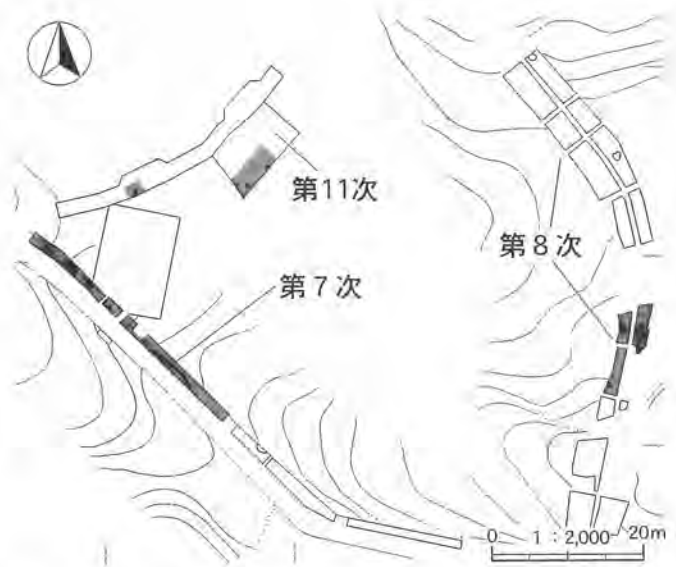
市内において初例である。大洞C₁式の土器は、沿岸では大船渡市大洞貝塚、宮野貝塚を始め南部に多いが、県内以北の出土例は極めて少なく本遺跡の他、同市近内中村遺跡、野田村根井貝塚をあげるに過ぎない。

第23号土坑はフラスコ形土坑で、貯蔵穴である。大付遺跡では隣接する第3次調査で調査されている。埋土からは炭化した種子が出土している。周辺の遺跡では崎山貝塚、白石遺跡で調査され、市内では鉄ヶ崎館山遺跡、近内中村遺跡、高根遺跡、金浜館跡、高浜VI地神遺跡で多く検出されている。本例は出土した土器が粗製土器であるため時期の位置付けは困難であるが、他遺跡の検出例から概ね中期または後期とするのが妥当であろう。

この他、第20号、第21号土坑は詳しい時期は不明である。特に第20号土坑は第22号土坑の近くでもあり、調査区外へ続くため今後の調査で明らかになるものと考えたい。

第1号炉跡は斜位土器埋設炉である。周辺に貼床、柱穴が見つからなかったため単独の炉跡と考えられる。斜位土器埋設炉は市内では白石遺跡の後期前葉の竪穴住居跡(第15号竪穴住居跡)、大又沢II遺跡の埋設土器遺構(12号土坑、24号土坑)で報告されている。複式炉の埋設土器でも検出される例もあることから、斜位土器埋設炉は中期中葉から後期前葉に多く見られる遺構であり、本例も炉体土器が粗製土器であっても概ね中期中葉から後期前葉の所産と考えられる。

ここからは近くで調査された第7次、第8次調査と合わせて縄文時代の遺構の分布について概述する。第7次、第8次調査は前述したように縄文時代中・後期の遺構が検出されている。上の第80図は第7次、第8次調査と第11次調査内の遺構分布の概略図である。第7次調査区では第11次調査からみて南西の方位にあるAトレンチで竪穴住居跡1棟、竪穴跡1基、土坑6基が検出されている。時期が特定できる遺構は少ないが、竪穴住居跡については埋土出土の遺物から後期前葉との可能性が指摘されている。また、第7次、第11次調査に隣接する第3次調査ではフラスコ形土坑が検出され、周辺にもフラスコ形土坑が検出されることが予想される。このことから、第7次調査区と第11次調査区とその周囲には中・後期における遺構の広がり容易に捉えることができる。しかし、その範囲は第11次調査南西部から北東には続いていくことはないということが今回の調査で判明した。次に、第7次、第11次調査と同じ台地上を調査している第8次調査の台地縁辺部、第11次調査からみて南東の方位にあるE2区では竪穴住居跡が1棟、土坑が2基検出されている。竪穴住居跡は埋土出土の遺物から大



第80図 大付遺跡第7・8・10・11次遺構位置図

木8b式期かやや後出の所産であると指摘されている。なお、第9次調査でも当該期の竪穴住居跡が検出されているが、同じ台地上ではないためここでは割愛する。第11次調査区とは100m程離れているため双方の調査区を結びつけるのは詭弁とも取られかねないが、第23号土坑以外の遺構が両調査区の間点に存在している可能性はある。以上の点を踏まえると、第7次、第8次、第11次調査区間の台地上または緩斜地には縄文時代中・後期の遺構が検出される可能性が高く、第11次調査区から西の未調査地区にも広がっていると考えられる。

縄文時代晩期中葉の土坑である第22号土坑は大付遺跡では第1次調査の屈葬人骨墓、第5次調査の土坑に次ぐ検出で5例目となる晩期の遺構である。大付遺跡ではこれまでの調査から遺跡の東部は後・晩期の遺構が検出され、谷を越えた西部では前期から後期前葉の遺構が検出される傾向にあった。第22号土坑はこの従来の傾向からは外れ、西部で初めて晩期の遺構が検出されたことになり、今後も周辺で晩期の遺構が検出される見込みがある。しかし、これは従来の傾向を訂正するという事ではない。上記のように第11次調査区周辺は縄文時代中・後期の遺構の広がりが指摘できるし、晩期の竪穴住居跡が検出されたわけではないからである。現時点では従来の傾向を踏襲しつつ晩期における生活範囲が遺跡西部にも及ぶことを指摘するに留め、遺跡西部に晩期の集落が展開されるかどうかは今後の調査を待つことにしたい。

(6) 総括

今回の第11次調査は調査面積に比して検出遺構は少なく、検出された場所も調査区の西部・南西部と偏りのある結果であった。しかし、このことで遺構の広がりが従来よりも詳細になったことがあげられる。また、縄文時代晩期中葉の土坑が遺跡の西部で検出されたことは特筆すべき点である。大付遺跡第1次の調査は縄文時代晩期の調査で始まり、以来、晩期の遺構検出数、出土遺物ともに少なかったが、ここに晩期の一遺構を新たに加えることができた。

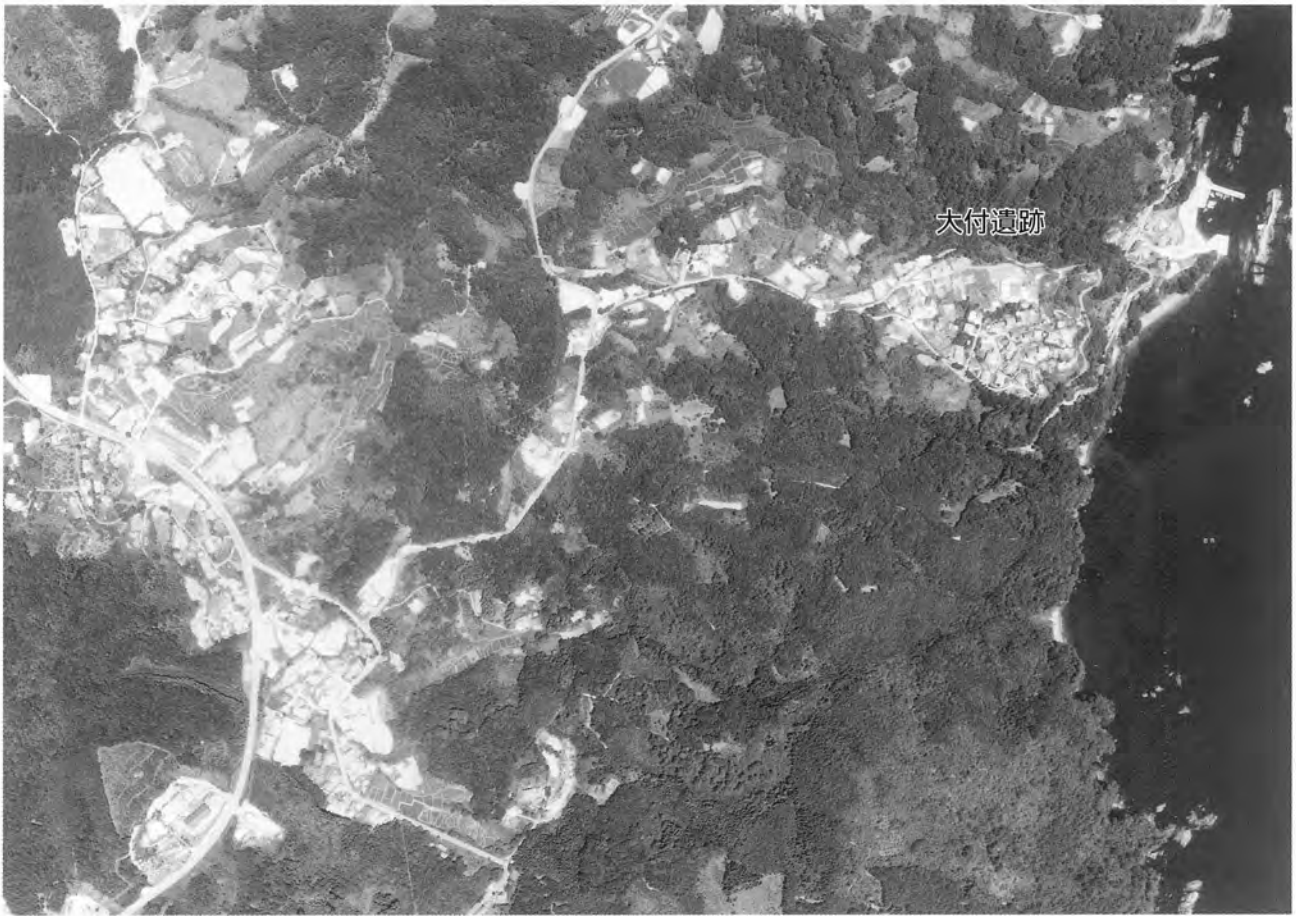
宮古市内における縄文時代晩期の調査は近年では近内中村遺跡が著名であるが、それを除けば決して調査例が蓄積されているとは言えず、大洞C₁式に限れば皆無に近い。このため晩期中葉の土坑は市内の縄文時代晩期の様相を明らかにする上で欠かすことのできない資料の一つとなった。

しかし、大付遺跡の調査は今回で11を数えるが、遺跡の範囲は広く未だ集落の一端のみが理解できているに過ぎないことも分かった。今後の資料の蓄積により大付遺跡における縄文時代の集落がより多く把握されていくことを期待したい。

参考文献

- | | | |
|----------|------|---|
| 宮古市教育委員会 | 1979 | 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』宮古市埋蔵文化財調査報告書1 |
| 宮古市教育委員会 | 1987 | 『崎山遺跡群Ⅰ—昭和61年度発掘調査概報—』宮古市埋蔵文化財調査報告書13 |
| 宮古市教育委員会 | 1989 | 『崎山遺跡群Ⅲ—昭和63年度発掘調査概報—』宮古市埋蔵文化財調査報告書18 |
| 宮古市教育委員会 | 1992 | 『金浜Ⅰ遺跡・大付遺跡発掘調査報告書』宮古市埋蔵文化財調査報告書30 |
| 宮古市教育委員会 | 1992 | 『大付遺跡—平成3年度発掘調査報告書—』宮古市埋蔵文化財調査報告書35 |
| 宮古市教育委員会 | 1996 | 『大付遺跡—平成5年度、平成6年度発掘調査報告書—』宮古市埋蔵文化財調査報告書48 |
| 宮古市教育委員会 | 2003 | 『大又沢Ⅱ遺跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書59 |
| 宮古市教育委員会 | 2006 | 『崎山貝塚第20次調査・早稲栃Ⅱ遺跡第7次調査—市内遺跡発掘調査報告書6—』
宮古市埋蔵文化財調査報告書66 |
| 山内清男 | 1930 | 「所謂亀ヶ岡式土器と縄文式土器の終末」『考古学』1—3 |

写 真 图 版



1. 大付遺跡 航空写真1



2. 大付遺跡 航空写真2



3. 第1号炉跡完掘狀況 (西→)



4. 第1号炉跡土層堆積狀況 (北西→)



5. 第1号炉跡内炉体土器検出狀況1 (南東→)



6. 第1号炉跡内炉体土器検出狀況2 (西→)



7. 第23号土坑土層堆積狀況 (北西→)



8. 第22号土坑埋納土器出土狀況（北東→）



9. 第22号土坑C 2、C 3層出土埋納土器出土狀況（北東→）



10. 第22号土坑土器出土状况 1
(北東→)



11. 第22号土坑土器出土状况 2
(南→)



12. 第22号土坑土器出土状况 3
(北東→)



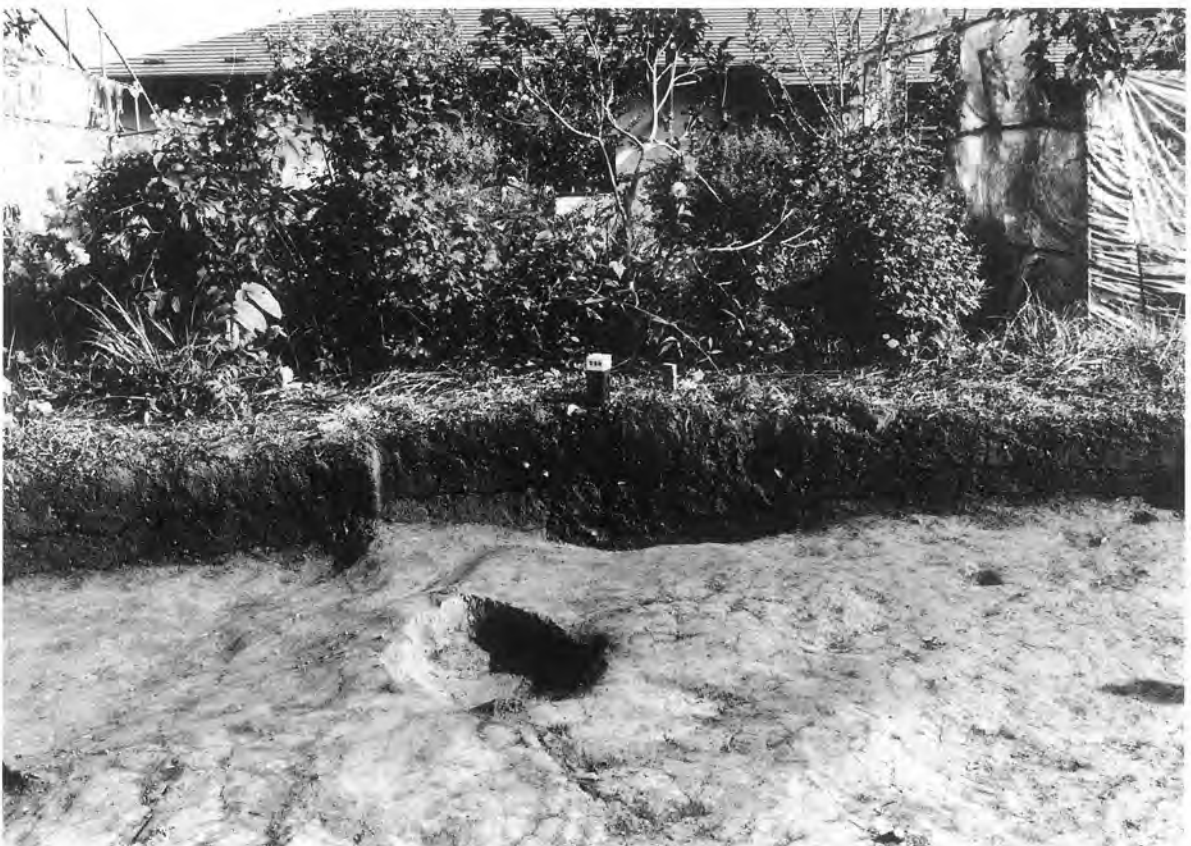
13. 調査前全景 (南→)



14. 調査区設定状況 (北東→)



15. 調査区内完掘時全景（北東→）



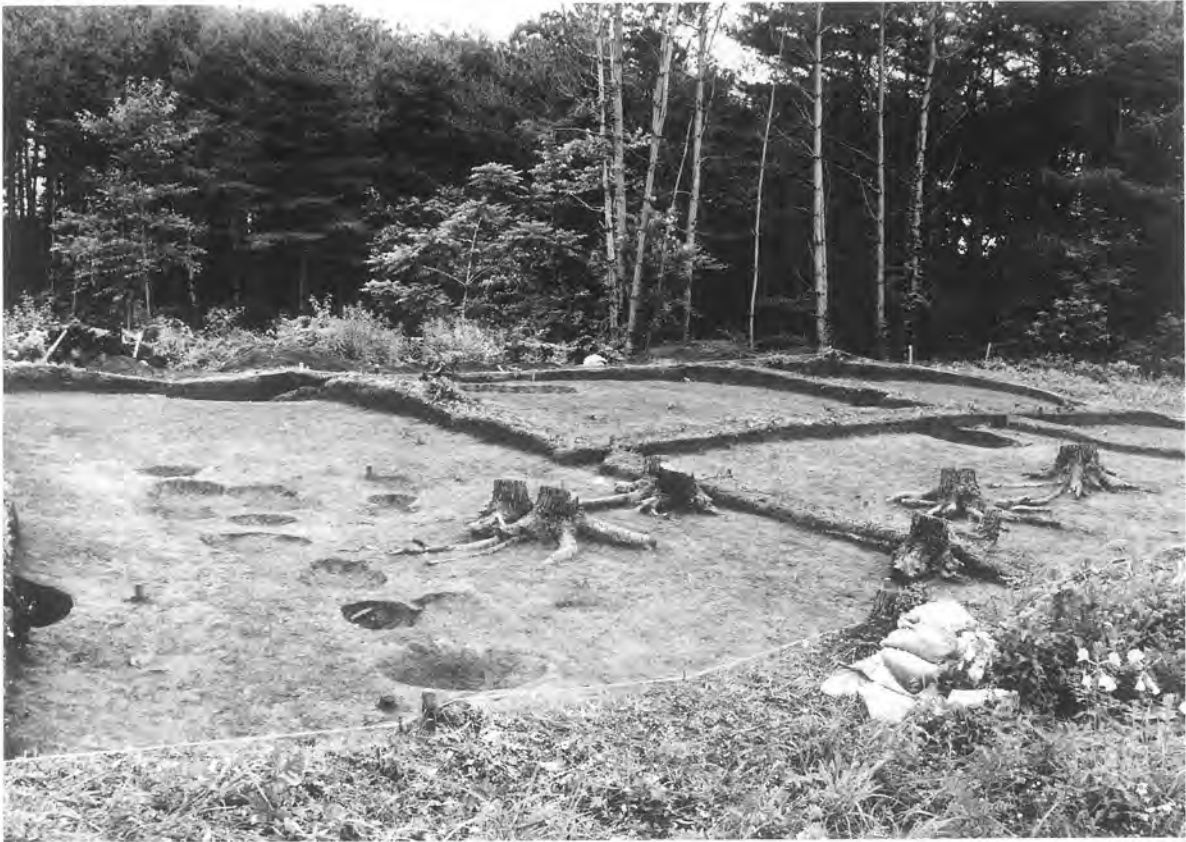
16. 第10次調査区内土層堆積状況（北西→）



17. 調査区内完掘状況 (南→)



18. 調査区南西部第20~23号土坑近景 (北東→)



19. 第11次調査区内土層堆積状況1 (南→)



20. 第11次調査区内土層堆積状況2 (北→)



21. 調査区西部堆積土完掘 (北東→)



22. 調査区中央部堆積土完掘 (南東→)



23. 調査区南西部堆積土完掘 (北東→)



24. 調査区南部堆積土完掘 (北東→)



25. 第1号攪乱完掘 (南東→)



26. 第2号攪乱完掘 (南東→)



27. 第3号攪乱完掘 (南西→)



28. 調査区南西部攪乱確認状況 (北東→)



29. 第1号炉跡炉体土器検出状況 (南→)



30. 第1号炉跡埋土断面 (南東→)



31. 第1号炉跡埋土断面 (南西→)



32. 第1号炉跡完掘 (南東→)



33. 第1号炉跡炉体土器出土状況 (南西→)



34. 第1号炉跡焼土層断面 (南西→)



35. 第1号炉跡掘り方完掘 (西→)



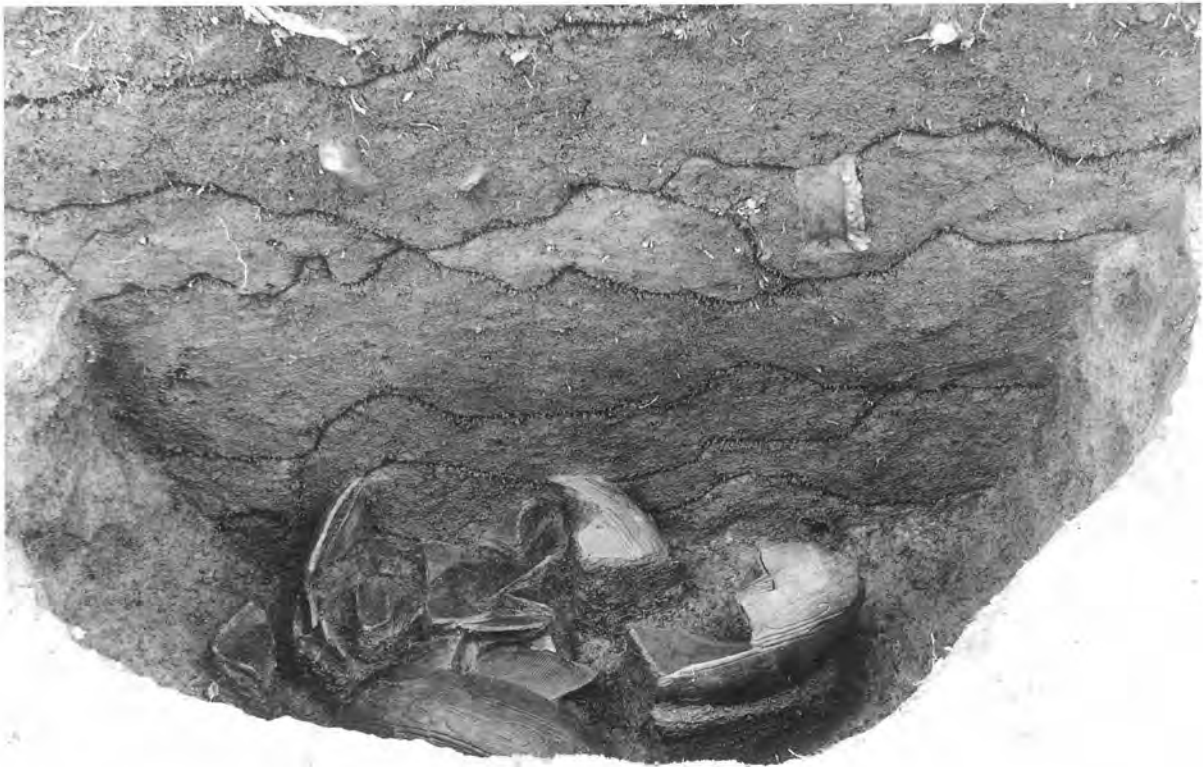
36. 第19号土坑土層堆積状況 (北東→)



37. 第20号土坑土层堆积状况 (北东→)



38. 第21号土坑土层堆积状况 (北东→)



39. 第22号土坑土器出土状况 (北东→)



40. 第22号土坑检出状况 (北东→)



41. 第22号土坑近景 (北西→)



42. 第22号土坑土器出土状况 1 (北東→)



43. 第22号土坑土器出土状况 2 (南東→)



44. 第22号土坑土器出土状况 3 (北東→)



45. 第22号土坑土器出土状况 4 (東→)



46. 第22号土坑土層堆積状况 (北東→)



47. 第22号土坑調査区内完掘 (北東→)



48. 第23号土坑上面完掘 (北西→)



49. 第23号土坑土層堆積状況 (北西→)



50. 基本土層IV層石核出土状況 (南東→)

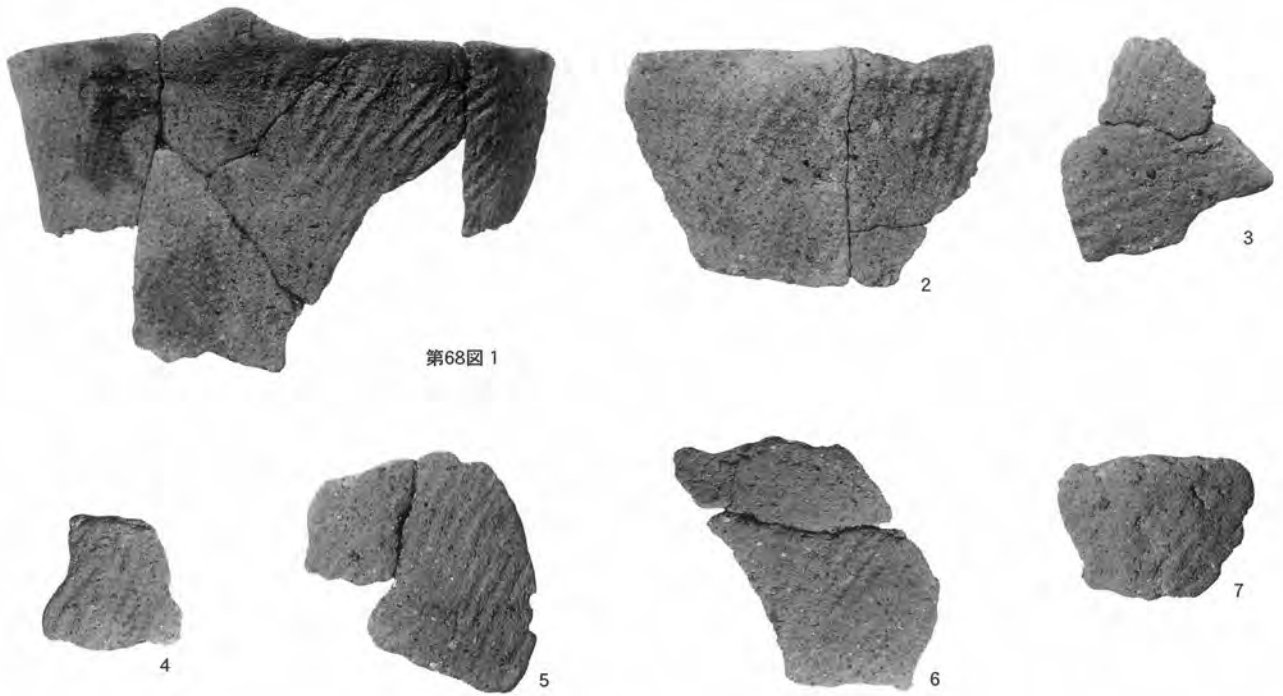


51. 調査区西部深掘り土層堆積状況 (北東→)

第 1 号炉跡出土土器



第 19 号土坑出土土器



第68図 1

52. 遺構内出土土器 1

第22号土坑出土土器



第73图 1

第20号土坑出土土器



第70图 1

第23号出土土器



第75图 1



2



3



4



5



6



7



8

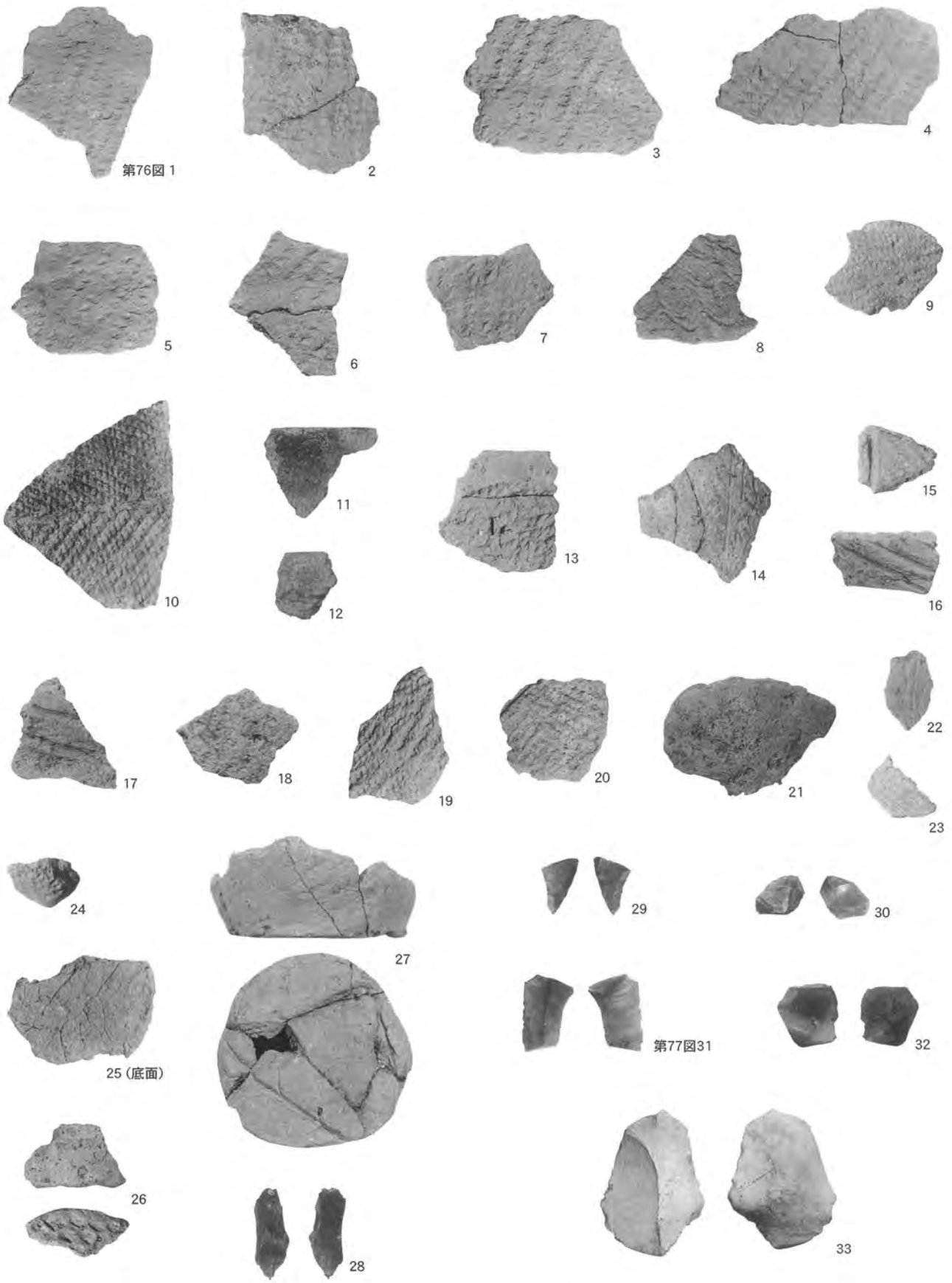


9



10

53. 遺構内出土土器 2



54. 遺構外出土遺物 1



34



35



36



第78図37



38



39



40



41



42



43



44

55. 遺構外出土遺物 2

報告書抄録

ふりがな	うしざわいせき・おおづけいせきだい11じちょうさ							
書名	牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査							
副書名	市内遺跡発掘調査報告書							
巻次	7							
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	72							
編著者名	長谷川真 江口邦泰							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒027-8501 岩手県宮古市新川町2番1号 TEL.0193-62-2111 FAX.0193-63-9119							
発行年月日	2007/3/23							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うしざわいせき 牛沢遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 おおあざやまぐちだい ちわり 大字山口第13地割 あざうしざわ 字牛沢2-1	03202	LG23-1233	39°39'40"	141°55'48"	170407~ 170624	148m ²	個人倉庫 建築に伴う 発掘調査
おおづけいせき 大付遺跡 だいじちょうさ 第11次調査	いわてけんみやこしおおあざ 岩手県宮古市大字 くわがさきだい ちわり 畷ヶ崎第14地割 8-3	03202	LG14-2291	39°40'29"	141°58'21"	170607~ 170818	292m ²	個人住宅 建築に伴う 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
牛沢遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡6棟 土坑7基 焼土遺構2基 遺物包含層 ピット27基	縄文土器・石器		縄文時代中期末葉の竪穴住居跡 が6棟検出され、概期の集落跡 が見つかった。		
大付遺跡	集落跡	縄文時代・弥生時代	土坑5基 炉跡1基	縄文土器・石器・銭貨		縄文時代晩期中葉の土坑が検出 された。		

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

- | | |
|---|--|
| 1 1979 「宮古市大付遺跡発掘調査報告書」 | 41 1995 「崎山遺跡群Ⅷー平成5年度発掘調査概報ー」 |
| 2 1980 「宮古市千徳遺跡発掘調査概報」 | 42 1995 「赤前Ⅰ牛子沢遺跡ー平成4年度発掘調査報告書ー」 |
| 3 1983 「宮古市遺跡分布調査報告書1」 | 43 1995 「磯鷗館山遺跡発掘調査報告書」 |
| 4 1984 「宮古市遺跡分布調査報告書2」 | 44 1995 「崎山貝塚ー範囲確認調査報告書ー」 |
| 5 1984 「赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書」 | 45 1995 「笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・塚ノ神遺跡
ー市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書」 |
| 6 1985 「宮古市遺跡分布調査報告書3」 | 46 1995 「花原市遺跡ー平成4年度発掘調査報告書ー」 |
| 7 1985 「金浜館跡発掘調査報告書」 | 47 1995 「宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋Ⅱ遺跡・崎山貝塚」 |
| 8 1986 「宮古市遺跡分布調査報告書4」 | 48 1996 「大付遺跡ー平成5年・6年度発掘調査報告書ー」 |
| 9 1986 「宮古市遺跡分布図ー昭和60年度版ー」 | 49 1997 「花原市遺跡ー平成8年度発掘調査報告書ー」 |
| 10 1986 「中谷地・島田遺跡調査報告書」 | 50 1997 「白石遺跡ー第6次発掘調査報告書ー」 |
| 11 1987 「崎山貝塚・トノ木Ⅳ遺跡調査報告書」 | 51 1998 「赤畑・天神山・山口館
ー北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書ー」 |
| 12 1987 「寒風・早稲橋Ⅳ遺跡調査報告書」 | 52 1998 「藤畑遺跡ー平成9年度発掘調査報告書ー」 |
| 13 1987 「崎山遺跡群Ⅰー昭和61年度発掘調査概報ー」 | 53 1999 「赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢小堀内Ⅲ遺跡
ー水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書ー」 |
| 14 1988 「青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀合館)
ー昭和62年度発掘調査報告書ー」 | 54 1999 「千鶴遺跡Ⅳー水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告書ー」 |
| 15 1988 「崎山遺跡群Ⅱー昭和62年度発掘調査概報ー」 | 55 1999 「崎山貝塚ー第12次・13次内容確認調査概報ー」 |
| 16 1989 「千鶴遺跡ー昭和62年度発掘調査報告書ー」 | 56 2000 「木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡ー特別高圧送電線ラサ
工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財調査報告書ー」 |
| 17 1989 「トノ木Ⅰ遺跡ー第1～7次発掘調査報告書ー」 | 57 2002 「山口館跡ー北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書ー」 |
| 18 1989 「崎山遺跡群Ⅲー昭和63年度発掘調査概報ー」 | 58 2002 「小沢Ⅱ大上遺跡ー市内遺跡発掘調査報告書2ー」 |
| 19 1989 「高根遺跡ー昭和63年度発掘調査報告書ー」 | 59 2003 「大又沢Ⅱ遺跡ー東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調
査報告書ー」 |
| 20 1989 「狐崎Ⅱ遺跡ー昭和63年度発掘調査報告書ー」 | 60 2003 「上根井沢Ⅰ遺跡・沼里遺跡ー市内遺跡発掘調査報告書3ー」 |
| 21 1989 「崎山トノ木Ⅳ遺跡ー昭和63年度調査報告書ー」 | 61 2003 「早稲橋Ⅱ遺跡第6次調査ー市内遺跡発掘調査報告書4ー」 |
| 22 1990 「狐崎遺跡ー平成元年度発掘調査報告書ー」 | 62 2003 「下在家Ⅰ遺跡ー平成14年度発掘調査報告書ー」 |
| 23 1990 「崎山遺跡群Ⅳー平成元年度発掘調査概報ー」 | 63 2004 「大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡ー市道開伊崎線改良工事関係埋蔵文化財調査報告書ー」 |
| 24 1990 「磯鷗館山遺跡ー昭和63年度発掘調査報告書ー」 | 64 2005 「弘川館跡ー瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書ー」 |
| 25 1990 「鍛ヶ崎館山貝塚ー平成元年度発掘調査報告書ー」 | 65 2006 「高浜Ⅵ地神遺跡発掘調査ー高浜四丁目宅地造成工事関係発掘
調査報告書ー」 |
| 26 1991 「崎山遺跡群Ⅴー平成2年度発掘調査概報ー」 | 66 2006 「崎山貝塚第20次調査・早稲橋Ⅱ遺跡第7次調査ー市内遺跡発掘
調査報告書5ー」 |
| 27 1991 「青猿Ⅰ・千徳城遺跡群ー平成元年・2年度発掘調査報告書ー」 | 67 2006 「八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込Ⅰ遺跡ー市道岸ノ
前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書ー」 |
| 28 1990 「熊野町遺跡ー昭和63年度発掘調査報告書ー」 | 68 2006 「木戸井内Ⅳ遺跡ー宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘
調査報告書ー」 |
| 29 1991 「弘川Ⅰ遺跡ー平成2年度発掘調査報告書ー」 | 69 2006 「菅ノ沢遺跡発掘調査ー市内遺跡発掘調査報告書6ー」 |
| 30 1992 「金浜Ⅰ遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)
発掘調査報告書」 | 70 2007 「山口館跡ー市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査
報告書ー」 |
| 31 1992 「重茂館遺跡群ー第1次調査報告書ー」 | 71 2007 「近内館跡ー宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発
掘調査報告書ー」 |
| 32 1992 「黒森町Ⅰ遺跡ー平成2年度発掘調査報告書ー」 | 72 2007 「牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査ー市内遺跡発掘調査報告書7ー」 |
| 33 1992 「高根遺跡ー平成3年度発掘調査報告書ー」 | |
| 34 1992 「鯉沢遺跡群ー平成2年度発掘調査報告書ー」 | |
| 35 1992 「大付遺跡ー平成3年度発掘調査報告書ー」 | |
| 36 1992 「細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡
ー農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書ー」 | |
| 37 1992 「崎山遺跡群Ⅳー平成3年度発掘調査概報ー」 | |
| 38 1996 「萩沢Ⅱ遺跡ー平成4年度発掘調査報告書ー」 | |
| 39 1993 「早稲橋Ⅱ遺跡ー第1次・第2次発掘調査報告書ー」 | |
| 40 1993 「崎山遺跡群Ⅶー平成4年度発掘調査概報ー」 | |

宮古市埋蔵文化財調査報告書72

牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査

ー市内遺跡発掘調査報告書7ー

平成19年3月23日発行

発行 岩手県宮古市教育委員会
〒027-8501 宮古市新川町2番1号
TEL 0193-62-2111

印刷 花坂印刷工業株式会社
〒027-0081 宮古市新川町1番2号
TEL 0193-62-3125

